診療科案内

TREATMENT GUIDE
2024-2025

DOKKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

獨協医科大学病院

特定機能病院

INDEX

ごあいさつ …… 1
理念 …… 2
基本方針 …… 2
概要 …… 3
外来受診のご案内 …… 4
診療に関するお問い合わせ …… 5
外来フロアのご案内 …… 6

診療部門（内科系）

心臓・血管内科／循環器内科 …… 8
消化器内科 …… 10
血液・腫瘍内科 …… 12
腎臓・高血圧内科 …… 14
脳神経内科 …… 16
内分泌代謝内科 …… 18
呼吸器・アレルギー内科 …… 20
リウマチ・膠原病内科 …… 22
精神神経科 …… 24
皮膚科 …… 26
放射線科 …… 28
小児科 …… 30
健診センター …… 32
病理診断科 …… 34
総合診療科 …… 36

診療部門（外科系）

上部消化管外科（一般外科） …… 40
下部消化管外科（一般外科） …… 42
肝・胆・膵外科（一般外科） …… 44
小児外科 …… 46
心臓・血管外科 …… 48
呼吸器外科 …… 50
脳神経外科 …… 52
整形外科 …… 54
泌尿器科 …… 56
眼科 …… 58
耳鼻咽喉・頭頸部外科 …… 60
産科婦人科 …… 62
口腔外科 …… 64
リハビリテーション科 …… 66
形成外科・美容外科 …… 68
救急・集中治療科 …… 70
乳腺センター …… 72

中央系部門

麻酔部（ペインクリニック） …… 74
認知症疾患医療センター …… 76
総合周産期母子医療センター …… 78
とちぎ子ども医療センター …… 80
消化器内視鏡センター …… 82
呼吸器内視鏡センター …… 83
PETセンター …… 84
総合がん診療センター …… 86
超音波センター …… 88
睡眠医療センター …… 89
ハートセンター …… 90
臨床検査センター …… 91
リウマチセンター …… 92
前立腺センター …… 94
再生医療センター …… 96
放射線治療センター …… 97
血液浄化センター …… 98
脳卒中センター …… 99
糖尿病センター …… 100
ロボット手術支援センター …… 101
スポーツ医学センター …… 102
リプロダクションセンター …… 103
アレルギーセンター …… 104
放射線部 …… 106
病理部 …… 107
手術部 …… 108
時間外救急部 …… 109
輸血部 …… 110
遺伝・ゲノム診療部 …… 111

各種部門

医療安全推進センター …… 114
感染制御センター …… 115
臨床研究管理センター …… 116
看護部 …… 117
薬剤部 …… 118

地域連携・患者サポートセンター

地域連携・患者サポートセンター …… 120

ごあいさつ

獨協医科大学病院長
麻生　好正

令和４年（2022年）４月１日より当院の病院長に就任いたしました麻生好正です。
平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

獨協医科大学の母体である獨協学園は、1881（明治14）年に創立された獨逸学協会をルーツとする140年余の歴史ある学園です。1973（昭和48）年４月に獨協医科大学が開学となり、翌年７月に獨協医科大学病院が開院しました。当院の理念として「医療倫理の徹底」「高度で良質な医療の提供」「医療の進歩への貢献」「連携医療の構築」「良質な医療人の育成」の５つを掲げ、当院は臨床・研究・教育の全ての面で発展してまいりました。2023年４月に本学は創立50周年を迎え、記念事業として、キャンパス再整備の一環である総合教育研究棟（仮称）が目下建設中にあり、2025年夏に完成予定です。また、今年2024年に当院は開院50周年記念の年になります。

当院は特定機能病院として高度先端医療の提供を維持し、高度急性期病院の役割を果たしております。特に移植医療に重点を置き、生体肝移植・膵腎同時移植・肺移植・骨髄移植・角膜移植など数多く実施しています。1,195床（許可病床）を有する北関東最大のメディカルセンターとして、三次救急医療・高度救急医療の提供に努めており、今後もドクターヘリ稼働数や救急車受け入れ台数を増加させ、地域の救急医療を支えていきます。新型コロナウイルス感染症の対応（特に重症患者の治療）でも地域医療に貢献致しました。災害拠点病院としても、災害派遣医療チームや災害派遣精神医療チームが、大地震・新型コロナ感染症対応などの災害時に出動して重要な役割を果たしています。

総合周産期母子医療センターは重症の妊婦や新生児に高度医療を提供しています。がんゲノム医療についても「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け積極的に取り組んでいます。今後はハイブリッド手術室およびロボット支援手術室を増設し、手術数の増加により近隣の医療機関の負託に応えていきます。
新設したリプロダクションセンター（不妊治療）は順調に稼働しており、現在32の診療科、25のセンターを擁する充実した診療体制にあります。昨年４月にγナイフ新機種「Esprit」が世界で２番目、国内で初導入され、γナイフ治療がより短時間で治療できるようになり、治療症例が倍増しています。昨年開設したHCU（高度治療室）は現在８床で稼働しており、高度急性期・急性期医療提供体制の充実を図っています。
本年４月より大腸外科が「下部消化管外科（一般外科）」として講座化し、新教授の指導の下充実した体制になりました。
広報活動の一環として、当院のスーパードクター達の紹介をDOKKYO MEDICAL SCOPEと題してYouTube配信しておりますので、ご視聴のうえ、チャンネル登録いただけますと幸いです。

当院は北関東自動車道壬生インター出口からほぼ直結した好立地にあり、栃木県のみならず、北関東にお住いの患者さんにとって自動車で大変アクセスしやすい病院です。
今後も職員一丸となり、患者さんを中心とした、患者さんに寄り添う良質で高度な医療を提供してまいります。すべての患者さん・ご家族に「獨協医科大学病院を選んでよかった」と思われる病院を目指して、日々全力を尽くしていく所存です。皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

理　念

1. 医療倫理の徹底

生命の尊厳と権利を尊重し、高い倫理観を持って病める人々の為に全力を尽くす。

2. 高度で良質な医療の提供

最高の可能性を求める医療を提供するため、患者視点に立ち、弛まぬ自己研鑽に努め、高水準の知識や技術を全ての人々のために提供する。

3. 医療の進歩への貢献

社会へ貢献するため病の撲滅、人々の平和と幸せの為の真理の探究をめざし、先端医療への道を研究機関としても鋭意努力する。

4. 連携医療の構築

特定機能病院として高度先端医療の提供と、地域社会の中核となる医療センターであるとの自負を持ち、地域の他医療機関との良好な関係を築き地域医療包括ケアを実践する。

5. 良質な医療人の育成

大学病院は、教育機関として学生及び教職員を世界に貢献する人材としての良質な医療人に育成する。共通の認識を持って病と対峙するチーム医療が遂行でき、良質で安全な医療遂行の一員として成長させる。

基本方針

1. 生命の尊厳と権利の尊重

生命の尊厳と権利を尊重し、医療従事者として常に高い倫理観を持って自己の確立と医療倫理を徹底する。

2. 高度で先進的な医療の追求

弛まぬ自己研鑽のもと、最先端の医療を取り入れ、高度で良質な医療を提供する。

3. 先端医療の開拓と真理の探究

大学病院は、研究機関として人材、施設、設備を有効に活用した真理の探究から、先端医療への道を開拓し、人道に基づいて人と病との関係を真摯に探求し、蓄積し、医学、医療の進歩に貢献する。

4. チーム医療の推進

良質で安全な医療を遂行するために多職種がそれぞれの能力を発揮し協働することによるチーム医療を推進し、全職員が誇りを持って働ける職場づくりを実践する。

5. 地域医療の確立

特定機能病院であるとともに、地域社会の医療センターであるとの自負を持って、地域の他医療機関との良好な関係を築き地域医療包括ケアを実践する。

6. 学生の教育

教育機関である大学病院として、医の倫理に基づき、良質な医療人を育成すべく医学生、看護学生等への教育を推進する。

7. 地域住民の健康と予防医学の達成

地域の人々との交流を通し、持ちうる知識や技術を地域住民の健康や予防医学のために提供する。

概　要

■名　　称：学校法人 獨協学園 獨協医科大学病院
■住　　所：〒321-0293
　　栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地
■電　　話：0282-86-1111(代表)

■病　院　長：麻生　好正

■開院年月日：昭和49年7月17日

■許可病床数：1,195床（一般1,153床・精神42床）

■職　員　数：2,767名（2024年4月1日現在）

■外来患者数（1日平均）：2,069名（2023年度実績）

■入院患者数（1日平均）：921名（2023年度実績）

■標 榜 科 目：

心臓・血管内科	消化器内科	血液・腫瘍内科	循環器内科
腎臓内科	脳神経内科	内分泌代謝内科	呼吸器・アレルギー科
リウマチ科	精神科	皮膚科	放射線科
小児科	麻酔科	病理診断科	内科
外科	小児外科	心臓・血管外科	呼吸器外科
脳神経外科	整形外科	泌尿器科	眼科
頭頸部・耳鼻咽喉科	産婦人科	歯科口腔外科	歯科
小児歯科	矯正歯科	リハビリテーション科	
形成外科・美容外科	乳腺外科	救急科	

■外来休診日：日曜日・祝日・第3土曜日、
　　年末年始（12月29日～1月3日）
　　開学記念日（4月23日）

■救 急 体 制：3次救急

■拠点病院･その他：

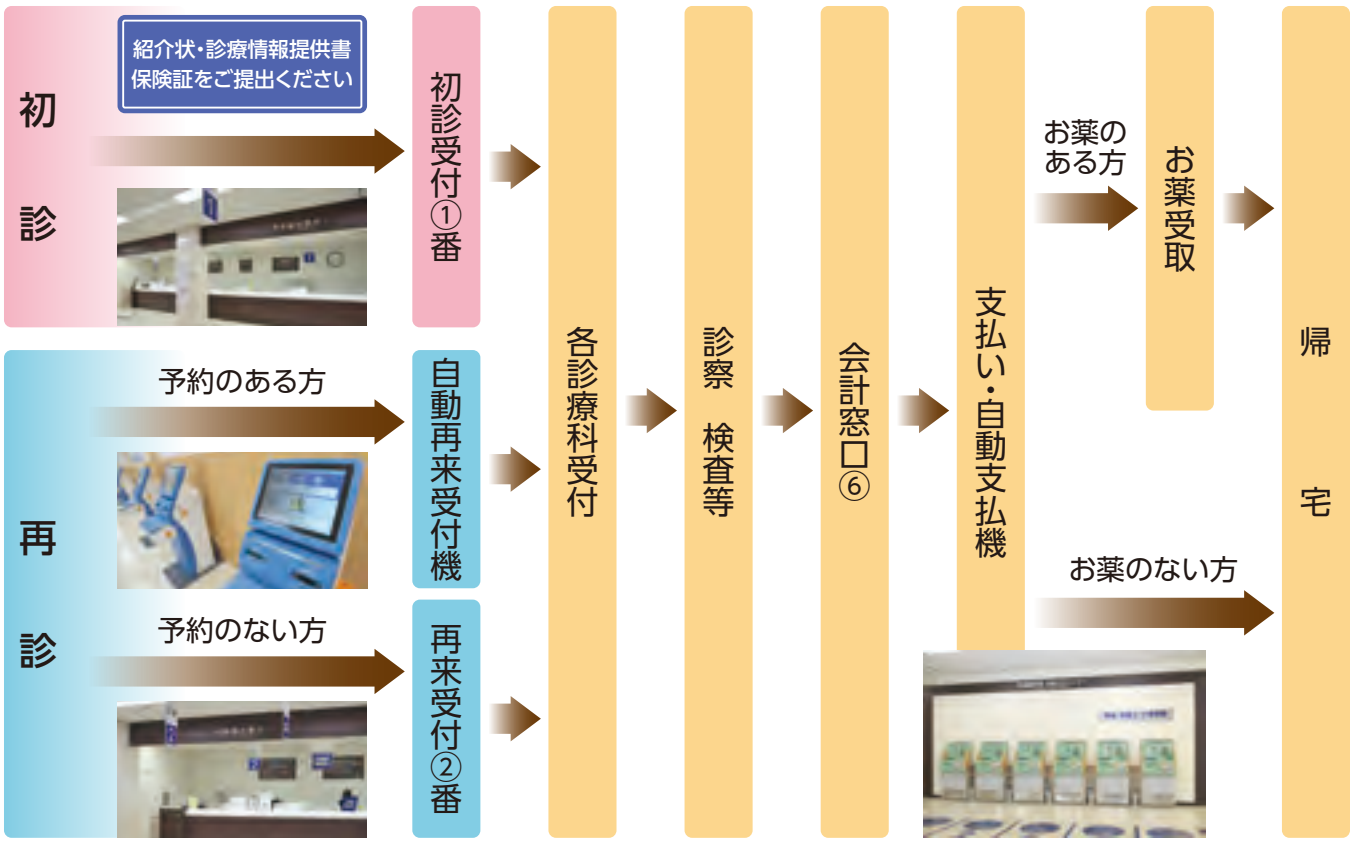
特定機能病院	栃木県肝疾患診療連携拠点病院
とちぎ子ども医療センター	総合周産期母子医療センター
認知症疾患医療センター	地域がん診療連携拠点病院
栃木県ドクターヘリ基地病院	PETセンター
救命救急センター（3次救急医療）	エイズ中核拠点病院
病院群輪番制病院（2次救急医療）	地域災害拠点病院
DMAT指定医療機関	臓器移植登録施設（肺・腎臓）
がんゲノム医療連携病院	難病診療連携拠点病院
栃木県アレルギー疾患医療拠点病院	

外来受診のご案内

○受付時間　月曜日～土曜日　　8:00 ～ 13:00
○診療時間　月曜日～土曜日　　9:00 ～ 16:30

※休診日：日曜日、祝日、第3土曜日、年末年始（12月29日～1月3日）、開学記念日（4月23日）

患者さんの外来受診のながれ



診療までの手順

1. 「紹介状（診療情報提供書）」を患者さんにお渡しください。
   他の病院・診療所からの紹介状をお持ちでない患者さんにつきましては、保険診療の自己負担金のほかに、初診時選定療養費7,700円（税込）、または再診時選定療養費3,300円（税込）をいただいておりますのでご注意願います。
2. 外来受付時間内に来院し、初診受付へ「紹介状（診療情報提供書）」および「保険証」をご提出いただくようご案内ください。

※診療科によって受付時間が異なる場合がございますので、ご不明な場合は次ページ各診療科窓口にお問い合わせください。

※専門外来および一部診療科は予約制になっております。事前予約等につきましては次ページの診療科へ直接お問い合わせください。また、患者さんの待ち時間短縮には鋭意、努力しておりますが、予約の時間が確定できないこともございますこと何卒ご理解をお願い申し上げます。

診療に関するお問い合わせ

＊**紹介患者さんの診療に関するお問い合わせは、各診療科外来が窓口**となりますので下記にご連絡ください。患者さんの病状を伺い対応させていただきます。
＊左記以外の時間帯（夜間・休診日）は、**時間外救急部（87-2199）**が窓口になります。
＊緊急を要する場合は、その旨お申し出ください。

市外局番は、すべて**0282**です。

診療科の連絡先（ダイヤルイン）

	診療科名	問い合わせ先
内科系	心臓・血管内科/循環器内科	87-2191
	消化器内科	87-2192
	血液・腫瘍内科	87-2193
	腎臓・高血圧内科	87-2195
	脳神経内科	87-2198
	内分泌代謝内科	87-2196
	呼吸器・アレルギー内科	87-2197
	リウマチ・膠原病内科	87-2506
	精神神経科	87-2186
	皮膚科	87-2200
	放射線科	87-2177
	とちぎ子ども医療センター	87-2201
	健診センター	87-2216
	病理診断科	87-2180
	総合診療科	87-2054

外科系	上部消化管外科（一般外科）	87-2202
	下部消化管外科（一般外科）	87-2203
	肝・胆・膵外科（一般外科）	87-2203
	心臓・血管外科	87-2206
	呼吸器外科	87-2206
	脳神経外科	87-2205
	整形外科	87-2207
	泌尿器科	87-2208
	眼科	87-2209
	耳鼻咽喉・頭頸部外科	87-2210
	産科婦人科	87-2211
	口腔外科	87-2212
	リハビリテーション科	87-2215
	形成外科・美容外科	87-2488
	救急・集中治療科	87-2477
	乳腺科（乳腺センター）	87-2084

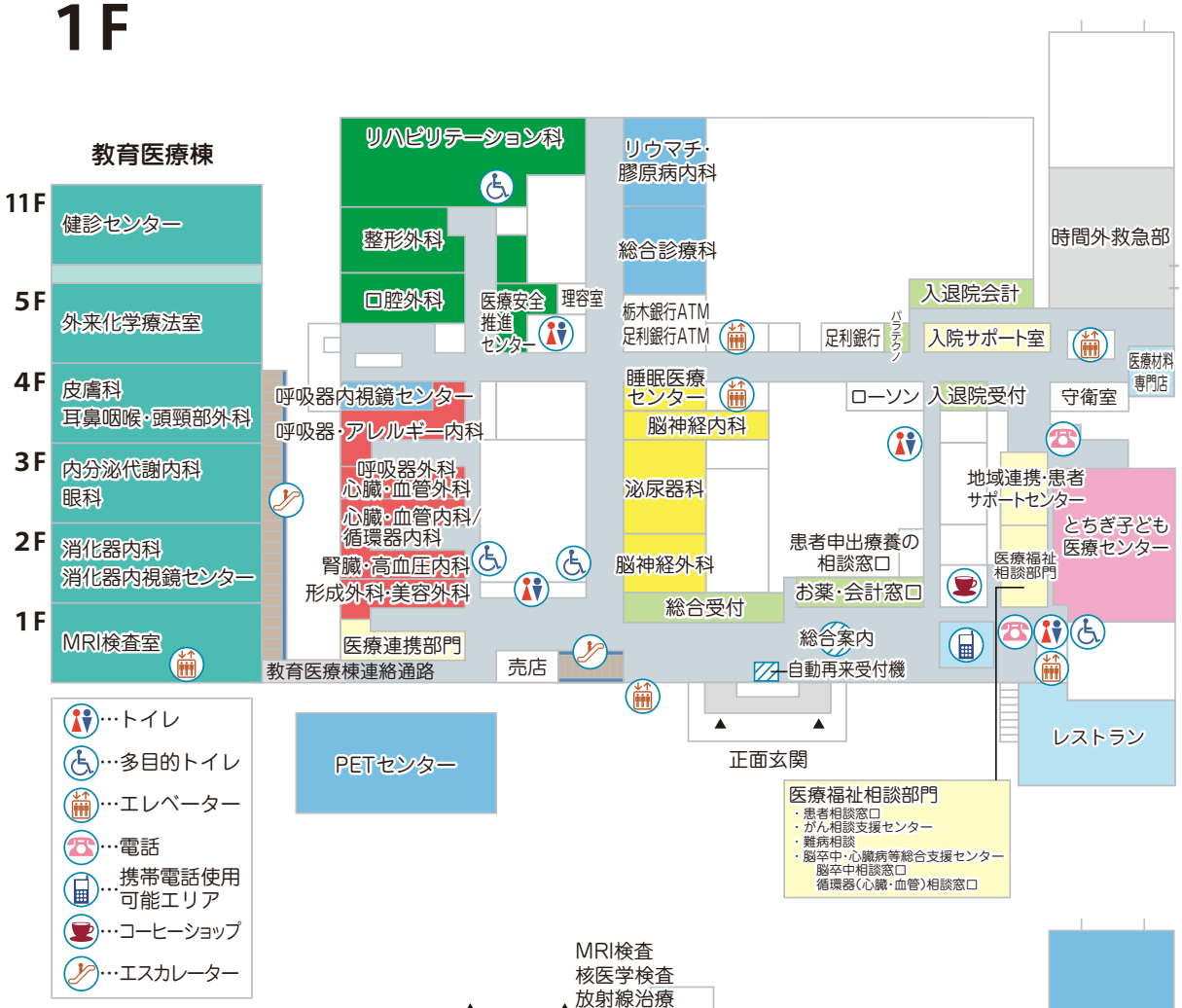
	診療科名	問い合わせ先
中央系	麻酔部（ペインクリニック）	87-2213
	認知症疾患医療センター	87-2251
	総合周産期母子医療センター（母体搬送） （新生児搬送）	87-2218 87-2217
	消化器内視鏡センター	87-2183
	呼吸器内視鏡センター	87-2120
	超音波センター	87-2290
	PETセンター	85-1166
	総合がん診療センター	87-2053
	睡眠医療センター	87-2510
	ハートセンター（内科） （外科）	87-2191 87-2206
	リウマチセンター（内科） （外科）	87-2506 87-2207
	臨床検査センター	87-2175
	前立腺センター	87-2208
	放射線治療センター	87-2178
	血液浄化センター	87-2182
	アレルギーセンター	86-1111㈹
	リプロダクションセンター	87-2242

関連部署の連絡先

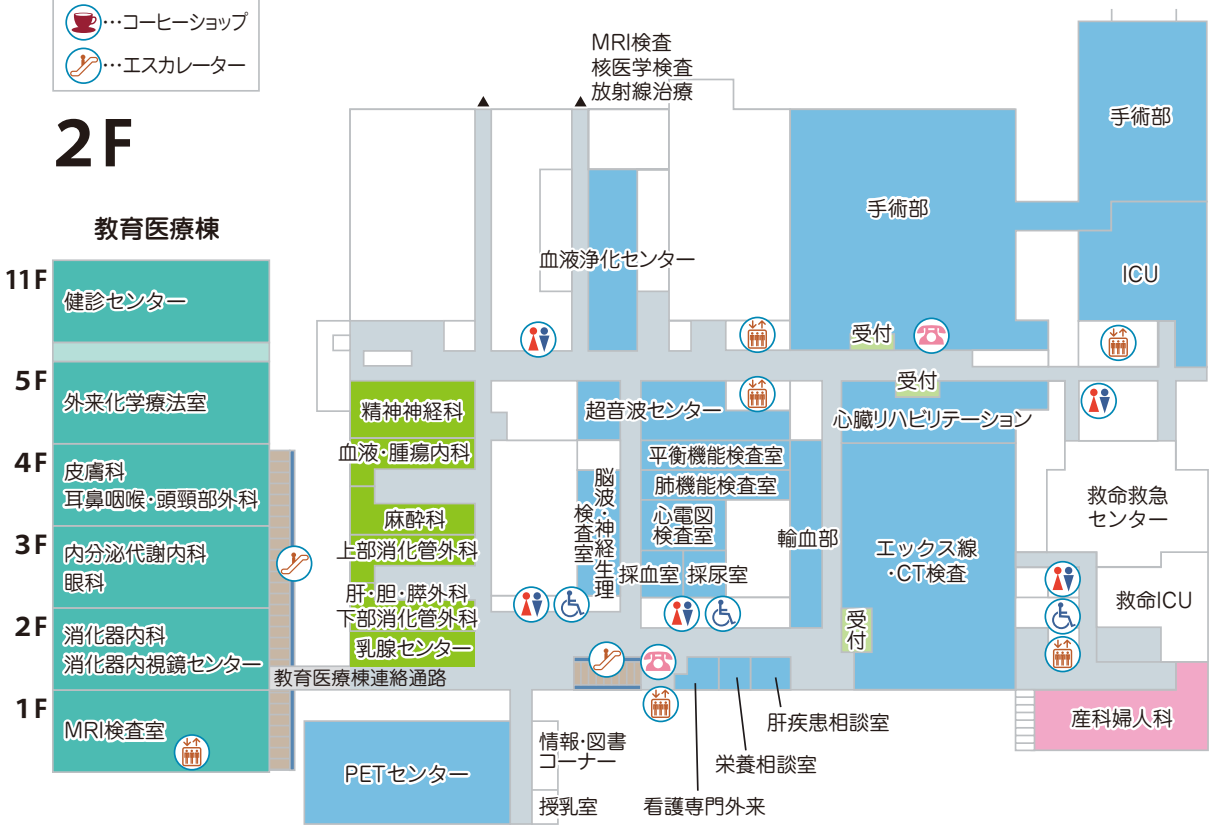
部署名	問い合わせ先
放射線部	87-2177
病理部	87-2180
手術部	87-2181
輸血部	87-2187
感染制御センター	87-2418
看護部	87-2395
薬剤部	87-2246
地域連携・患者サポートセンター 医療連携部門 医療福祉相談部門 難病サポート部門 入退院・在宅サポート部門 入院サポート室 退院サポート室 在宅サポート室	 87-2383 87-2185 87-2051 87-2059 87-2051 87-2051

外来フロアのご案内

1F



2F



診療部門（内科系）のご案内

心臓・血管内科 / 循環器内科

□ 診療内容

当科は、心臓疾患や末梢血管疾患、肺循環疾患、睡眠時無呼吸症候群の診療を行っており、専門的な診療体制を敷き、24時間365日対応しています。

【疾患名】

心臓疾患

狭心症、心筋梗塞、心不全（移植を考慮した重症心不全含む）、心筋炎、心筋症（薬剤性心筋症、ファブリー病含む）、感染性心内膜炎、心臓弁膜症（高齢者の大動脈弁狭窄症含む）、睡眠時無呼吸、不整脈（心房細動、致死性不整脈含む）

末梢血管疾患

閉塞性動脈硬化症（重症虚血肢、バージャー病含む）

肺循環疾患

肺高血圧、肺塞栓、深部静脈血栓症

睡眠時無呼吸症候群

【主な検査とその説明】

心臓超音波検査（心エコー）

心臓の形態、動き、血流を直接その場で観察します。経胸壁、経食道エコーや負荷エコー等施行しています。当院は日本超音波学会の専門医研修認定施設です。

心臓カテーテル検査

カテーテルを挿入し、心機能の評価や冠動脈造影検査、心臓、肺動脈、末梢動脈の造影検査を行っています。狭心症の検査は短期（2から3日）の入院が基本です。

心臓電気生理検査

カテーテルを挿入し詳しい不整脈の診断・治療を行います。検査も短期の入院（3から4日）で実施でき、CARTO systemやEnSite Systemを導入し診断精度を上げています。

ループ式植え込み型心電計

ホルター心電図より長期間心電図を記録することで、失神の原因特定や、脳梗塞発症の原因が心房細動によるものか診断するのに有効です。

睡眠ポリグラフ検査

夜間だけの入院で精密検査を行っています。

【得意とする治療】

経皮的冠動脈形成術（PCI）、末梢血管カテーテル治療（EVT）

狭心症や心筋梗塞の原因である冠動脈や末梢動脈の狭窄や閉塞に対し、大腿や腕の動脈からカテーテルを挿入し冠動脈、末梢動脈を再開通させる治療法です。当科は日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定され、年間約700症例の治療を行っております。

高周波カテーテルアブレーション（焼灼術）

WPW症候群や上室性頻脈、心房細動や心房粗動、心室性期外収縮や心室頻拍などに対し治療を行っています。特に心房細動治療において、高周波アブレーション、クライオバルーン、ホットバルーンを駆使し、成功率が向上しています。当科は日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設に認定され、年間約300症例に治療を行っております。

恒久式ペースメーカー

徐脈性不整脈、房室ブロックを対象に恒久式ペースメーカー植え込み術を行っています。また当施設はリードレスペースメーカー認定施設でもあります。

植え込み型除細動器（ICD）

難治性の心室性不整脈症例にICD 植え込み術を行っています。当施設では皮下植込み型除細動器（S-ICD）の認定施設でもあります。

心臓再同期療法（CRT、CRT-D）

重症心不全治療として心臓再同期療法（CRT）を行っています。難治性の心室性不整脈合併症例には除細動機能を備えたCRT-Dの植え込み術を行っています。

心臓リハビリテーション

急性心筋梗塞、慢性心不全改善後の運動指導、安全管理、危険因子管理、心のケアなどを総合的に行い再発予防に努めます。また下肢閉塞性動脈硬化症に対する運動リハビリテーションも行っています。入院症例延べ200人/月、外来通院症例延べ600人/月に心臓リハビリテーションを行っています。

和温療法

鄭忠和特任教授（和温療法研究所所長、前鹿児島大学教授）が開発された治療法で、和温療法専用器（遠赤外線乾式サウナ治療室）に入り全身を温め心地よい発汗をもたらし心身をリラックスさせる非薬物療法です。重症心不全や重症下肢虚血、皮膚潰瘍の患者さんに有効な治療法です。

経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）

大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療です。カテーテルを用いて狭窄している大動脈弁に人工弁を装着します。高齢などの理由で外科的な手術が困難な患者さんに対する新しい治療の選択肢となっており、年間約50症例の治療を行っています。

経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）

高齢などの理由で外科的な手術が困難な重度の僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法です。カテーテルを用いて低侵襲に逆流している僧帽弁にクリップを装着して逆流を軽減します。

経皮的卵円孔開存閉鎖術

奇異性脳塞栓症の再発予防のための新たなカテーテル治療です。

経皮的左心耳閉鎖術

心房細動による脳塞栓症の原因となる心臓内血栓の発生しやすい左心耳という部位を閉鎖（ふさぐ）する手術です。出血などの合併症で抗凝固療法が困難な方に対して、体への負担の少ないカテーテルを用いWATCHMAN™（ウォッチマン）という器具で左心耳を閉鎖することによって脳塞栓症の発症を予防します。

再生医療

内服加療やEVT、バイパス術でも完治し得ない重症虚血肢に対し、脂肪組織由来間葉系幹細胞（ADRC）を用いた血管再生治療を行っています。

□ 専門外来

虚血性心疾患（佐久間・金谷・西野・米澤・和久・橋本）
不整脈（南・北川）
ペースメーカー（南・仲島・北川・齋藤・井上（弘）・飯田）
重症心不全（豊田・伊波・正和）
腫瘍循環器（伊波）
肺血栓塞栓症・肺高血圧症（天野）
重症下肢閉塞性動脈硬化症（佐久間）
睡眠時無呼吸症候群（有川）
経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）外来（廣瀬）
経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）外来（金谷）
心臓リハビリテーション外来（中島・八木）

診療部長　豊田　茂
医局長　北川　善之
外来医長　伊波　秀
病棟医長　古藪　陽太

外来受付電話番号　0282-87-2191
新患外来および専門外来は予約が必要です。
電話番号　0282-87-2332（予約受付時間は 13 時から 16 時まで）

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
豊田　茂	教　授	心不全	心不全、心筋症、弁膜症、心エコー	＊1 ＊3 ＊4
中島　敏明	特任教授	循環器疾患	心臓リハビリテーション	＊3
内藤　滋人	特任教授	不整脈	アブレーション	＊3 ＊6
佐久間理吏	教　授	虚血性心疾患	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション	＊1 ＊3
八木　博	准教授	循環器疾患	心不全、心不全緩和ケア、心臓リハビリテーション	＊3
有川　拓男	准教授	心不全	心不全、心筋症、睡眠時無呼吸	＊3
金谷　智明	准教授	虚血性心疾患	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション	＊1 ＊3 ＊5
南　健太郎	准教授	不整脈疾患	カテーテルアブレーション、ペースメーカー	＊2 ＊3 ＊6
伊波　秀	講　師	心不全	心不全、弁膜症、心エコー	＊3 ＊4
西野　節	講　師	虚血性心疾患	冠動脈インターベンション、血管内画像診断	＊3
北川　善之	講　師	不整脈	ペースメーカー、アブレーション	＊3 ＊6
古藪　陽太	講　師	虚血性心疾患	冠動脈インターベンション	＊3
鈴木　英彦	非常勤講師	心不全	心不全、心筋症、心筋炎	＊3
天野　裕久	非常勤講師	肺循環疾患心不全	肺血栓塞栓症、肺高血圧	＊1 ＊3 ＊4
山口すおみ	非常勤講師	循環器疾患	虚血性心疾患、心臓リハビリテーション	＊3
福嶋　博道	非常勤講師	循環器疾患	虚血性心疾患、血管疾患	＊1 ＊3
春山亜希子	非常勤講師	心不全	心不全、心臓画像診断	＊3
米澤　泰	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
廣瀬　優	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
仲島　宏輔	助　教	不整脈	ペースメーカー、アブレーション	
正和　泰斗	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
渡邊　諒	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
和久隆太郎	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
石田　和俊	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
橋本　涼太	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
綿引　愛美	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
齋藤　郁太	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2 ＊3
西川　理壱	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2 ＊3
飯田圭太生	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2
井上　弘貴	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
井上　莉里	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2
上原　大毅	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
鈴木立二朗	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
篠田　雄平	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
先川はるか	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
横町　淳	非常勤助教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
安宅威久男	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
金井　理晃	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
髙山　紗和	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
前田甲雄太	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
青柳　正英	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
黒﨑　時生	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
小手川太郎	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
宗　建佑	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください
＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本内科学会　内科専門医
＊3：一般社団法人　日本循環器学会　循環器専門医
＊4：公益社団法人　日本超音波医学会　超音波専門医
＊5：一般社団法人　日本心血管インターベンション治療学会　心血管カテーテル治療専門医
＊6：一般社団法人　日本不整脈心電学会　不整脈専門医

□ その他

高度医療

○急性心筋梗塞・狭心症：冠動脈インターベンション（PCI）による治療（ロータブレータ、方向性冠動脈粥腫切除術、ショックウェーブ）
○下肢閉塞性動脈硬化症：クロッサー閉塞部貫通カテーテル
○頻脈性不整脈：高周波カテーテルアブレーション（焼灼術）による治療
○難治性心室性頻拍：植え込み型除細動器（ICD）、皮下植え込み型除細動器（S-ICD）による治療
○徐脈性不整脈：リードレスペースメーカー植え込み術
○重症な拡張型心筋症や虚血性心筋症：心臓再同期療法（CRT）による治療
○重症心不全：経皮的心肺補助装置（PCPS）、補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）、和温療法
○大動脈弁狭窄症：経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）
○僧帽弁閉鎖不全症：経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）
○徐脈性不整脈：リードレスペースメーカー植え込み術
○重症虚血肢：脂肪由来幹細胞（ADRC）を用いた再生医療、和温療法
○奇異性脳塞栓症の再発予防：経皮的卵円孔開存閉鎖術
○心内血栓症の予防：経皮的左心耳閉鎖術

消化器内科

□ 診療内容

当科では、消化器内科全般すなわち消化管疾患および肝・胆・膵疾患についての診療を行っています。

外来患者さんは１日平均約135名であり、毎日、外来担当医３名のほかに新患・予約外担当医１～２名を置き、紹介患者さんや急患に対応しています。また、月・火・金曜日には専門外来として胆・膵疾患や炎症性腸疾患外来を設け、診療にあたっています。

入院では、肝臓（ウィルス性肝炎の抗ウイルス治療や肝細胞癌の治療など）、胆膵（胆石胆嚢炎の内科治療、総胆管結石の内視鏡的治療、悪性腫瘍の診断など）、消化管（消化管出血や悪性腫瘍の診断治療など）と多岐にわたる疾患を扱っています。当科の診療に不可欠な外科との連携もスムーズに行われています。また、消化管出血や閉塞性黄疸などに対する緊急処置も多数行っており、夜間、休日でも十分な対応が可能です。

□ 特徴・特色

胃炎や大腸炎から、下記のような先端医療まで幅広く対応しています。

○超音波内視鏡による胆膵疾患の診断と治療（EUS-FNA）
○閉塞性黄疸に対する緊急ドレナージ（内視鏡的・経皮的）
○総胆管結石の内視鏡的砕石除去
○胆道狭窄に対するステント挿入
○ヘリコバクター・ピロリの診断と治療
○消化管出血（潰瘍、食道静脈瘤破裂など）の内視鏡的止血・治療
○食道癌・胃癌・大腸癌の診断と治療（超音波内視鏡検査、拡大内視鏡検査、内視鏡的粘膜下層剥離術など）
○小腸疾患の診断と治療（カプセル内視鏡、バルーン内視鏡）
○炎症性腸疾患の診断と治療（顆粒球除去療法、生物学的製剤による治療など）
○急性および慢性肝障害の診断と治療（肝生検、超音波による肝硬度の測定など）
○ウィルス性肝炎の診断と治療（インターフェロンフリー治療）
○肝細胞癌の早期診断と治療（ラジオ波焼灼療法などの経皮的穿刺治療、肝動脈塞栓術、リザーバーによる肝動注など）

設備としては、５室＋Ｘ線透視可能な２室を擁する内視鏡室、造影エコー法など精査にも対応する超音波検査室、DSAなど充実しており、上部・下部内視鏡検査、超音波検査は年間約5,000件、血管造影検査は年間約300件と多数の検査・治療を行っています。

□ 外来曜日別診療医

月曜日：平石　秀幸　特任教授
　　富永　圭一　准教授
　　金森　　瑛　講師
　　田中　孝尚　医員
　　吉永　智則　医員
火曜日：入澤　篤志　教授
　　郷田　憲一　教授
　　佐久間　文　医員
　　小島原駿介　医員
水曜日：菅谷　武史　准教授
　　牧　　匠　医員
　　嘉島　　賢　医員
　　近藤　真之　医員
　　坂本　智哉　医員
木曜日：大西　俊彦　医員
　　久野木康仁　医員
　　福士　　耕　医員
　　稲葉　康記　医員
　　石川　　学　医員
金曜日：飯島　　誠　准教授
　　山宮　　知　講師
　　眞島　雄一　医員
　　渡邊　詔子　医員
　　手塚　勇吾　医員

□ ご注意

○定期外来は全て予約制です。担当医師を指名した紹介状を持参された場合も初診時は新患・予約外担当医師が診察し、再診時に指名された担当医師の予約を入れさせていただくことがあります。
○内視鏡検査、超音波検査は全て予約制です。また土曜日には行っておりませんのでご了承下さい。
○土曜日の新患外来受付は行っておりません。急患のみの対応となっております。

診療部長	入澤（いりさわ） 篤志（あつし）
医局長	菅谷（すがや） 武史（たけし）
外来医長	田中（たなか） 孝尚（たかなお）
病棟医長	金森（かなもり） 瑛（あきら）

外来受付電話番号　0282-87-2192

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
入澤（いりさわ） 篤志（あつし）	教　授	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療、門脈圧亢進症、上部消化管疾患の診断と治療	＊1 ＊2
平石（ひらいし） 秀幸（ひでゆき）	特任教授	消化器一般	胃癌、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、内視鏡治療、臨床肝臓病学	＊1 ＊2 ＊3
郷田（ごうだ） 憲一（けんいち）	消化器内視鏡センター 教　授	消化器（消化管）	内視鏡診断治療（食道・胃・十二指腸・大腸）、逆流性食道炎・バレット食道	＊1 ＊2
飯島（いいじま） 誠（まこと）	准教授	消化器（肝臓）	肝腫瘍の診断・治療、腹部血管造影、腹部IVR、門脈圧亢進症	＊1 ＊3
冨永（とみなが） 圭一（けいいち）	准教授	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2
菅谷（すがや） 武史（たけし）	准教授	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
山宮（やまみや） 知（あきら）	講　師	消化器（胆膵）	早期慢性膵炎の診断と治療、胆道疾患の診断と治療	＊1 ＊2
金森（かなもり） 瑛（あきら）	講　師	消化器（消化管）	消化管腫瘍の内視鏡診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
眞島（まじま） 雄一（ゆういち）	助　教	消化器（肝臓）	肝疾患、血管造影による診断、治療	
大谷津（おおやつ）まり子（こ）	助　教	消化器一般	消化器一般	＊1
大西（おおにし） 俊彦（としひこ）	助　教	消化器（肝臓）	肝疾患、血管造影、ラジオ波	＊3
渡邊（わたなべ） 詔子（しょうこ）	助　教	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2
田中（たなか） 孝尚（たかなお）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
牧（まき） 匠（たくみ）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1
嘉島（かしま） 賢（けん）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
久野木（くのぎ）康仁（やすひと）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
佐久間（さくま） 文（ふみ）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2
近藤（こんどう） 真之（まさゆき）	助　教	消化器（消化管）	内視鏡診断治療（食道・胃・十二指腸）、逆流性食道炎・バレット食道	＊1 ＊2
住谷（すみや） 睦（むつみ）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	＊2
小島原（こじまはら）駿介（しゅんすけ）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	
稲葉（いなば） 康記（やすのり）	助　教	消化器一般	消化器一般	
吉永（よしなが） 智則（ともの り）	助　教	消化器一般	消化器一般	
手塚（てつか） 勇吾（ゆうご）	助　教	消化器一般	消化器一般	
石川（いしかわ） 学（まなぶ）	助　教	消化器一般	消化器一般	
坂本（さかもと） 智哉（ともや）	助　教	消化器一般	消化器一般	

この他に、約10名の医師が交代で新患・予約外来を担当しています。
＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病専門医
＊2：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医
＊3：一般社団法人　日本肝臓学会　肝臓専門医

□ その他

回診、カンファレンス

○カンファレンス　　月　　pm 6:00 ～
○教授回診　　木　　am 8:00 ～（チャート）及びpm 1:30 ～（ラウンド）

血液・腫瘍内科

□ 診療内容

当科では血液疾患全般について診療を行っております。対象となる症候、検査異常、疾患は以下の通りです。

○症候：貧血、リンパ節腫脹、脾腫、原因不明の発熱、出血傾向など。

○検査値の異常：貧血、赤血球増加、白血球増加、白血球減少、好酸球増加、血小板減少、血小板増加、血清M蛋白の出現、凝固線溶系の異常など。

○対象疾患：各種貧血（再生不良性貧血、溶血性貧血、悪性貧血、鉄欠乏性貧血、骨髄異形成症候群など）、各種白血病（急性白血病、慢性白血病）、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、真性赤血球増加症、骨髄線維症、本態性血小板血症、無顆粒球症、伝染性単核球増加症、血球貪食症候群、原発性マクログロブリン血症、血小板減少性紫斑病（特発性、血栓性）、血友病、免疫不全症（AIDSを含む）など。

○患者さんを紹介された医療機関へは、初診時、入退院時、治療経過中の折目の時点で迅速にご報告をさせて頂きます。

□ 特徴・特色

○日本血液学会専門医９名が診療を担当しています。

○診断は染色体/遺伝子診断をもとに、病理診断も交え総合的に行っています。

○無菌室13床、完全無菌室２床を含む43床をメイン病棟に備え造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）や化学療法、分子標的療法を行っています。

○外来通院で化学療法を行う場合は、外来化学療法室にて、専任医師、看護師、薬剤師の管理のもと治療を行っています。

○高齢の方や合併症のある方などには、患者さんの病態に応じQOLを配慮した治療法も選択しています。

○治療法の選択にあたっては十分な説明をさせていただくとともに、セカンドオピニオンを希望される場合は迅速に対応させていただきます。

□ 治療および成績

○骨髄異形成症候群では、予後予測因子の指標をもとにリスク分類し、低リスク群には免疫抑制療法やビタミン療法、ダルベポエチン、レナリドミド、アザシチジンなどを用いた治療を行っています。
高リスク群にはアザシチジン、化学療法、同種移植を行っています。

○急性白血病では標準的化学療法に加え、高用量シタラビン療法を行い、適応症例は同種移植を積極的に行っています。また、FLT3阻害剤、BCL2阻害剤、BTK阻害剤など新規分子標的薬や抗体療法も行っています。

○慢性骨髄性白血病はチロシンキナーゼ阻害剤（イマチニブ、ダサチニブ、ニロチニブ、ボスチニブ、ポナチニブ）の治療により90％以上の治療効果を得ています。

○骨髄増殖性疾患（真性多血症や本態性血小板血症など）にアナグレリド、ルキソリチニブの投与をおこなっています。

○悪性リンパ腫ではPET検査などで病期診断し、病理組織診断に基づきリツキシマブ、オビヌツズマブ、ブレンツキシマブ・ベドチンを併用した化学療法や自家末梢血幹細胞移植を行っています。エプキンリ（二重特異性抗体）も使用しています。

○多発性骨髄腫では、初発例にはボルテゾミブ、レナリドミド、ダラツムマブを中心とした薬剤を用い、再発・難治例には新規薬剤であるポマリドミド、カルフィルゾミブ、イキサゾミブ、エロツズマブ、イサツキシマブをボルテゾミブやレナリドミドなどに組み合わせた治療を行っています。

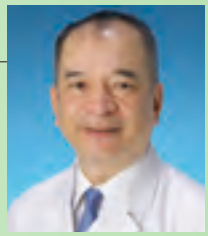
○2000年４月～2023年３月までにおよそ300例に造血幹細胞移植を施行しています。
2016年からはHLA半合致血縁者間移植にも取り組んでいます。

○当科主導の多施設医師主導研究を多発性骨髄腫を対象に行っています。

□ 専門外来

特に専門外来を設けておりませんが、各種血液疾患や免疫不全の診断と治療、および造血幹細胞移植などの高度先端医療について、いずれの外来日でも対応可能です。

診療部長　今井（いまい）　陽一（よういち）
医局長　半田（はんだ）　智幸（ともゆき）
外来医長　佐々木（ささき）　光（こう）
病棟医長　半田（はんだ）　智幸（ともゆき）



外来受付電話番号　0282-87-2193

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
今井（いまい）　陽一（よういち）	教　授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
三谷（みたに）　絹子（きぬこ）	特任教授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
佐々木（ささき）　光（こう）	准教授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
中村（なかむら）　由香（ゆか）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
仲村（なかむら）　祐子（ゆうこ）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊2
半田（はんだ）　智幸（ともゆき）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
新井（あらい）ほのか	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
中村（なかむら）　文美（ふみ）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
鶴見（つるみ）　茂治（しげはる）	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、貧血	
湯浅（ゆあさ）　博美（ひろみ）	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
吉原（よしはら）さつき	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	
石﨑（いしざき）　敦（あつし）	専攻医	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本血液学会　血液専門医

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

○急性白血病：化学療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○慢性骨髄性白血病：分子標的療法、化学療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○悪性リンパ腫：化学療法、抗体療法、自家末梢血幹細胞移植を行っています。
○多発性骨髄腫：化学療法、分子標的療法、自家末梢血幹細胞移植を行っています。
○再生不良性貧血：免疫抑制療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○骨髄異形成症候群：輸血、メチル化阻害薬による治療、サイトカイン療法、ビタミン療法、免疫抑制療法、化学療法、あるいは同種造血幹細胞移植を行っています。

回診、カンファレンス

○教授回診	月	pm 1:00 ～
○臨床カンファレンス	月・金	pm 3:00 ～
○研究カンファレンス	木	pm 6:00 ～
○骨髄像鏡検カンファレンス	月	pm 4:30 ～（月２回）、火　pm 5:00 ～

腎臓・高血圧内科

□ 診療内容

腎臓病、高血圧を中心に広く腎臓疾患に関して診療を行っています。

当教室の診療活動は地域医療機関とも密接な連携をとりながら行われていることに特徴があり、常に患者の皆様方の側に立った診療を目標としています。

□ 特徴・特色

1. 腎炎・ネフローゼ：腎生検による確定診断と治療法の決定
   蛋白尿、血尿、ネフローゼ症候群を呈する原発性・二次性の腎疾患に対して、腎生検による病理組織学的診断に基づいた専門的治療を行っています。IgA腎症に関する多施設共同研究にも参加しています。
2. 急性・慢性腎不全：血液透析療法、腹膜透析療法
   急性腎不全、末期腎不全に対する血液透析、腹膜透析（CAPD）などの血液浄化療法を行っています。年間約100例の新規透析導入を行い、地域透析医療の中核として関連施設と連携した維持透析症例の診療を行っています。
3. 経皮的ブラッドアクセスのカテーテル治療
   透析患者さんのシャントなどのブラッドアクセストラブルに対し、年間200例以上の経皮的血管形成術や血管内ステント留置術を行っています。ブラッドアクセス法のひとつである恒久的カテーテル挿入も行っています。
4. 血漿交換等のアフェレーシス療法
   血液浄化療法の一環として、血漿交換療法（自己免疫疾患、神経筋疾患など）、血液吸着療法（薬物中毒、エンドトキシン、家族性コレステロール血症）などへのアフェレーシス療法を行っています。
5. 高血圧
   多くの高血圧患者さんを診療し、県内の各施設より二次性高血圧、重症高血圧や合併症をもつ高血圧患者さんの紹介を受け、専門的医療を行っています。高血圧の病態診断とそれに適した降圧薬の調整、高血圧性臓器障害・心血管病リスクの評価、心機能評価、二次性高血圧の確定診断を含む高血圧に関する診療を行っています。高血圧に関する多くの多施設共同研究にも参加しています。

□ 専門外来

高　血　圧：頼（火・土）、本多（火・木）、藤乗（水）
心不全、弁膜症：本多（火・木）
腎　疾　患：頼（火・土）、藤乗（水）、村山（金）、大平（木）、小野田（火）、平尾（水）、海賀（月）
血 管 疾 患：小林（木午後）
C A P D：佐藤（木）、髙橋（月）、原田（月）

□ その他

特に紹介していただきたい患者さん
◆血尿や蛋白尿が認められる
◆腎機能が低下してきた
◆CKD（慢性腎臓病）の進行を抑制したい
◆高血圧のコントロールがつかない
◆電解質異常の原因が分からない
◆維持透析中の合併症や透析シャントトラブルを診てほしい

＊医療機関からの慢性腎臓病（CKD）患者さんの紹介基準
①eGFR値による紹介基準
・40歳未満：60mL/分/1.73m2未満
・40歳以上：45mL/分/1.73m2未満
・3か月以内の30%以上のeGFR低下
②蛋白尿による紹介基準
・検尿の場合：蛋白尿(+)以上
・尿蛋白/クレアチニン比：0.5g/gCre以上（随時尿）
・蛋白尿((±)だが血尿陽性(+)
・糖尿病がある場合：蛋白尿(±)以上

患者さんの検査値が、上記の①または②の項目に一つでも該当する場合は、一度ご紹介をお願いします。

（ご紹介いただく際のお願い）
・健診で指摘されたeGFRの異常は、ご紹介いただく前に再検査をお願いします。
・絶飲食下では脱水によりeGFRが低めに出ますので、自由に飲水・摂食した上での再検査をお願いします。
・尿蛋白の異常は、可能な限り尿蛋白/クレアチニン比の定量をお願いします。
・血清クレアチニン値の経時的推移の情報があればお知らせください。
・処方内容をお知らせください。（患者さんにお薬手帳を持参させても結構です。）

診療部長	賴　建光
血液浄化センター長	藤乗　嗣泰
医局長	平尾　潤
外来医長	本多　勇晴
病棟医長	海賀安希子

外来受付電話番号　0282-87-2195

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野
賴　建光	教　授	腎疾患、高血圧
藤乗　嗣泰	教　授	腎炎・ネフローゼ
本多　勇晴	准教授	高血圧、心不全、超音波
小林　直彦	非常勤講師	フットケア、心血管疾患
平尾　潤	講　師	血液透析、AKI
海賀安希子	助　教	腎疾患、腹膜透析
内田　麻友	助　教	血液透析、腹膜透析
高橋　利明	助　教	ブラッドアクセス
石光　晃	助　教	腎疾患、血液透析
阿部　誠	助　教	腎疾患、腹膜透析
横山　翔平	助　教	腎疾患
村山　慶樹	非常勤助教	血液透析、ブラッドアクセス
大平　健弘	非常勤助教	腎炎・ネフローゼ、ブラッドアクセス
小野田　翔	非常勤助教	血液透析、腹膜透析、水・電解質
永瀬　秋彦	非常勤助教	腹膜透析、ブラッドアクセス
佐藤　由佳	助　教	腎疾患
荒川　春奈	助　教	腎疾患
髙橋　知里	レジデント	腎疾患
原田　慎也	レジデント	腎疾患
道添翔太郎	レジデント	腎疾患

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

回診、カンファレンス

①教授回診：金　午後２時～
②腎・高血圧カンファレンス：月　午後５時30分～
③症例検討会：金　午後５時30分～７時

脳神経内科

□ 診療内容

○脳卒中（脳梗塞、脳出血、TIA）の診療、特にt-PAや血栓回収デバイスを用いた救急医療
○頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）、てんかん、しびれ（三叉神経痛など）、めまい、各種内科疾患に伴う神経障害
○睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠行動異常症、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群）、周期性四肢運動異常症を中心とした睡眠関連疾患全般
○アルツハイマー病、脳血管性認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭葉変性症などの認知障害
○脳炎、髄膜炎、破傷風などの感染症
○パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症などの変性疾患
○筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの運動ニューロン疾患
○ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）、遺伝性ニューロパチーなどの末梢神経疾患
○重症筋無力症、多発性硬化症などの免疫性神経疾患
○多発筋炎、封入体筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患

□ 診療体制

○外来には各曜日とも２～３名の専門医（日本神経学会専門医）が配属されております。日本内科学会、日本脳卒中学会、日本頭痛学会、日本睡眠学会、老年精神神経学会、日本超音波医学会の各専門医も診療にあたっております。
○入院された方には、基本的にはひとりの医師が主治医として担当いたしますが、チーム医療を心がけており複数の指導医のもとで診療にあたります。診療班毎に週２回程度の回診、カンファレンスを行っています。
○教授回診（鈴木圭輔）　水曜日　午前10：00～
○新患紹介　水曜日　午前　8：40～
○カンファレンス　水曜日　午後　5：00～
（抄読会、症例検討会、学外講師による勉強会など）
○脳卒中カンファレンス　木曜日　午後6：30～
（脳神経外科と合同で全ての脳卒中を対象に行います）
数名の開業医、勤務医、あるいは他科の医師にもご参加いただいております。お気軽にご参加ください。

□ 特徴・特色

○脳卒中センターと連携し、脳卒中には直ちに対応します。特に発症後4.5時間以内の超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法や脳神経外科と連携し、カテーテルによる血栓除去術も行っています。また血管性うつ（脳梗塞に伴ううつ状態）の治療や動脈硬化診断および治療も行っています。
○片頭痛、パーキンソン病に対する新薬治療を行っています。
○ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症に対する高度先進医療を行っています。特に、ギラン・バレー症候群、CIDPは専門スタッフにより、迅速かつ厳格な診断を行います。最先端の研究・治療により治療効果をあげています。
○ALS、筋ジストロフィーなどの神経・筋難病患者さんに対して、関連病院や地域開業医との連携・協力のもと診療を行っています。
○睡眠時無呼吸症候群をはじめ上記の睡眠関連疾患全般に対応しています。大学病院中央部門の睡眠医療センターにおいて関連する診療科・部門と連携して、睡眠医療外来と睡眠ポリグラフ検査を担当しています。

□ 専門外来

○もの忘れ外来　（毎週月午後、水・木曜日午前中）
担当医　櫻本浩隆、石井悠子、渡邉由佳
○頭痛外来　（毎週火曜日午前中、水曜日）
担当医　鈴木紫布、鈴木圭輔、塩田椋人
○睡眠医療外来　（毎週月～金曜日、
火・水・金曜日は午前中のみ）
担当医　宮本雅之、鈴木圭輔
○パーキンソン病デバイス外来
（毎週土曜日午前中）
担当医　櫻本浩隆
専門外来は完全予約制です。かかりつけ医からの紹介状を必ず持参してください。

□ その他

獨協医科大学脳神経内科ホームページ
https://dokkyo-neurology.com/
（公社）日本脳卒中協会栃木県支部として活動しています。

診療部長　鈴木　圭輔
医局長　藤田　裕明
外来医長　舩越　慶
病棟医長　五十嵐晴紀

外来受付電話番号　0282-87-2198

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
鈴木　圭輔	教　授	神経変性疾患、睡眠障害、頭痛	パーキンソン病、多系統萎縮症、睡眠障害、頭痛	＊1
宮本　雅之	看護学部教授	睡眠障害、神経疾患一般	睡眠障害、パーキンソン病、頭痛、脳卒中、認知症性疾患	＊1
国分　則人	教　授	神経筋疾患	末梢神経疾患、電気生理検査を用いた診断	＊1
竹川　英宏	脳卒中センター教授	脳血管障害	脳卒中、超音波検査を用いた動脈硬化診断・治療	＊1
渡邉　由佳	准教授	頭痛、認知症、神経変性疾患	頭痛、パーキンソン病、認知症性疾患	＊1
舩越　慶	准教授	自己免疫性神経疾患	ギラン・バレー症候群、CIDP	＊1
星山　栄成	准教授	神経救急疾患	てんかん、髄膜炎・脳炎、頭痛	＊1
藤田　裕明	講　師	神経疾患一般	神経疾患一般、パーキンソン関連疾患	＊1
西平　崇人	講　師	神経疾患一般	神経疾患一般、脳卒中	＊1
鈴木　紫布	助　教	神経疾患一般	頭痛、神経疾患一般	
石井　悠子	助　教	神経疾患一般	脳卒中、超音波検査を用いた動脈硬化診断、神経疾患一般	＊1
駒ヶ嶺朋子	助　教	神経疾患一般	免疫性神経疾患、CIDP、神経疾患一般	＊1
大沼　広樹	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
飯塚賢太郎	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
櫻本　浩隆	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
五十嵐晴紀	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
小林　聡朗	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
濱口　眞衣	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
津久井大介	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
大垣圭太郎	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
塩田　椋人	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
松林　賢照	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
木村真由香	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
樋田良太郎	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
森戸　紀昌	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
横田　徳継	非常勤講師	神経疾患一般	神経疾患一般	
加治　芳明	非常勤講師	神経疾患一般	神経変性疾患、神経疾患に伴ううつ、神経疾患一般	
椎名　智彦	非常勤助教	神経疾患一般	神経疾患一般、頭痛、パーキンソン病のデバイス治療（DBS、LCIG）	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本神経学会　神経内科専門医

内分泌代謝内科

□ 診療内容

当科では、内分泌代謝疾患全般について診療を行っております。入院では年間1,500名弱（メイン500名・兼科1,000名）の患者さんの治療を行い、外来は、毎日4～5名の医師が担当し専門外来の他にも特殊外来を設けています。糖尿病の診断・治療を中心に行っており、年間約5,000名弱の糖尿病患者さんを診療しております。特に糖尿病の治療は、食事・運動療法を基本とし、さらに適切な薬物療法の実践に努めています。また、合併症としての細小血管障害（網膜症、腎症、神経障害）や大血管障害（虚血性心疾患、脳卒中など）の診断・治療を各科と連携を図りながら行っています。

甲状腺機能異常症は外来での内服治療を中心に、アイソトープ治療も放射線科と連携し行っています。また年間約800例の甲状腺エコー検査を行い、腫瘍性疾患にはエコーガイド下吸引細胞診にて迅速な診断を行っています。

その他：クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、先端巨大症、下垂体前葉機能低下症、尿崩症など内分泌疾患に対して診断・治療を行っています。

【主な対象疾患】

糖尿病（1型、2型、妊娠糖尿病、その他の糖尿病）
内分泌疾患
　甲状腺疾患、視床下部・下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、その他（性腺疾患など）
肥満症（メタボリック症候群も含む）
脂質異常症・高尿酸血症
内分泌性高血圧症
その他

□ 特徴・特色

1　糖尿病の診断・治療、また当院各科との連携を行い、合併症の発症・進展の予防に積極的に取り組んでいます。
2　妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の内科的管理。
3　皮下連続式血糖測定装置（CGM）や、フラッシュグルコースモニタリング（FGM）を用いた血糖コントロール。
4　持続皮下インスリン注入療法（CSII）による糖尿病治療（パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ（SAP）も含む）。
5　糖尿病性末梢神経障害（DPN チェック）・血流障害の評価（ペインビジョン（知覚・痛覚定量分析装置）やSPP（皮膚に近い組織の血流測定）など）。
6　動脈硬化症・血管内皮機能の評価（ABI（足関節上腕血圧比）、FMD、Endo PAT-2000）。
7　甲状腺機能異常症の診断と治療。
8　バセドウ病のアイソトープ治療。
9　甲状腺癌の診断、外科との連携。
10　内分泌性高血圧の診断と治療。
11　各種負荷試験による迅速な内分泌機能検査・診断。
12　肥満症の診断と治療（インピーダンステクノロジーによる内臓脂肪面積の算出も可能）。
　糖尿病、内分泌疾患、肥満、脂質異常症、内分泌高血圧症の診断・治療に対して十分対応できる体制をとっています。
　また、フットケア外来にて、糖尿病認定看護師による糖尿病足病変（潰瘍・壊疽など）の専門的なケアも行っています（要予約制）。

□ 特殊外来（要予約制）

甲状腺超音波（超音波下穿刺吸引細胞診）：火曜日、金曜日：PM 2:30 ～
肥満外来　　：金曜日：PM 1:00 ～
糖尿病合併症外来：水曜日：PM 1:00 ～
フットケア外来　：AM適時行っております

□ その他

教授回診	月曜日	PM 1:30 ～
医局会・症例検討会	月曜日	PM 5:00 ～
チームカンファレンス	火曜日	
	水曜日	

特に紹介していただきたい疾患

糖尿病	1型糖尿病 2型糖尿病（コントロール不良症例） 妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠 インスリンポンプ療法（CSII・SAP）導入
甲状腺機能亢進症	アイソトープ治療も行っています。
甲状腺腫瘍	吸引細胞診や、巨大嚢胞病変に対してはエタノール注入療法も行っております。
高度肥満症	ダイエット入院や超低カロリー食事療法を行っています。消化器外科と連携を取り、肥満外科手術についても検討します。
その他	脳下垂体疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患

きすげ会（糖尿病患者友の会）（日本糖尿病協会所属）

3ヶ月に1回の勉強会を開催しています。

診療部長　麻生　好正
医局長　櫻井慎太郎
外来医長　倉井　英卓
病棟医長　田沼　大

外来受付電話番号　0282-87-2196

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	外来担当日	専門医
麻生　好正	教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	月・金	＊1 ＊2 ＊3
薄井　勲	教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	水・金	＊1 ＊2 ＊3
城島　輝雄	准教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	水・土	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
飯嶋　寿江	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	火・土	＊1 ＊3
登丸　琢也	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	月・木	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
櫻井慎太郎	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	火・金	＊1 ＊3
加藤嘉奈子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火	＊2 ＊3 ＊4
相良　匡昭	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火・木	＊1
齋藤　昌大	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水・木	＊3
井上有威子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	＊1
二井谷隆文	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	土	＊1 ＊2
岸　遼	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	＊1 ＊2
大平恵理子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	＊2
倉井　英卓	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水	
平尾菜々子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月・金	＊1
田沼　大	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火	＊1＊5 ＊6
須田佳菜子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月	
神賀　雄介	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	金	
齋藤　千明	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月	
中村　翼	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
鯨井　拓也	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
山海　嘉奈	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	土	
菊川　大夢	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	
繁澤恒太郎	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
若松　翔	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水	＊1
新沢　敏満	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患		
加瀬　正人	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患		＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
＊2：一般社団法人　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医
＊3：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊4：一般社団法人　日本甲状腺学会　甲状腺専門医
＊5：一般社団法人　日本内科学会　内科専門医
＊6：一般社団法人　日本内分泌学会　内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医

呼吸器・アレルギー内科

□ 診療内容

当科は、呼吸器疾患、アレルギー疾患、胸部腫瘍、感染症の各領域にわたる幅広い疾患を受け持ち、関係する症状および主な対象疾患は、以下のとおりです。

【関係する症状】

・咳、痰　・喘鳴　・鼻汁　・鼻閉　・胸痛
・息切れ、呼吸困難　・喀血、血痰　など

【主な対象疾患】

＜アレルギー疾患＞
・気管支喘息　・薬物アレルギー　・ハチアレルギー
・食物アレルギー　・花粉症　・アナフィラキシーショック
・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
・アレルギー性肺アスペルギルス症など

＜呼吸器疾患＞
・肺悪性腫瘍（肺癌、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫など）
・肺炎、胸膜炎
・COPD（肺気腫、慢性気管支炎）　・肺化膿症、膿胸
・肺真菌症　・肺結核、結核性胸膜炎、非結核性抗酸菌症
・間質性肺炎、肺線維症
・過敏性肺炎　・気管支拡張
・急性呼吸窮迫症候群（ARDS）　・自然気胸、縦隔気腫
・サルコイドーシス
・肺病変を伴う膠原病や血管炎症候群
・ニューモシスチス肺炎など
　肺病変を伴うHIV感染症　など

呼吸器疾患については、以下の気管支鏡や胸腔鏡などの最新診断手法と治療技術に基づいて診療を行っています。

【主な検査内容】

気管支鏡：胸部X線やCT検査で異常がある場合、確定診断を目的に行います。口から細い内視鏡を入れて、気管や肺の内部を観察し、肺の一部を採取したり、内部を洗浄する検査です。苦痛が少ない静脈麻酔法を採用し、また、超音波ガイド下の気管支鏡など最先端の技術を駆使しています。確定診断率が高く、治療方針決定のために重要な検査です。

局所麻酔下胸腔鏡：胸に水が溜まる状態（胸水）や膿ができた場合（膿胸）などに、病気の診断とともに治療も兼ねて行う検査です。局所麻酔にて行うために負担も軽く、病気の早期診断にも大変有用です。

□ 診療体制

【外来】 毎日４～５名が担当し、学会開催日などを除き、連日各分野に対応できる体制をとっています。

【入院】 チーム医療を行っており、主治医または担当医として患者さんを直接受け持つ医員と指導医による会議を週に２回開いています。その会議で、最終診断や詳細な治療方針などが話し合われ、最善の方法が選択されるだけでなく、医療過誤の予防にも努めています。

また、呼吸器外科や病理学講座、他施設との合同検討会や、世界を代表する臨床医および研究者を招待しての講演会も定期的に行っており、最新の医療情報・技術を維持し続けるように医局員一同、努力しています。

患者さんのご紹介について、急がない患者さんのご紹介は外来へ、入院の必要な患者さんのご紹介は、日勤帯は外来を通じて入退院担当医師へ、夜間・休日は当直医へ連絡をお願いします。多くの救急患者さんを受け入れるために、症状改善後は逆紹介しておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

□ 専門外来　－すべて予約制－

専門外来	曜日	時間	担当医
腫瘍外来	月 ～ 金	午前・午後	仁保教授、新井講師、曾田医員、奥冨（朋）医員
禁煙外来	月・木	午後	武政准教授

診療部長	仁保（にほ） 誠治（せいじ）
医局長	奥冨（おくとみ） 泰明（ひろあき）
外来医長	新井（あらい） 良（りょう）
病棟医長	曽田（そだ） 紗世（さよ）

外来受付電話番号　0282-87-2197

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	特に専門とする領域	専門医
仁保（にほ） 誠治（せいじ）	教　授	肺がん	＊1 ＊2
清水（しみず） 泰生（やすお）	教　授	肺がん、間質性肺炎、喘息、COPD	＊1 ＊2 ＊3
武政（たけまさ） 聡浩（あきひろ）	准教授	呼吸器内視鏡、喘息、COPD	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
新井（あらい） 良（りょう）	講　師	肺がん、呼吸器疾患	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
池田（いけだ） 直哉（なおや）	助　教	呼吸器病学	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
曽田（そだ） 紗世（さよ）	助　教	呼吸器病学	＊1 ＊2
奥冨（おくとみ） 朋子（ともこ）	助　教	呼吸器病学	
清水（しみず） 悠佳（ゆか）	助　教	呼吸器病学	
内田（うちだ） 信彦（のぶひこ）	助　教	呼吸器病学	＊2 ＊4

（清水、武政、池田は呼吸器内視鏡センター兼任）

＊1 日本内科学会総合内科専門医　＊2 日本呼吸器学会呼吸器専門医　＊3 日本アレルギー学会アレルギー専門医　＊4 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

病棟担当医

氏名	職名	専門領域
奥冨（おくとみ） 泰明（ひろあき）	助　教	呼吸器病学
中村（なかむら） 祐介（ゆうすけ）	助　教	呼吸器病学
塚田（つかだ） 梓（あずさ）	助　教	呼吸器病学
塚田（つかだ） 伸彦（のぶひこ）	助　教	呼吸器病学
矢澤（やざわ） 那奈（なな）	助　教	呼吸器病学
吉田（よしだ） 亘輝（のぶあき）	助　教	呼吸器病学
鈴木（すずき） 智成（ともなり）	レジデント	呼吸器病学
稲葉美寿季（いなばみずき）	レジデント	呼吸器病学
須田佳弥子（すだかやこ）	レジデント	呼吸器病学
手塚（てつか） 尊俊（たかとし）	レジデント	呼吸器病学

□ 特徴・特色

1．日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会などの認定施設に指定されており、各専門医・指導医により、専門的かつ包括的な診断を実践しています。
2．肺癌治療は、JCOGやNEJ、TORGなど全国臨床試験グループに所属し、最先端の臨床試験を行っています。
3．局所麻酔下胸腔鏡や超音波ガイド下気管支鏡などの最新機器を用いた検査を行い呼吸器疾患の診断率の向上に努めています。
4．肺癌の光線力学療法、ステントなど気管支インターベンション、重症喘息の気管支サーモプラスティーなど最先端治療を積極的に行い、他施設、他県からも紹介患者を多数受け入れています。
5．花粉症の舌下免疫療法など、アレルギー疾患の先端医療を積極的に行っています。
6．間質性肺炎の診断や抗線維化薬による治療、気管支喘息やアレルギー疾患に対する生物学的製剤による治療に精通した指導医を中心に最適な治療を提供しています。

□ その他

【週間スケジュール】

下記以外に、他科や他施設との合同検討会を不定期で行っています。

○新患症例検討会	毎週月・木曜日8:10～
○病理検討会	毎月第2火曜日16:30～
○医局会	毎週月・木曜日8:00～
○入院症例検討会	毎週月曜日16:00～
○病棟回診	毎週木曜日9:00～
○研究会または勉強会	毎週木曜日17:00～
○肺移植検討会	不定期

リウマチ・膠原病内科

□ 診療内容

主な対象疾患

関節リウマチ　乾癬性関節炎　脊椎関節炎　膠原病　全身性エリテマトーデス　強皮症　多発性筋炎／皮膚筋炎　混合性組織結合病（MCTD）　シェーグレン症候群　成人スティル病　ベーチェット病　リウマチ性多発筋痛症　血管炎症候群（顕微鏡的多発血管炎　多発血管炎性肉芽腫症　好酸球性多発血管炎性肉芽腫症　高安動脈炎　巨細胞性動脈炎など）IgG4関連疾患　家族性地中海熱

□ 特徴・特色

関節リウマチや膠原病は、免疫が不具合を起こることで生じ、全身に多彩な症状を示すのが特徴です。問診・診察に加えて様々な検査を組み合わせて診断・評価を行います。重症度は患者さんにより異なり、通院が不要な方から生命に関わる方まで様々です。治療は炎症や免疫を抑える薬物治療が中心となりますが、長期にわたりじっくりと治療に取り組んで行く必要があります。以前はグルココルチコイド（副腎皮質ステロイド）が治療の中心であり、その長期使用による副作用が大きな問題でしたが、近年分子標的薬を始めとして治療薬が進歩し、リウマチ膠原病患者さんの生命予後・生活の質は改善しつつあります。

当科では大学病院の強みを生かし、多くの診療科と連携して診療を行っています。関節リウマチの治療はリウマチセンターとして、患者さんの状態により、整形外科・リハビリテーション科と協力しながら診療を行います。全外来ブースに超音波機器を設置し、関節エコーにより正確な診断・評価を行うことができるのも大きな特徴です。

また、アレルギーセンターとして、アレルギー症状や好酸球増多を示す自己免疫性疾患の診察も行います。

□ 診療体制

外来受診

初診：月～金

より質の高い診療を行うため、原則初診は予約制をとっております。

医療機関のみなさまへ：

急ぎでない場合

当科宛ての紹介状を患者さんにお渡しして、お電話で予約を取っていただくようにお伝えください。画像、検査データなど、診療に役立つ情報も添付してください。

急ぎの受診が必要な場合

医療機関より外来直通（0282-87-2506）へお電話ください。

緊急入院が必要な場合

平日（第３土曜を除く）日勤帯

医療機関より外来直通（0282-87-2506）へお電話頂き、入退院担当医への取次ぎを依頼してください。

夜間・休日当直帯

医療機関より代表（0282-86-1111）へお電話頂き、当直医への取次ぎを依頼してください。

当科では、多くの新患・重症患者を受け入れるため、病状が安定した場合、速やかに紹介元への逆紹介をさせて頂いております。ご理解の上、ご協力くださるようお願い申し上げます。

診療部長	池田（いけだ） 啓（けい）
医局長	前澤（まえざわ） 玲華（れいか）
外来医長	田中（たなか） 彩絵（あやえ）
病棟医長	新井（あらい） 聡子（さとこ）

教育医療棟８階　0282-87-2410
外来受付電話番号　0282-87-2506

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
池田（いけだ） 啓（けい）	教　授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2 ＊3
有馬（ありま） 雅史（まさふみ）	教　授	アレルギー、呼吸器疾患	呼吸器疾患、アレルギー疾患	＊1 ＊3 ＊4
前澤（まえざわ） 玲華（れいか）	准教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチの生物学的製剤治療 膠原病難治性病態の治療	＊1 ＊2
新井（あらい） 聡子（さとこ）	講　師	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2 ＊3
田中（たなか） 彩絵（あやえ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2
宮尾（みやお） 智之（ともゆき）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊2
長谷川杏奈（はせがわあんな）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊2
檜山（ひやま） 知佳（ともか）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
吉田（よしだ） 雄飛（ゆうひ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
相澤（あいざわ） 有紀（ゆき）	助　教 （総合診療科より出向）	総合診療、関節リウマチ、膠原病、 自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
菊地（きくち） 梓（あずさ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
佐藤（さとう） 理華（りか）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
諏訪（すわ） 瑞貴（みずき）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
竹越麻祐子（たけこしまゆこ）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
長（ちょう） 櫻子（さくらこ）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
倉沢（くらさわ） 和宏（かずひろ）	特任教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病、CNSループスの治療 膠原病合併間質性肺炎の治療	＊2 ＊3

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本リウマチ学会　リウマチ専門医
＊3：一般社団法人　日本アレルギー学会　アレルギー専門医
＊4：一般社団法人　日本呼吸器学会　呼吸器専門医

□ 外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
リウマチ・膠原病内科	有　馬 田　中 吉　田	池　田 前　澤 宮　尾	池　田 田　中 菊　地	前　澤 長谷川 相　澤	倉　沢 新　井 檜　山	交代制

精神神経科

□ 診療内容

今日、精神医学に対するニーズは多様化し、身体医学との緊密な連携によって医療を提供することが必要となってきています。当科ではこれらのニーズに対応すべく精神科疾患全般について診療を行っています。

【外来】

再来は5～6名の医師が担当しており、再来患者さんは1日平均120名余り、新来患者さんは年間約1,200名が来院されています。新来患者さんの待ち時間の短縮のために各曜日に新来患者さんだけを診察する医師を配置し、2008年1月より新来患者さんの診察も予約制としております。また、専門外来としてうつ病外来及び認知症疾患医療センターの運営にも携わっています。診断にはDSM-5診断基準を用いています。

【入院】

入院では精神科疾患全般から身体疾患や薬物に基づく精神障害まで幅広くきめ細やかな治療を行い、患者さんのquality of life（QOL）の向上に努めています。病棟においても診断にはDSM-5診断基準を用い、週一度（月曜日、14:00～）、医局員全員および看護師、心理職が参加して行われる診断・治療方針決定会議にて、精神医学的診断のみならず、包括的な治療方針について徹底的に議論するというシステムをとっています。

【主な対象疾患】

○気分障害（うつ病、躁うつ病）
○神経症［パニック障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）、強迫性障害など］
○統合失調症
○認知症
○身体疾患に伴う精神障害
○治療薬物（ステロイドなど）による精神障害
○てんかん
○発達障害

□ 特徴・特色

○うつ病、パニック障害に対する認知行動療法
○アルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患の早期診断と治療
○統合失調症、気分障害の合理的薬物療法
○身体疾患に伴う精神症状のケア（リエゾンコンサルテーション）
○職場・家庭に於けるメンタルヘルスに関する相談
○ライフサイクルの諸問題から発生したメンタルヘルスに関する相談

□ 専門外来

①認知行動療法の専門外来を行っています。
②認知症疾患医療センターにて、健常高齢者のもの忘れと認知症との鑑別診断を行い、治療可能な認知症を見逃さないように努めています。精密検査の後にレカネマブによる治療を行っています。
③中学生以下の患者さんのための児童思春期専門外来を開設し、症状の評価・適切な薬物療法・精神療法をおこなっています。
④院内もしくは院外の他の診療科に入院・通院中の患者さんに生じた精神症状についての相談に応じ、適切な処置を講じるリエゾンコンサルテーションにも力を入れております。

□ その他

特に紹介していただきたい医療

○難治性うつ病に対する薬物療法の再評価及び電気痙攣療法、及び反復経頭蓋磁気刺激療法
○パニック障害、社交不安障害、強迫性障害
○認知行動療法を希望される患者さん
○がん患者さんの心理ケア（サイコオンコロジー）
○総合病院の精神科として、他の診療科に入院・通院中の患者さんに生じた精神症状
○精神障害を持つ患者さんの身体合併症の治療受け入れ
○治療抵抗性の統合失調症患者さんへのクロザピンの導入
○軽度認知障害および軽度認知症患者さんの検査入院とレカネマブの導入

回診、カンファレンス

○診断・治療方針決定会議　　月　pm 2:00－pm 5:00
　カンファレンスでは毎週入院時・退院時にサマリーを呈示し、診療部長の診察を通して、精神科診断・治療法について充分な討議会を行っています。
○病棟グループカンファレンス　　月　am 10:00－12:00
○リエゾンカンファレンス　　月　pm　1:00－　2:00

診療部長　古郡（ふるこおり）　規雄（のりお）

医局長　川俣（かわまた）　安史（やすし）

外来医長　佐藤（さとう）　由英（よしてる）

病棟医長　佐々木太郎（ささきたろう）

外来受付電話番号　0282-87-2186

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
古郡（ふるこおり）　規雄（のりお）	教　授	精神科一般	認知行動療法、リエゾン精神医学、合理的薬物治療	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
菅原（すがわら）　典夫（のりお）	准教授	精神科一般	気分障害、統合失調症、職場のメンタルヘルス	＊1 ＊3 ＊4
川俣（かわまた）　安史（やすし）	講　師	精神科一般	合理的薬物治療、老年精神医学	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
佐々木太郎（ささきたろう）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
佐藤（さとう）　由英（よしてる）	助　教	精神科一般	認知行動療法、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
長谷川千絵（はせがわちえ）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
菊池（きくち）　昂太（こうた）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
大和田（おおわだ）　環（たまき）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	＊1
北林（きたばやし）　佳晃（よしてる）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
前原（まえはら）　稜（りょう）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	＊1
吉田（よしだ）　良太（りょうた）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
鈴木（すずき）　桜子（さくらこ）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
石原（いしはら）　優吾（ゆうご）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
眞銅佑之介（しんどうゆうのすけ）	レジデント	精神科一般	精神疾患全般	
杉崎（すぎさき）　友美（ともみ）	レジデント	精神科一般		
高橋（たかはし）　純（じゅん）	レジデント	精神科一般		
永井（ながい）　佑樹（ゆうき）	レジデント	精神科一般		
山田（やまだ）　和樹（かずき）	レジデント	精神科一般		
朝日（あさひ）　智大（ともひろ）	レジデント	精神科一般		
人見（ひとみ）　早紀（さき）	レジデント	精神科一般		
冨吉（とみよし）　研策（けんさく）	レジデント	精神科一般		
平松（ひらまつ）　里菜（りな）	レジデント	精神科一般		
半田（はんだ）　智成（ともなり）	レジデント	精神科一般		
小杉（こすぎ）　真一（しんいち）	非常勤講師	精神科一般	統合失調症、神経症性障害	＊3
佐伯（さえき）　吉規（よしのり）	非常勤講師	精神科一般	リエゾンコンサルテーション、慢性疼痛	＊1 ＊2 ＊3
石川（いしかわ）　高明（たかあき）	非常勤講師	精神科一般	統合失調症、気分障害	＊1 ＊3
折目（おりめ）　直樹（なおき）	非常勤助教	児童・思春期精神医学		＊1 ＊3
白木（しらき）　亮祐（りょうすけ）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3
横山（よこやま）　宜史（なりふみ）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3
横山沙安也（よこやまさあや）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人日本精神神経学会　精神科専門医　＊2：一般社団法人日本総合病院精神医学会　一般病院連携精神医学専門医　＊3：精神保健指定医
＊4：一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会・一般社団法人日本神経精神薬理学会　精神神経薬理学専門医
＊5：公益社団法人日本老年精神医学会　専門医

皮膚科

□ 診療内容

当科では皮膚疾患全般に対応できる診療体制を整えております。外来は毎日5~6名の医師が担当し、１日約100名の患者さんが来院され、月平均の初診患者さんは150名前後で、そのうち紹介患者さんは約130名です。

入院は20名／日 前後で、重症の湿疹・アトピー性皮膚炎、皮膚腫瘍、膠原病、薬疹・中毒疹、熱傷、水疱症、乾癬、丹毒・蜂窩織炎など細菌感染症、帯状疱疹・水痘などウイルス感染症、母斑（ほくろ・あざ）、悪性腫瘍、良性腫瘍など多彩な皮膚疾患に適切な治療を行っております。近年は高齢者の皮膚悪性腫瘍の患者さんが増加しております。在院日数は15日前後です。

手術におきましては、外来では月約60件、入院では月約50件を行っております。

【主な対象疾患】

○アトピー性皮膚炎　○膠原病　○皮膚悪性腫瘍
○皮膚外科的治療を要する疾患　○乾癬
○先天性結合組織異常症
○難治性じんま疹　○薬疹　○難治性湿疹・接触皮膚炎
○皮膚細菌感染症

□ 特徴・特色

皮膚科疾患全般に対応可能です。皮膚悪性腫瘍、皮膚外科関連の疾患、膠原病、アトピー性皮膚炎、乾癬、薬剤アレルギーなどの診断、治療を施行しております。栃木県で唯一のアレルギー専門医（皮膚）教育研修施設です。アレルギーセンターの一員として各科と連携して診療を行っております。

□ 専門外来

褥瘡外来	月	pm 1：30 ～ 井川、林、神永、他
皮膚悪性腫瘍および皮膚外科外来	火	am 9：00～12：00 鈴木、森、他
レーザー外来	火	pm 1：30 ～ 鈴木
皮膚アレルギー検査外来	火	pm 1：30 ～ 担当医
アトピー性皮膚炎／乾癬外来	木	am 9：00～11：30 井川

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

○アトピー性皮膚炎・接触皮膚炎・薬疹：パッチテストなどによる精査も行っています。2018年より新規薬剤による治療も開始しております。
○強皮症：紫外線療法（ＰＵＶＡ療法）など先端治療を行っています。
○膠原病：診断・治療体制は整っています。
○血管型エーラス・ダンロス症候群：生化学的解析・遺伝子（COL3A1）検索で確定診断を行っております。
○皮膚悪性腫瘍：専門外来で早期診断と早期治療を目指す診療を行っています。
○乾癬：レチノイド、シクロスポリンＡ、紫外線療法、生物学的製剤などで治療を行っています。
○外傷・熱傷瘢痕・術後瘢痕：皮膚外科外来で形成外科的に専門医が対応します。
○円形脱毛症：紫外線療法など様々な治療を行っております。
○ほくろ・難治性いぼ：CO2レーザーによる治療も行っています。
○難治性じんま疹：新規治療法が適応となりました。
○重症薬疹：集学的な治療を行っています。
○重症の軟部組織感染症：診断・治療体制は整っています。

回診、カンファレンス

・回　診・カンファレンス	木　pm 1：30 ～井川
・臨床・組織カンファレンス	月・木　pm 3：00 ～

診療部長	井川　健
医局長	森　智史
外来医長	野老　翔雲
病棟医長	齊藤　美穂

外来受付電話番号　0282-87-2200

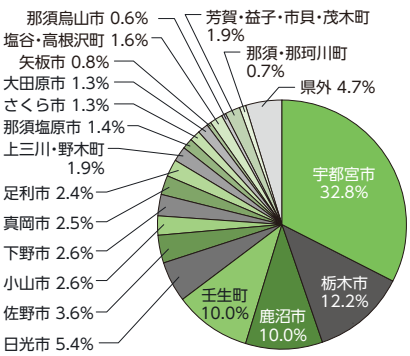
□ スタッフと専門領域（○は皮膚科専門医）

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	他専門医
井川　健	教　授○	皮膚科一般	アトピー性皮膚炎、皮膚アレルギー・免疫学、幹細胞医学、膠原病に伴う皮膚変化	アレルギー専門医 感染症専門医
鈴木　利宏	准教授○	皮膚科一般 形成外科	皮膚外科、皮膚悪性腫瘍形成外科	
林　周次郎	准教授○	皮膚科一般	強皮症、エーラス・ダンロス症候群	臨床遺伝専門医 アレルギー専門医 リウマチ専門医
石川　里子	助　教○	皮膚科一般	皮膚感染症、皮膚腫瘍	
野老　翔雲	講　師○ （外来医長）	皮膚科一般	アトピー性皮膚炎、循環障害	アレルギー専門医
神永　朋子	助　教○	皮膚科一般	薬疹、小児皮膚、褥瘡、、皮膚アレルギー疾患一般	
手束　友紀	助　教○	皮膚科一般	皮膚アレルギー疾患一般	
池上　徹栄	助　教○	皮膚科一般		
森　智史	助　教○ （医局長）	皮膚科一般		
森　ひとみ	助　教○	皮膚科一般		
井上　禎夫	助　教○	皮膚科一般		
大久保れいみ	助　教	皮膚科一般		
齊藤　美穂	助　教 （病棟医長）	皮膚科一般		
藤原由佳子	助　教	皮膚科一般		
長岡さゆこ	助　教	皮膚科一般		
神賀満裕菜	助　教	皮膚科一般		
新安　祥也	助　教	皮膚科一般		

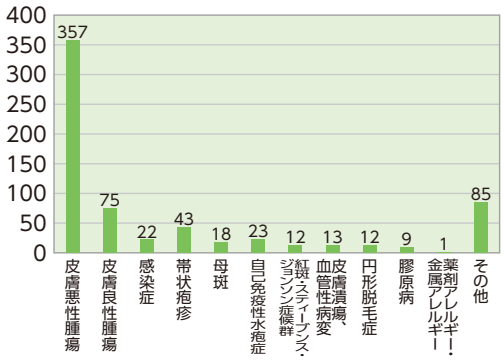
氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	他専門医
野中　一輝	助　教	皮膚科一般		
本郷　孝幸	助　教	皮膚科一般		
渡邉　千智	助　教	皮膚科一般		
髙橋　亨太	レジデント	皮膚科一般		
原　侑可	レジデント	皮膚科一般		
平野　智隆	レジデント	皮膚科一般		
杉田　瑞明	レジデント	皮膚科一般		
松山　友輝	レジデント	皮膚科一般		
山口あり裟	レジデント	皮膚科一般		
平塚進太郎	レジデント	皮膚科一般		
山路　梨公	レジデント	皮膚科一般		
嶋岡　弥生	非常勤講師○	皮膚科一般		
木村有太子	非常勤講師○	皮膚科一般		
小池　真美	非常勤助教○	皮膚科一般		
小澤　佑美	非常勤助教○	皮膚科一般		
小松崎ゆき	非常勤助教○	皮膚科一般		
日向野ゆき	非常勤助教○	皮膚科一般		
石井　英輔	非常勤助教	皮膚科一般		

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

2020年　地域別患者割合　53,601件



2020年　入院患者件数（670件）



放射線科

□ 診療内容

当科では、画像診断および画像を活用した低侵襲治療であるIVR（画像ガイド下治療）、核医学診療および放射線治療を行なっています。

院外からの画像診断やIVRのご相談の紹介については、紹介される先生から画像診断外来へ予約していただいております。

患者さんからの直接の検査や治療の申し込みは、診療の性質上受け付けておりません。診察希望やご相談は直接または電話にて放射線科外来受付に遠慮なくお申し出下さい。担当部門の医師をご予約いただき、お話を伺わせていただきます。

□ 診療体制・診療内容

【画像診断、IVR部門】

画像診断は、現代の医療に大変重要で、これなしには多くの疾患の診断や治療が行えませんが、画像診断部門では放射線科医が、磁気共鳴検査（MRI）やコンピューター断層撮影検査（CT）などの画像検査を専門的な立場で指示し、その画像を解読して専門医としての意見を報告書にして担当医の元に届けたり、診断や治療方針を臨床各科とのカンファレンスなどで協議したりしています。頭部、胸部、腹部、骨盤部、小児の画像診断については専門に診療にあたる放射線科専門医がおり、特に活発に活動しています。その他の分野においても、画像診断全般について対応が可能です。

IVR（インターベンショナルラジオロジー、画像ガイド下治療）は、高度な画像診断の技術とカテーテルや細い針、ワイヤーを用いて、画像ガイド下に小さな傷から行う低侵襲（体に優しい）治療ですが、いまや癌や救急の診療になくてはならないもので、当科でも日本IVR学会専門医を中心として積極的に行っています。怪我や手術の後、産後の母体などに生じた危険な出血をカテーテルで止血したり、動脈瘤や静脈瘤、血管奇形、リンパ管、腫瘍などの様々な疾患の治療を行っています。また、体の中に溜まった膿汁を体外に排出する処置（ドレナージ）や、癌などの診断のために組織を生検したり、腫瘍を焼灼したり、詰まった胆管や血管を開通させたりと、様々な手技に対応が可能です。日々最新の治療が提供できるように研鑽を積んでいます。

放射線科医は、各診療科の担当医からの依頼で仕事を行うことが多いため、患者さんからは放射線科医の顔が直接見えにくいですが、一人一人の患者さんの診療がよりよいものになるように、日々の業務に取り組んでいます。

画像診断部門担当医：曽我茂義教授、荒川浩明准教授、石原克俊講師、櫻井亮佑助教、比氣貞治助教、熊澤真理子助教、鈴木淳志助教、齋藤豊助教、酒井浩人助教、菅野徹助教（専攻医）、（非常勤）塩山靖和特任教授

【核医学部門】

放射性同位元素を患者さんに投与して検査を行う分野で、特別な専門的知識を必要とする分野です。全て担当医からの依頼で検査を実施しており、原則として院内の患者さんのみを扱っています。

また、放射線同位元素を用いた治療も行っています。

核医学部門担当医：（兼任）中神佳宏教授、（非常勤）橋本禎介特任教授

【放射線治療部門（放射線治療センター）】

放射線治療センターでは主に悪性腫瘍の治療を行っています。外来診療では、新規患者さん（他診療科または他院からの紹介）の診察、放射線治療中の診察、および治療後の経過観察を行います。治療方針決定に際しては、紹介元の主治医および関連診療科と相談・連携をして最善の治療法を提供出来るように努めています。年間の新規患者数は約400-500名です。スタッフは専従医師２名、非常勤医師２名、医学物理士２名、診療放射線技師８名、看護師３名、事務２名から成り、設備はリニアック２台（エレクタ社Versa HDTM）、密封小線源治療装置（マイクロセレクトロン）１台、頭蓋内定位放射線治療専用装置（ガンマナイフ）１台を備えています。高精度放射線治療としては、孤立性肺癌や、脳転移、脊椎転移、オリゴ転移などに対する体幹部定位放射線治療、主に頭頸部癌と前立腺癌を始め、限局した癌に対する強度変調放射線治療（IMRT）を行っております。また、2016年からは子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。なお、連携病院の医師による粒子線治療に関する専門外来も開設しています（要予約。治療は連携病院で行います）。

放射線治療部門担当医：（専従）江島泰生教授、小西圭助教、（非常勤）村上昌雄特任教授、田口千藏医員

診療部長　曽我（そが）　茂義（しげよし）
医局長　櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）
放射線治療センター長　江島（えじま）　泰生（やすお）
外来医長　江島（えじま）　泰生（やすお）

外来受付電話番号　0282-87-2177

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
曽我（そが）　茂義（しげよし）	教　授	画像診断全般	IVR・腹部画像診断・脈管画像診断	＊2 ＊6
江島（えじま）　泰生（やすお）	教　授	放射線治療	放射線治療・血液腫瘍	＊3 ＊5
中神（なかがみ）　佳宏（よしひろ）	教　授	核医学全般	核医学・内用療法	＊2 ＊4 ＊7
荒川（あらかわ）　浩明（ひろあき）	准教授	画像診断全般	呼吸器画像診断	＊2
石原（いしはら）　克俊（かつとし）	講　師	画像診断全般	画像診断全般・IVR	＊2 ＊6
櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）	助　教	画像診断全般	画像診断全般・核医学・IVR	＊2 ＊6
比氣（ひき）　貞治（さだはる）	助　教	画像診断全般	腹部画像診断・IVR	＊2 ＊6
小西（こにし）　圭（けい）	助　教	放射線治療	放射線治療	＊1
熊澤（くまざわ）真理子（まりこ）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊2 ＊4
鈴木（すずき）　淳志（あつし）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊2 ＊4
齋藤（さいとう）　豊（ゆたか）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊8
酒井（さかい）　浩人（ひろと）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	
菅野（かんの）　徹（とおる）	助教（専攻医）	画像診断全般	画像診断全般	
村上（むらかみ）　昌雄（まさお）	特任教授	放射線治療	粒子線治療	＊3
橋本（はしもと）　禎介（ていすけ）	特任教授	核医学・放射線治療	核医学・放射線治療	＊3 ＊4
塩山（しおやま）　靖和（やすかず）	特任教授	画像診断全般	腹部画像診断・IVR	＊2 ＊6

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線科専門医
＊2：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線診断専門医
＊3：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線治療専門医
＊4：一般社団法人　日本核医学会　核医学専門医
＊5：一般社団法人　日本がん治療認定機構　がん治療認定医
＊6：一般社団法人　日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
＊7：一般社団法人　日本核医学会 PET核医学認定医
＊8：一般社団法人　日本救急医学会／日本専門医機構　救急科専門医

小児科

□ 診療内容

当科は子どもの様々な疾患に応えられるように、各診療分野にエキスパートを揃えております。子どもに多い一般的疾患の他に、アレルギー・呼吸器疾患、血液腫瘍疾患、神経・精神疾患、内分泌代謝疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患、未熟児・新生児疾患などに対して高度な専門治療を行っています。高度先進医療の設備として、無菌室病棟（無菌室２床・準無菌室12床）を有し、子どもの造血幹細胞移植実施施設として、自家末梢血幹細胞移植・血縁・非血縁者間骨髄移植を毎年約10例実施しています。 更に、重症気管支喘息に対する抗IgE抗体療法、抗IL-5抗体療法、食物、蜂によるアナフィラキシー発症高リスク児へのエピペンの導入、食物アレルギーに対する食物負荷試験、成長障害の各種ホルモン治療・コントロール不良な１型糖尿病へのインスリン持続皮下注療法・小児メタボリック症候群の治療、腎炎・ネフローゼ症候群の長期管理、乳幼児急性脳症に救命救急センターと協力し集中治療室管理、脳軽度低体温療法、低出生体重児へパリビズマブ投与によるRSウイルス感染予防などを積極的に実施しています。また、総合周産期母子医療センターが設置され、低出生体重児や疾患を有する新生児を広く県内外医療機関より受け入れ高度な医療を実施しています。

□特徴・特色

小児科の診療体制は専門性が分かれておりますが、小児科は子どもの全体像を見なくてはならない診療科であるとの認識を持ち、さらに子どもの健全な成長発達を視点におき、患者さんやご家族の立場に立った全人医療を目指しています。紹介患者さんには24時間十分な対応ができる体制をとっております。また、当科には専属の３名の臨床心理士がおり、さらに栃木特別支援学校のひばり分教室が病棟内に整備され、小中学校の教員が常駐しています。以上の様に長期入院を必要とする子どものQOL向上がはかられて、治癒後の社会生活に問題が生じないよう配慮しています。また、ご両親や兄弟も含めたトータルケアや治療後の長期フォローアップにも力をいれています。アレルギー（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）サマーキャンプ、糖尿病サマーキャンプ、食物アレルギー教室では毎年多くの参加者に通常の診療ではできない教育を実施しています。

□ 基本方針

各専門領域で、大学病院の責務である最先端の医療技術を患者さんへ提供するとともに、子どもの健全な成長発育に視点をおいた、患者さんとご家族の立場に立った全人的な医療を目指しています。

また、地域の医療機関との連携を密にしております。当科主催で連携小児科診療研究会を年２回開催し、紹介いただいた患者さんについて、ご紹介医にご報告させていただいております。

□ 専門外来

＊各医師の専門外来担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください。

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

アレルギー疾患：気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）、口腔アレルギー症候群、アレルギー性結膜炎、ハチアレルギーなど

呼吸器疾患：慢性肺疾患（在宅酸素が必要な場合など）、慢性咳嗽など

感染症疾患：急性細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、クループ症候群、髄膜炎、尿路感染症など

血液・腫瘍疾患：白血病、悪性リンパ腫、神経芽腫、肝芽腫、ウイルムス腫瘍、免疫性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、血友病など

免疫不全・自己炎症疾患：免疫不全症候群、PFAPA症候群、家族性地中海熱など

神経疾患：てんかん、神経難病、筋疾患など

児童精神疾患：摂食障害、睡眠障害など

内分泌疾患：低身長、性早熟症、甲状腺疾患、副腎疾患、外性器異常（小陰茎など）、糖尿病、肥満、生活習慣病、メタボリック症候群など

代謝疾患：新生児タンデムマススクリーニング発見例など

腎泌尿器疾患：ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、尿路感染症、検尿異常、夜尿症、昼間尿失禁など

膠原病：川崎病、若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など

心疾患：心臓合併症を伴う川崎病、先天性心疾患、胎児心超音波検査、肺高血圧、不整脈など

遺伝性疾患：原因不明の発達遅延、先天異常

診療部長　白石（しらいし）　秀明（ひであき）

医局長　加藤（かとう）　正也（まさや）

外来医長　今高（いまたか）　城治（じょうじ）

病棟医長　佐藤（さとう）　雄也（ゆうや）

外来受付電話番号　0282-87-2201

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
白石（しらいし）　秀明（ひであき）	教　授	小児科一般、小児神経学	神経学、てんかん、脳波・脳磁図	＊1
吉原（よしはら）　重美（しげみ）	特任教授	小児科一般、アレルギー、呼吸器、感染免疫	気管支喘息、食物アレルギー、慢性咳嗽	＊1
杉田（すぎた）　憲一（けんいち）	特任教授	小児科一般、精神	発達障害	＊1
平尾（ひらお）　準一（じゅんいち）	特任教授	小児科一般、免疫、感染症、精神	気管支喘息、発達障害	
鈴村（すずむら）　宏（ひろし）	特任教授	小児科一般、臨床遺伝、新生児	未熟児成長発達、遺伝性疾患	＊1
今高（いまたか）　城治（じょうじ）	准教授	小児科一般、てんかん、小児神経、障害児医療、臨床遺伝、感染症	倫理・哲学、医事法、経営管理学、人間科学	＊1
佐藤（さとう）　雄也（ゆうや）	准教授	小児科一般、血液、腫瘍	小児がん、血液疾患	＊1
小山（こやま）さとみ	准教授	小児科一般、内分泌疾患	成長障害、小児糖尿病、肥満、副腎疾患	＊1
福島（ふくしま）啓太郎（けいたろう）	講　師	小児科一般、血液、腫瘍、感染症、免疫、アレルギー	小児がん、血液疾患、膠原病、免疫疾患、感染症、深在性真菌症	＊1
渡部（わたべ）　功之（よしゆき）	講　師	小児科一般、新生児、神経	未熟児成長発達、小児てんかん、小児神経	＊1
関根（せきね）　佳織（かおり）	講　師	小児科一般、循環器		＊1
奥谷（おくや）真由子（まゆこ）	講　師	小児科一般、血液、腫瘍	小児がん、血液疾患	＊1
加納（かのう）　優治（ゆうじ）	講　師	小児科一般、腎泌尿器	ネフローゼ症候群、腹膜透析、夜尿、摂食障害、睡眠障害	＊1
加藤（かとう）　正也（まさや）	講　師	小児科一般、アレルギー、呼吸器、新生児		＊1
藤田（ふじた）　雄治（ゆうじ）	講　師	小児科一般、アレルギー、免疫		＊1
宮本（みやもと）　学（まなぶ）	講　師	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
石井（いしい）　純平（じゅんぺい）	助　教	小児科一般、循環器、障害児医療、旅行医学		＊1
中山（なかやま）　元子（もとこ）	助　教	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
梶谷（かじたに）さゆり	助　教	小児科一般		＊1
髙岩（たかいわ）　由哉（ゆうや）	助　教	小児科一般		＊1
鷹木（たかぎ）　雄飛（ゆうひ）	助　教	小児科一般、腎泌尿器	ネフローゼ症候群、腎炎、夜尿	＊1
中山（なかやま）　幸量（こうりょう）	助　教	小児科一般		＊1
石川（いしかわ）　洵（まこと）	助　教	小児科一般		
小森（こもり）　慈海（いつみ）	助　教	小児科一般		＊1
菅原（すがわら）　沙織（さおり）	助　教	小児科一般		＊1
斎藤（さいとう）　愛美（まなみ）	助　教	小児科一般		
阿久津（あくつ）　晃（あきら）	助　教	小児科一般		
吉原（よしはら）　伸弥（しんや）	助　教	小児科一般		＊1
大髙（おおたか）　智博（ともひろ）	助　教	小児科一般		＊1
黒﨑（くろさき）　和典（かずのり）	助　教	小児科一般		＊1
佐藤（さとう）　恵美（めぐみ）	助　教	小児科一般		
野村（のむら）　好平（こうへい）	助　教	小児科一般		＊1
石﨑（いしざき）　郁絵（いくえ）	助　教	小児科一般		
大村（おおむら）　翔平（しょうへい）	助　教	小児科一般		

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
斉田（さいだ）沙佑美（さゆみ）	助　教	小児科一般		
竹田（たけだ）　圭恵（たまえ）	助　教	小児科一般		
湯浅（ゆあさ）　尚紀（なおき）	助　教	小児科一般		
飯田（いいだ）　美穂（みほ）	レジデント	小児科一般		
櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）	レジデント	小児科一般		
白川（しらかわ）　喜之（よしゆき）	レジデント	小児科一般		
濱田（はまだ）　裕史（ひろふみ）	レジデント	小児科一般		
人見（ひとみ）　浩亮（ひろあき）	レジデント	小児科一般		
谷口（たにぐち）有寿佳（あすか）	レジデント	小児科一般		
金子（かねこ）　苑永（そのえ）	レジデント	小児科一般		
合原（あいはら）　澄（さとか）	レジデント	小児科一般		
五十嵐（いがらし）美歌（みか）	レジデント	小児科一般		
島野（しまの）　浩樹（ひろき）	レジデント	小児科一般		
福田（ふくだ）　暁子（あきこ）	レジデント	小児科一般		
渡邉（わたなべ）　千絢（ちひろ）	レジデント	小児科一般		
土屋（つちや）　喬義（たかよし）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー		＊1
菅野（かんの）　訓子（のりこ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー		＊1
大和田（おおわだ）葉子（ようこ）	非常勤講師	小児科一般、腎泌尿器	神経因性膀胱、腎炎、ネフローゼ症候群	＊1
萩澤（はぎさわ）　進（すすむ）	非常勤講師	小児科一般、血液		＊1
坪井（つぼい）　弥生（やよい）	非常勤講師	小児科一般、新生児、障害児医療	未熟児成長発達	＊1
宮本（みやもと）　健志（けんじ）	非常勤講師	小児科一般、循環器	小児不整脈、成人先天性心疾患、川崎病、心臓MRI	＊1
福田（ふくだ）　啓伸（ひろのぶ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー、呼吸器	気管支喘息、食物アレルギー、慢性咳嗽	＊1
栗林（くりばやし）　良多（りょうた）	非常勤講師	小児科一般、新生児	未熟児成長発達、新生児蘇生	＊1
安藤（あんどう）　裕輔（ゆうすけ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
長沼（ながぬま）　純子（じゅんこ）	非常勤講師	小児科一般、内分泌疾患	成長障害、小児糖尿病、肥満	＊1
阿部（あべ）　利夫（としお）	非常勤助教	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
藤田（ふじた）　滋子（しげこ）	非常勤助教	小児科一般		＊1
山﨑（やまざき）　弦（ゆづる）	非常勤助教	小児科一般、小児社会医学	小児虐待	
刈屋（かりや）　桂（かつら）	非常勤助教	小児科一般		＊1
塚田（つかだ）　佳子（けいこ）	非常勤助教	小児科一般、神経	小児神経、小児てんかん、発達	＊1
有賀（ありが）信一郎（しんいちろう）	非常勤助教	小児科一般、循環器		
國分（こくぶ）　文香（あやか）	非常勤助教	小児科一般、循環器		

＊1：公益社団法人　日本小児科学会　小児科専門医

健診センター

□ 診療内容

1）人間ドック

○人間ドック（日帰り）月～金

身体測定、内科診察、眼底・眼圧検査、聴力検査
尿検査、便検査（二日法）、心電図、呼吸機能検査、
血液検査（貧血、血沈、血液型、肝機能、腎機能
膵機能、脂質、炎症反応、痛風、リウマチ、電解質
梅毒、肝炎、胃ピロリ、糖尿病、PSA（前立腺がん・
男性）、CA125（卵巣がん・女性））
胸部Ｘ線、胃部Ｘ線、腹部超音波

○PETドック（1泊2日）：月～火、水～木、金～土

※人間ドック（日帰り）のメニューの他に、糖負荷試験、女性は婦人科診察、マンモグラフィ、男性は前立腺MRI、PSA（前立腺がん血液検査）、PET－CT、上部消化管内視鏡検査、血液腫瘍マーカー、甲状腺検査、胃がんリスク検査、血中BNPが含まれます。

○スペシャルドック（PET－CT含む：3泊4日）：火～金

※PET－CT検査、脳MRI・MRA、頚椎MR、骨盤MR、耳鼻咽喉科診察、肝胆膵MR・MRCP、上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、心エコー検査、乳腺超音波検査（女性）、血液腫瘍マーカー、甲状腺検査、胃がんリスク検査、血中BNPなどが含まれます。

【オプション検査】
（PETドック、スペシャルドックに含まれているものもあります）

血液検査	血液腫瘍マーカー（AFP、CEA、CA19-9およびSCC（男性）） 胃がんリスク検査、血中BNP、 アミノインデックス®（がんリスク検査） ロックスインデックス® アレルギー検査（48種類）
甲状腺検査	甲状腺超音波検査および血中甲状腺機能検査（Free T4、Free T3、TSH）
X線検査	骨密度測定
内視鏡検査	上部消化管内視鏡検査
CT検査	肺CT
MRI検査	脳MRI・MRA、頚椎MRI、胸椎MRI、 腰椎MRI、骨盤腔MRI、 肝胆膵MR・MRCP
女性	マンモグラフィ、乳房超音波検査 子宮頸がん・経腟超音波検査
睡眠時無呼吸検査	睡眠時酸素飽和度検査

2）特殊検査（がん遺伝子検査など）

・マイクロアレイ血液検査（消化器がんスクリーニング検査）
・Protokey® 膵臓がんリスク検査
・Protokey® 大腸がんリスク検査
・サインポスト遺伝子検査（先天的生活習慣病リスク、がん遺伝子検査）
・腸内フローラ検査

3）脳ドック（半日）

原則的に火・木（午前中）
※脳MRI・MRA検査および一般的な健診項目が含まれます。

4）肝胆膵ドック（半日）

原則的に火・木（午前中）
※肝胆膵MRI・MRCPおよび一般的な健診項目が含まれます。

5）検診・健診

○検診（乳がん検診、子宮がん検診など）
※ただし、契約企業のみです。
○契約健診　※ただし、契約企業のみです。
○職員検診（乳がん、子宮頸がん(予定)、胃がん）
○一般健診（一般健康診断書作成など）（要予約）
○英文による健康診断書作成（要予約・要相談）

6）各種ワクチン接種（要予約となります）

※原則18歳以上の方が対象です。
麻疹、風疹、水痘、ムンプス
A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、日本脳炎、インフルエンザ
肺炎球菌（プレベナー、ニューモバックス）
子宮頸がん（シルガード）

□ 特徴・特色

○専門医による診察・検査：内科（当センター）、婦人科、放射線科、臨床検査センターなどのそれぞれの専門の立場からの診察および検査を行っています。また各科専門医による判定も行っています。

○精査・治療などが必要な受診者様には、事後措置の徹底のために受診希望先への紹介状を作成しています。

センター長　麻生（あそう）　好正（よしまさ）

医局長　渡邉菜穂美（わたなべ なおみ）

外来医長　知花（ちはな）　洋子（ようこ）

外来受付電話番号　0282-87-2216

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医・認定医
宮地（みやち）　和人（かずひと）	特任教授	健康管理・外科一般・内視鏡検査	＊1 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊10
渡邉菜穂美（わたなべ なおみ）	准教授	健康管理・内科一般	＊3 ＊5 ＊7 ＊9
知花（ちばな）　洋子（ようこ）	講　師	健康管理・内科一般	＊2 ＊3 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊8 ＊9

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科指導医
＊2：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊3：一般社団法人　日本内科学会　認定内科医
＊4：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病指導医
＊5：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病専門医
＊6：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡指導医
＊7：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医
＊8：一般社団法人　日本消化器がん検診学会　指導医
＊9：公益社団法人　日本人間ドック学会　人間ドック認定医・専門医
＊10：一般社団法人　日本がん治療認定医機構　がん治療認定医

【上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査担当医】

月曜日	水曜日	金曜日
宮地　和人	宮地　和人	渡邉菜穂美
渡邉菜穂美	渡邉菜穂美	大谷津まり子
	知花　洋子	

□ その他

各種健康診断

内容、費用など、ご希望によりご相談させていただきます。

回診、カンファレンス

○医局内学習会　　月　　1回
○回診（宿泊ドック）　月・水・金
○カンファレンス　　月・水・金

病理診断科

□ 診療内容

病理診断科では治療方針の決定に関わる重要な業務である病理診断（組織診、術中迅速診、細胞診）を行います。また、治療の甲斐なく不幸にして亡くなられた患者さんの診断・治療の適否、有効性の評価を検証するために病理解剖を行います。

○組織診断

・生検組織診断：病変の一部を採取して組織診断します。この結果により、治療が必要かどうか、手術をするべきかどうか等、その後の方針が決まります。

・手術で摘出された臓器・組織（検体）の組織診断：手術検体を詳細に調べ組織診断します。病気の程度や広がり、手術の適応、手術後に追加治療は必要ないか等、治療方針の決定に役立つ情報を提供します。

○細胞診断

病変部から細胞を採取して細胞診断します。組織診断に比べて簡便に診断が可能であり、特に子宮、尿、痰、体腔液（胸水・腹水）に威力を発揮します。病理医と国家資格を有した細胞検査士（スクリーナー）が協力して行います。

○術中迅速診断

手術中に採取された検体から特殊な手技で凍結標本を作製し、10～20分程度で診断が行われます。腫瘍かどうか、良性か悪性か、病変の広がり等について診断し、手術の方針、切除範囲の決定に役立ちます。

○病理解剖（剖検）

ご遺族の承諾のもとに、病死された患者さんのご遺体を解剖させていただくのが病理解剖です。生前の診断は正しかったのか、どのくらい病気が進行していたのか、治療の効果はどれくらいあったのか、死因は何か、といったことを判断します。「死を理解することによって生を助けること」が病理解剖の目的です。

□ 特徴・特色

病理診断は、病理医がどのような病気かを判断する医療行為です。病理医は幅広い知識と専門性をもとに診断を行う臨床医であり、病理診断科は医療の質を担保するquality controlの役割を担っています。

当科では、病理診断に専従するスタッフが最新の医学知識・技術を取り入れて、患者さんのニーズに対応して参ります。

○迅速・正確

患者さんから採取された検体は迅速かつ適切に処理し、複数の経験豊富な病理医により検討し、速やかに病理診断結果をご報告いたします。組織診断と細胞診断の全例に病理診断に専従する医師のダブルチェックを行います。さらに、免疫組織化学、染色体・遺伝子解析を併用し、最新の知見に基づいた質の高い病理診断を提供いたします。

○連携・発展

各診療科との情報交換を密に行い、どのようなことが病理診断に求められているのかを理解しながら、患者さんに役立つ病理診断を行います。また、各診療科との連携のもとで最新の知見を学び、病理診断をアップデートしていきます。

□ 診療実績

（件）

	組織診断	術中迅速診断	細胞診断	剖検
2023年	11,642	595	8,048	17
2022年	11,242	605	8,199	17
2021年	11,324	712	8,508	29

（件）

	免疫染色	遺伝子検査対応	電顕標本作製*
2023年	2,496	780	110
2022年	2,468	526	135
2021年	2,605	123	96

*各診療科からの研究依頼を含む

診療部長　石田（いしだ）　和之（かずゆき）

医局長　金子（かねこ）　有子（ゆうこ）

外来医長　松田（まつだ）　葉月（はづき）

外来受付電話番号　0282-87-2130

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
石田（いしだ）　和之（かずゆき）	教　授	病理診断学	消化器、移植、一般	病理専門医、細胞診専門医
金子（かねこ）　有子（ゆうこ）	講　師	病理診断学	口腔領域	口腔病理専門医、細胞診専門歯科医
松田（まつだ）　葉月（はづき）	講　師	病理診断学	中枢神経、骨軟部	
大和田温子（おおわだあつこ）	助　教	病理診断学	泌尿器、一般	病理専門医、細胞診専門医
野沢（のざわ）　友美（ゆみ）	助　教	病理診断学	胆膵、一般	病理専門医、細胞診専門医
野田（のだ）　修平（しゅうへい）	助　教	病理診断学	外科病理一般	
高岡（たかおか）　身奈（みな）	助　教	病理診断学	外科病理一般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

□ その他

診療の質を高め患者さんに貢献できるよう、様々な面から医療を支えています。

○コンパニオン診断

薬剤使用の適否を病理学的に探索し決定します。

○がんゲノム診断

検体管理、解析部位の決定、解析用標本の作製、エキスパートパネルの組織写真撮影、プレゼンテーションの指導を行い、がんゲノム医療の一翼を担います。

○臨床病理カンファレンス・剖検検討会

カンファレンスを通じて臨床病理相関を行い、患者さんに役立つ病理診断を届けます。

○病理診断が関わる診療、研究のサポート

病理診断の説明、病理写真の撮影、プレゼンテーションの指導、論文作成を通じて医療の質を高める努力をします。

○地域医療

・連携病院のご協力のもとで、地域に貢献できる病理医の育成を行っています。
・病理診断のコンサルテーションをお引き受けいたします。病理医からの場合は、希望する病理医へ直接ご連絡ください。各診療科の先生方が病理診断についてコンサルテーションされる場合は、必ず診断書を作成した病理医の了承を得てからご連絡ください。
・各種染色、解析についての技術指導をお引き受けいたします。

総合診療科

□ 総合診療科とは

高齢社会や高度専門化された医療の現在を反映し、多面的な健康問題を抱える患者さんや臓器を特定しにくい原因不明の病態に悩む患者さんの力になる医療を提供する科として2016年4月に創設されました。栃木県を中心とした地域の皆様の健康を守り、また地域医療に貢献する診断・治療の能力を備えた総合診療医、そして広い視点を持って地域医療を俯瞰し行動できる医療人材を育成することを目標としています。

□ 診療内容

当科に在籍する医師チームは、急性期から慢性期まで、若年者から高齢者まで、頻度の高い疾患から稀な疾患まで、在宅から病棟まで、幅広い医療現場で訓練を受けた内科医師を中心に構成されています。多面的な健康問題を抱える患者さんや臓器を特定しにくい原因不明の病態に悩む患者さんと真摯に向き合い、それぞれの健康状態の改善を目指し、患者さんの治療に貢献させていただきます。

診察の結果、特定の専門科の診察が必要と判断される場合は、各該当の専門科と連携し紹介受診とさせていただく場合もございます。

□ 特徴・特色

大学病院として有数のPETセンターなど豊富な検査機器などを内包したハード面での特徴に加え、国際ガイドライン作成など含め各領域を世界的にリードする臨床のスペシャリストらとの円滑な連携が可能です。医局員は地域（離島）医療、がん治療、緩和ケア、在宅医療、救急医学等、様々な分野で研修を積んだ医師で構成されており、また頻繁に科内カンファレンス等を開催し、最新のエビデンスの活用はもちろん、患者背景や社会的状況に応じた包括的、俯瞰的な視点に基づいた診療を実現しています。

□ 対象年齢/症状

年齢：成人（16歳以上）
症状：原因のわからない発熱、痛み、しびれ、多種症状の混在、など多岐にわたる。
（ご不明の点はまずは一度ご相談ください）

□ 外来のご案内

現在の所、原則紹介受診とさせていただいています（平日）。ご来院の場合はまず獨協医科大学病院　総合診療科外来にお電話でご予約ください（直通TEL：87-2054）。より正確な診断のため、また診療を円滑に進めさせていただくため、必ず診療情報提供書（紹介状）ご持参でご来院くださいませ。

外来の込み合いが予測されますため、待ち時間が長くなる可能性がございます。ご了承ください。

□ 週間スケジュール

下記以外に、他科や他施設との合同検討会、著名医師を招いての教育回診、講演等を不定期に行っています。

○毎日7:15～症例検討
○毎日昼～勉強会

診療部長　志水（しみず）　太郎（たろう）
医局長　勝倉（かつくら）　真一（しんいち）
外来医長　川本（かわもと）　駿（しゅん）
病棟医長　大髙（おおたか）　由美（ゆみ）

外来受付電話番号　0282-87-2054

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
志水（しみず）　太郎（たろう）	教　授	救急・総合診療	診断戦略	日本内科学会内科指導医・総合内科専門医、日本病院総合診療医学会理事、日本プライマリ・ケア連合学会指導医、他*1*2
原田（はらだ）　侑典（ゆきのり）	准教授	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、JMECCインストラクター、他*1*2
廣澤（ひろさわ）　孝信（たかのぶ）	講　師	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本病院総合診療医学会評議員、他*1*2
勝倉（かつくら）　真一（しんいち）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医、日本病院総合診療医学会評議員、認定病院総合診療医、他*1
大髙（おおたか）　由美（ゆみ）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、ICD 他*1*2
川村（かわむら）　廉（れん）	助　教	救急・総合診療		日本内科学会認定内科医、日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、他*1
横瀬（よこせ）　允史（まさし）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会内科専門医、病院総合診療専門医・特任指導医、認定病院総合診療医、ACLSインストラクター、他*1
坂本（さかもと）　哲（てつ）	助　教	救急・総合診療		日本内科学会内科専門医、病院総合診療専門医・特任指導医、認定病院総合診療医、他*1
川本（かわもと）　駿（しゅん）	助　教	救急・総合診療		
榎原（えのきはら）　剛（つよし）	非常勤医師	救急・総合診療	家庭医療、訪問診療、緩和医療	家庭医療専門医、他*1
原田（はらだ）　拓（たく）	非常勤医師	救急・総合診療	診断学、ER診療一般、病院総合医	日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会指導医、日本病院総合診療医学会認定医、老年病専門医
飯沼（いいぬま）　朗子（あきこ）	レジデント			
上野（うえの）　佳彦（よしひこ）	レジデント			
白木柚希奈（しらきゆきな）	レジデント			
佐藤（さとう）　由隆（よしたか）	レジデント			
関（せき）　泰介（たいすけ）	レジデント			
髙橋（たかはし）　弓平（きゅうへい）	レジデント			
千金楽涼水（ちぎらすずみ）	レジデント			
藤村（ふじむら）　耕平（こうへい）	レジデント			
宮﨑（みやざき）　優大（まさひろ）	レジデント			

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください
＊1　日本専門医機構総合診療特任指導医
＊2　日本専門医機構総合診療専門医

診療部門（外科系）のご案内

上部消化管外科（一般外科）

□ 診療内容

当科は成人の上部消化管の食道癌や胃癌、消化管間葉系腫瘍（GIST）など悪性疾患を対象とした治療のほか、病的肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除、胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニアやアカラシア等の良性疾患もチームを編成して専門的な医療を行っています。その他の一般外科疾患も取り扱っています。

【消化管外科　2023年　手術総数174件】

① 食道外科（45件）：食道がんに対する内視鏡治療から手術、化学放射線療法に至るまで様々な治療を行っています。手術は胸腔鏡による食道切除と腹腔鏡による再建のほかに、ロボット支援手術も行っています。胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニアやアカラシア等の良性疾患にもほぼ全例に腹腔鏡手術を行って良好な成績を収めています。

② 胃外科（129件）：胃がんは早期胃癌から進行胃癌まで切除可能な胃癌に対して、また粘膜下腫瘍に対しても、患者さんの体の負担を軽減するために内視鏡手術や腹腔鏡手術・ロボット支援手術を積極的に行っています。根治の難しい高度進行胃がんに対しては、化学療法を行ってから手術するなど治療成績の向上を図っています。また、病的肥満症患者に対する腹腔鏡下胃スリーブ胃切除術も内分泌内科、精神科、栄養科などとチームで保険診療を行っています。

【一般外科　2023年　手術総数　156件】

虫垂炎や成人鼠径ヘルニアといった一般的な外科疾患の手術も数多く行っています。その他の急性腹症や外傷などの救急疾患も24時間体制で対応しています。

□ 特徴・特色

上部消化管外科は、歴代教授の専門分野が「消化管の悪性腫瘍」であり、伝統的に消化器癌（食道癌・胃癌）などの腫瘍外科領域の治療経験が豊富です。癌治療における「根治性と機能温存の調和」が教室のモットーであり、十分なインフォームド・コンセントの下で、症例ごとに適格な診断を行い、適切な治療として腫瘍外科領域の手術法だけでなく集学的治療として幅広い選択肢を用意していることが特徴です。悪性腫瘍に対しては内視鏡治療から腹腔鏡下手術、ロボット支援手術に至るまで低侵襲治療を積極的に取り入れています。内視鏡治療は早期食道がんに対しての内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を中心に行っております。内視鏡外科下手術は進行食道がん、進行胃がんにも行っているほか、ヘルニアや虫垂炎などの良性疾患にも行っています。また、がんの根治性を維持しつつ、機能温存を図る工夫も行っております。胃がんでは胃切除後の術後障害（後遺症）を軽減する再建術を採用しています。

□ 専門外来

食道専門外来	月曜 am　9：00～中島
	木曜 am　9：00～中島
食道専門外来（紹介のみ）	木曜 am10：00～室井
胃専門外来	火曜 am　9：00～森田･中川･井上
	木曜 am　9：00～森田･中川･上田
	金曜 am　9：00～小嶋・滝瀬
胃化学療法外来	金曜 am　9：00～井上

診療部長	小嶋（こじま） 一幸（かずゆき）
医局長	中川（なかがわ） 正敏（まさとし）
外来医長	井上（いのうえ） 昇（のぼる）
病棟医長	滝瀬（たきせ） 修平（しゅうへい）

外来受付電話番号　0282-87-2202

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
【上部消化管・一般外科】				
小嶋（こじま） 一幸（かずゆき）	教　授	上部消化管疾患	胃がん、ロボット手術・腹腔鏡手術、GIST	＊1 ＊2 ＊7 ＊8
森田（もりた） 信司（しんじ）	准教授	上部消化管疾患	胃がん、腹腔鏡手術、抗癌剤治療、ロボット手術	＊1 ＊2 ＊7 ＊8
中島（なかじま） 政信（まさのぶ）	准教授	上部消化管疾患	食道がん、食道裂孔ヘルニア、アカラシア、ロボット手術	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊8
中川（なかがわ） 正敏（まさとし）	講　師	上部消化管疾患	胃がん、腹腔鏡手術、抗癌剤治療	＊1 ＊2
滝瀬（たきせ） 修平（しゅうへい）	助　教	消化器外科	消化器外科全般	＊1 ＊2
井上（いのうえ） 昇（のぼる）	助　教	消化器外科	消化器外科全般	＊1
上田（うえた） 裕（ゆう）	助　教	消化器外科	消化器外科全般	＊1
入江（いりえ） 澄子（すみこ）	レジデント	消化器外科	消化器外科全般	
出口（でぐち） 遂己（なるみ）	レジデント	消化器外科	消化器外科全般	
日引皐太郎（ひびきこうたろう）	レジデント	消化器外科	消化器外科全般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください。
＊紹介状がないか、担当医名のない紹介状をお持ちの初診の患者さんは初診外来担当が診察いたします。
　その後、適切な専門医の外来が予約されますのでご安心下さい。

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医
＊2：一般社団法人　日本消化器外科学会　消化器外科専門医
＊3：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病専門医
＊4：特定非営利活動法人　日本気管食道科学会　気管食道科専門医
＊5：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医
＊6：特定非営利活動法人　日本食道学会　食道外科専門医
＊7：一般社団法人　日本内視鏡外科学会　技術認定医
＊8：一般社団法人　日本内視鏡外科学会　ロボット支援下手術プロクター

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

消化管外科：食道がん、胃がん（病期に適した治療を行います。）
一 般 外 科：腹部外傷、消化管穿孔、イレウス、腹膜炎、虫垂炎などの急性腹症

下部消化管外科（一般外科）

□ 診療内容

当科は、小腸、大腸、肛門に至る臓器の疾患に対して、豊富な手術経験を元に最良の外科治療を提供する診療科です。最大の特徴は、日本大腸肛門病学会専門医６名、日本内視鏡外科学会技術認定医５名、ロボット支援下大腸手術プロクター３名が在籍し、手術指導を行うことで確実で安全な手術を提供します。年間手術件数は400件施行し、大腸癌手術は200件以上で、術式別の内訳は、腹腔鏡下手術55%、ロボット支援下手術40%、開腹手術5%です。腹腔鏡手術やロボット支援下手術を積極的に導入することで、体への負担が少なく、早期の社会復帰が可能となります。また、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの一般外科症例に対しても専門的な治療を行います。基礎疾患をお持ちの方やご高齢の方に対しても他の診療科との連携をとり個々の患者さんに合った最善の個別化治療を提供します。他の施設で年齢や基礎疾患を理由に手術を断られたり、開腹手術を勧められたりした方もぜひ一度ご相談下さい。病状や治療方法は、患者さんやご家族に十分にご理解頂くよう分かりやすく丁寧に御説明いたします。また、セカンドオピニオンにも柔軟に対応しております。

□ 対象疾患と治療

【大腸領域】

○ **大腸癌（結腸と直腸）**

大腸癌手術は年間約200件で、術式別の内訳は、腹腔鏡下手術55%、ロボット支援下手術40%、開腹手術5%です。

切除が不可能もしくは適応とならない場合には、人工肛門造設、消化管ステント、抗癌剤治療（化学療法）、放射線治療が選択されることもあります。化学療法は入院と外来で患者さんのニーズに合った治療スケジュール、レジメンを提案させていただきます。

○ **進行直腸癌に対する術前化学放射線治療**

癌の縮小や肛門温存率の向上そして局所再発率の低下を目的として術前治療（抗癌剤，放射線療法）などの集学的治療を施行します。その後に治療効果を判定し、現在の治療の継続または低侵襲な腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を行います。

○ **大腸癌による転移性肝腫瘍、転移性肺腫瘍**

肝胆膵外科、呼吸器外科と連携をとり外科治療を含め集学的治療を行います。

○ **炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の外科治療**

消化器内科と連携して炎症性腸疾患の外科治療を行います。重症の潰瘍性大腸炎の緊急手術や、クローン病の狭窄、穿通に対する消化管切除など、迅速に対応しています。

○ **大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔、結腸膀胱瘻）**
○ **腸閉塞（イレウス）**　　○**小腸癌**
○ **大腸消化管間質腫瘍（GIST）、大腸神経内分泌腫瘍（NET）**

【肛門領域】

○ **人工肛門関連（ストーマ脱、傍ストーマサイトヘルニア、ストーマ周囲の皮膚トラブル）**

過去に他院で増設された方でも結構ですので人工肛門関連でお悩みの方は是非ご相談ください。

○ **肛門疾患（痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍）**

内痔核に対しては切除しない四段階硬化療法（ALTA）を施行させていただきます。長年、肛門疾患を患っている患者さんは外科治療適応があるかもしれません。ぜひ一度ご相談ください。

○ **直腸脱、骨盤臓器脱**

婦人科、泌尿器科と連携して腹腔鏡やロボット支援下にメッシュを使用した修復術を行います。

【一般外科領域】

○ **鼠径ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア**

日本内視鏡外科学会技術認定医（ヘルニア領域）が在籍しており、専門的なヘルニア治療を提供します。初発、再発例、難治症例などお困りの際は、ご相談ください。腹壁瘢痕ヘルニアに対しても腹腔鏡手術で治療を行っております。

○ **虫垂炎**

腹腔鏡治療で低侵襲な治療の提供を目指します。

○ **中心静脈ポート留置**

抗癌剤導入、在宅治療導入、ルートキープ困難例においてポート留置をさせて頂きます。

○ **経皮経食道胃管挿入術（PTEG）**

長期に胃管・イレウス管が留置されている方や胃瘻造設が困難である方に適応があります。局所麻酔で施行が可能です。患者さんのQOLが上がります。

【その他】

○ **再生医療**

クローン病に伴う複雑痔瘻の治療に用いるアロフィセルのご相談。

○ **腸管不全**

短腸症候群の治療に用いるレベスティブのご相談。

診療部長　水島（みずしま）　恒和（つねかず）
医局長　蜂谷（はちや）　裕之（ひろゆき）
外来医長　根本鉄太郎（ねもとてつたろう）
病棟医長　髙柳（たかやなぎ）　雅（まさし）

外来受付電話番号　0282-87-2203

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	特に専門とする領域	専門医
水島（みずしま）　恒和（つねかず）	教　授	ロボット支援下手術、炎症性腸疾患、肛門疾患、腸管不全	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
中村（なかむら）　隆俊（たかとし）	教　授	ロボット支援下手術・炎症性腸疾患	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
石塚（いしづか）　満（みつる）	准教授	ロボット支援下手術、骨盤臓器脱	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
蜂谷（はちや）　裕之（ひろゆき）	講　師	ロボット支援下手術、肛門疾患、鼠径ヘルニア	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
井原（いはら）　啓佑（けいすけ）	講　師	ロボット支援下手術、炎症性腸疾患、化学療法	＊1 ＊2 ＊3
渋谷（しぶや）　紀介（のりすけ）	講　師	ロボット支援下手術、肛門疾患、化学療法	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
根本鉄太郎（ねもとてつたろう）	助　教	ロボット支援下手術、大腸・肛門疾患	＊1 ＊2
髙柳（たかやなぎ）　雅（まさし）	助　教	大腸・肛門疾患	＊1 ＊2
河野（こうの）　貴博（たかひろ）	助　教	大腸・肛門疾患	＊1
西（にし）　雄介（ゆうすけ）	助　教	大腸・肛門疾患	＊1

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医　　＊2：一般社団法人　日本消化器外科学会　消化器外科専門医
＊3：一般財団法人　日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医　　＊4：一般社団法人　日本内視鏡外科学会　技術認定医
＊5：一般社団法人　日本内視鏡外科学会　ロボット支援下手術プロクター

□ 外来曜日別診療医一覧表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	根本鉄太郎　医員 西　雄介　医員	中村　隆俊　教授 石塚　満　准教授 井原　啓佑　講師	水島　恒和　教授 髙柳　雅　助教	蜂谷　裕之　講師 井原　啓佑　講師 （第1・3・5週）	渋谷　紀介　講師 河野　貴博　医員	

月曜日から土曜日まで診察を受け付けております。
当科宛の紹介状をご持参の上、11：00までに来院いただくようご説明お願い致します。

肝・胆・膵外科（一般外科）

□ 診療内容

当科では、肝胆膵外科・一般外科・移植外科・血管外科の診察を行っています。外来は、肝胆膵外科、一般外科診察のほかに専門外来を設けています。一方、入院は、教授を中心として速やかでかつ的確な診断方針の決定を行い、手術を基本とした専門的な治療を行っています。また、化学療法や放射線療法など、集学的な治療の経験も豊富です。

【主な対象疾患】

肝胆膵外科：肝臓・胆嚢・胆管・膵臓の良性・悪性腫瘍、胆石症・門脈圧亢進症などの良性疾患。

一 般 外 科：鼠径および大腿ヘルニア、下肢静脈瘤などの血管疾患、腎不全患者のシャント増設や腹膜カテーテル挿入。また緊急症例として、腸閉塞、急性虫垂炎、外傷性腹腔内出血など。

移 植 外 科：非代償性肝硬変や劇症肝炎などに対する生体肝移植
腎不全に対する生体腎移植および屍体（脳死下、心停止下）腎移植、Ⅰ型糖尿病に対する脳死下膵移植

□ 特徴・特色

肝胆膵外科、一般外科および移植外科、血管外科を専門としています。

教室の伝統である肝胆膵外科を看板とし、症例も豊富です。2000年4月以降の症例数は、肝切除2,000例以上（年間70例以上）、膵切除670例以上（ここ数年は年間80例前後）に達しています。鏡視下手術も積極的に導入しており、胆石症以外にも肝臓、膵臓、脾臓、副腎などの疾患も対象にしています。また末梢血管手術も積極的に行っています、透析用内シャント手術はこれまで3,500例以上を経験し、手技に熟達しています。また、2000年10月には、栃木県下で初の生体肝移植を成功させ、その後、症例数は45例になっています。さらに、当科は日本臓器移植ネットワークの腎移植実施施設・献腎摘出施設に認定されており、生体および献腎移植を行っています。また、脳死ドナーからの膵移植実施施設として認定されており、2015年7月、2019年3月には脳死下膵腎同時移植を成功させております。

□ 専門外来

下肢静脈瘤外来（下肢静脈瘤の硬化療法）
　水・土　　朴、田中
シャント外来（腎不全患者のシャント造設）
　金（午前中）　櫻岡
腎移植登録（腎移植希望者の登録）
　火（午前中）
生体肝移植希望者は、青木教授外来（火曜日）でお話を伺います。
神経内分泌腫瘍に対する手術、集学的治療のご相談は青木教授外来（火曜日）にて受け付けております。

□ 診療体制

外来は毎日講師以上の医師1名と助教など1～2名の医師が担当しています。

入院後の診療は、講師1名と助教2～4名からなる2つの診療班があり、疾患別に専門の診療班が担当します。休日・夜間の当直体制での緊急手術は、講師以上の呼び出しにより万全を期しています。

診療部長　青木（あおき）　琢（たく）

医局長　森（もり）　昭三（しょうぞう）

外来医長　松本（まつもと）　尊嗣（たかつぐ）

病棟医長　白木（しらき）　孝之（たかゆき）

外来受付電話番号　0282-87-2203

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
青木（あおき）　琢（たく）	教　授	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患、肝移植、神経内分泌腫瘍	＊1 ＊2
森（もり）　昭三（しょうぞう）	講　師	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患	＊1 ＊2
根本（ねもと）　猛彦（たけひこ）	講　師	肝胆膵・一般外科	消化器疾患、肝移植、腎移植、血管疾患	＊1 ＊2
白木（しらき）　孝之（たかゆき）	講　師	肝胆膵・一般外科	消化器疾患、肝・胆・膵疾患	＊1 ＊2
櫻岡（さくらおか）　佑樹（ゆうき）	講　師	肝胆膵・一般外科	消化器疾患、肝・胆・膵疾患、下肢静脈瘤、腎不全外科	＊1 ＊2
松本（まつもと）　尊嗣（たかつぐ）	講　師	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患、肝移植	＊1 ＊2
小菅（こすげ）　崇之（たかゆき）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患、腎不全外科、血管外科	
朴（ぼく）　景華（けいか）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患	＊1
山口（やまぐち）　教宗（たかむね）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患	＊1 ＊2
清水（しみず）　崇行（たかゆき）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患	＊1 ＊2
田中（たなか）　元樹（げんき）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患、下肢静脈瘤	＊1 ＊2
宮下将太郎（みやしたしょうたろう）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝・胆・膵疾患	＊1
仁木（にき）まい子（こ）	助　教	肝胆膵・一般外科	肝胆膵・一般外科、肝・胆・膵疾患	＊1
中野（なかの）　智文（さとふみ）	助　教	消化器外科	消化器疾患	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医　＊2：一般社団法人　日本消化器外科学会　消化器外科専門医

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

肝胆膵疾患：肝切除術は、原発性肝がんのほか転移性肝がんに対しても積極的に行っています。腹腔鏡下肝切除も積極的に施行しております。大腸がんの肝転移症例は外科的治療と集学的治療も含め、是非御紹介下さい。また、内科治療困難な肝疾患（肝硬変、劇症肝炎等）に対して生体肝移植を施行しています。また、進行の早い胆嚢がん・膵がんは早急に入院･手術を行います。また、神経内分泌腫瘍（NEN）に対する集学的治療を行っています。希少疾患ですが、是非御紹介ください。

生体肝移植・膵、腎移植希望者：ぜひ、外来にご連絡ください。

小児外科

□ 診療内容

【入院総数　2023年 338件　　手術総数　2023年 264件】
　新生児から15歳までの（頭部（脳脊髄神経系）、心臓大血管、四肢を除いた）小児外科疾患を対象に診療を行っております。扱う疾患は多岐に及び、鼠径ヘルニア、停留精巣、臍ヘルニアなどの一般外科疾患から、急性虫垂炎、腸重積症、肥厚性幽門狭窄症などの急性腹部疾患、食道閉鎖症や横隔膜ヘルニア、腸閉鎖、鎖肛などの新生児外科疾患、小児固形腫瘍、胆道閉鎖症や胆道拡張症、胃食道逆流症、ヒルシュスプルング病などの消化器疾患、膀胱尿管逆流症や水腎症などの小児泌尿器科疾患、嚢胞性肺疾患や気胸などの呼吸器疾患、腹部外傷などの診療を行っています。新生児外科疾患は小児科新生児班医師と小児固形腫瘍疾患は小児腫瘍血液班医師と協力して治療にあたります。

□ 特徴・特色

　当診療科は獨協医科大学とちぎ子ども医療センター内の診療科でもあり、子ども病棟に固有床を有しております。そのため、医師、看護師等すべて小児専門スタッフによる管理・看護を提供しております。なお、重症な患者さんに対しては周術期にICU（集中治療室）に入室していただき集中治療専門スタッフによる管理をすることもあります。
　新生児外科疾患に関しては、NICU（新生児集中治療室）にて手術、全身管理をNICU医師と連携して行います。超低出生体重児（1,000g未満のあかちゃん）の消化管穿孔、腸閉鎖、鎖肛、食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア・腹壁破裂など新生児外科疾患にまんべんなく対応しております。
　小児固形腫瘍疾患（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫）に対する治療経験も豊富であり、原則的に全国規模の標準治療プロトコールに則した治療を小児科腫瘍血液専門スタッフとともに行っております。
　重症心身障害児に対する外科治療（気管切開、喉頭気管分離術、胃瘻造設、腹腔鏡下噴門形成術など）を行っております。
　小児腹部外傷については、救命救急センターと協力して診療にあたっています。
　小児泌尿器科疾患、小児嚢胞性肺疾患、小児頚部嚢胞などに対する外科治療も行っております。
　また、当科では創の小さい手術や低侵襲手術を積極的に採り入れており、鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、整復不能であった腸重積症などに対して腹腔鏡手術を採り入れているのみならず、高難度手術である胃食道逆流症に対する噴門形成術、胆道拡張症手術、ヒルシュスプルング病手術、中間位・高位鎖肛手術、嚢胞性肺疾患手術などでも可能な限り鏡視下手術を行っております。今後も適応疾患を拡大していく予定です。

□ 専門外来

小児外科外来	月曜	am 9:30～	渡邊
	火曜	am 9:30～	交代制
	水曜	am 9:30～	鈴木
	木曜	am 9:30～	交代制
	金曜	am 9:30～	荻野
	土曜	am 9:30～	畑中/鎌田

診療部長　鈴木（すずき）　完（かん）

医局長　畑中（はたなか）　政博（まさひろ）

外来医長　荻野（おぎの）　恵（けい）

病棟医長　渡邊（わたなべ）　峻（しゅん）

外来受付電話番号　0282-87-2201

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
鈴木（すずき）　完（かん）	准教授	小児外科	新生児外科、小児固形腫瘍、小児泌尿器科、小児内視鏡手術	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
畑中（はたなか）　政博（まさひろ）	助　教	小児外科	小児外科一般	＊1 ＊2
荻野（おぎの）　恵（けい）	助　教	小児外科	小児外科一般	＊1 ＊2
渡邊（わたなべ）　峻（しゅん）	助　教	小児外科	小児外科一般	＊1 ＊2
鎌田（かまた）　悠子（ゆうこ）	助　教	小児外科	小児外科一般	＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください
＊紹介状をお持ちの初診患者さんは外来日に随時受け付けますので、紹介状を持ってご来院ください。
＊救急患者さんも随時受け付けておりますが、あらかじめ子ども医療センター外来にお電話をお願いします。
＊第3土曜日には外来は行っておりません。
＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医
＊2：特定非営利法人　日本小児外科学会　小児外科専門医
＊3：一般社団法人　日本周産期・新生児医学会　認定外科医
＊4：一般社団法人　日本小児血液・がん学会　小児がん認定外科医
＊5：日本小児泌尿器科学会　認定医

心臓・血管外科

□ 診療内容

当科は心臓外科と血管外科を併せ持った診療科で文字通り心臓・大血管・末梢血管の疾患を外科治療で治す科です。

特定機能病院の性格上、他院よりの紹介患者さんが全体の90％以上を占めますが、一般外来患者さんも受け付けています。対象疾患は次のとおりです。

□ 主な対象疾患

○虚血性心疾患：急性冠症候群、狭心症、心筋梗塞合併症
○心臓弁膜症：大動脈弁疾患、僧帽弁疾患、三尖弁疾患
○大動脈疾患：胸部・腹部大動脈瘤、急性大動脈解離
○心筋疾患：拡張型心筋症、虚血性心筋症　ほか
○心臓腫瘍：粘液腫　など
○先天性心疾患：心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症　ほか、成人先天性心疾患
○末梢血管疾患：急性動脈閉塞症、慢性動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、透析症例のアクセス作成など

□ 特徴・特色

手術に関しては昨今医療の質が厳しく問われていますが、体に優しい低侵襲手術や質の高い（術後の生活の質を高める）手術を目指しています。年間約500例の手術を行っています。特に得意とする治療は次のとおりです。

○ 虚血性心疾患

オフポンプ冠動脈バイパス術：冠動脈バイパス術では、より低侵襲化を目指した人工心肺を用いない心拍動下冠動脈バイパス術（OPCABG）を行っています。人工心肺を用いない為、術後早期回復、術後合併症頻度の低下、早期退院、無輸血手術などが期待できます。特に75歳以上の高齢者、脳、肺、肝、腎障害などを合併したhigh riskな患者さんに有用であると考えられます。これにより術後の合併症もごくわずかになり、術後10日から2週間の早期に退院していただくことも可能になりました。

○ 心臓弁膜症（小切開心臓手術及び経カテーテル大動脈弁置換術）

弁膜症に対する手術法は、人工弁による弁置換術と弁形成術があります。新世代の人工弁の機能・耐久性とも格段に向上していますが、ワーファリンを服用しなくてはならずそれによる出血等の副作用もあります。一方、弁形成術は自分の弁温存を図るものでありワーファリン服用の必要がありません。当院では弁形成術、特に僧帽弁に対する形成術を積極的に行っています。また、左小切開開胸による低侵襲心臓手術も適応を選んで積極的に行っています。更に重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）を導入しています。

○ 重症心不全の外科治療

拡張型心筋症や虚血性心筋症などの重症心不全に対する左室縮小手術や僧帽弁逆流に対する介入、更に心臓移植へのブリッジである補助人工心臓植え込み術などを適応に合わせて行っています。

○ 胸部・腹部大動脈瘤

ステントグラフト内挿術：近年、大動脈瘤や大動脈解離（解離性大動脈瘤）の治療は、手術によって瘤の部分を人工血管に置換する方法のみならず、カテーテルを用いて人工血管を血管の内側からあてがう大動脈ステントグラフト内挿術が登場し、動脈瘤の場所や種類によっては、手術せずに大動脈瘤を治療できる時代になりました。麻酔も全身麻酔ではなく、局所麻酔で行うこともできるので、体の負担は外科手術に比し、極めて低いのが特徴です。ただ、ステントグラフトには改良の余地もあり、長期成績についてはいまだ議論すべき点はあります。したがって全ての大動脈瘤の患者さんにこの治療法が適応になるわけではなく、大動脈瘤の場所、形状、患者さんの全身状態、年齢等を十分加味し、より適切な治療法を選択します。

○ 末梢血管疾患

閉塞性動脈硬化症

閉塞性動脈硬化症に対する治療は薬物治療、カテーテル治療やバイパス手術などがあります。私たちは、患者さんに対して負担の少ないカテーテル治療から、カテーテル治療が不可能な病変に対してはバイパス手術、またはこれらを複合させた治療方法を、病変部位、病変数、患者さんの全身状態等を加味して選択し、生活の向上を目指した治療を行います。重症下肢虚血には高度な技術を要する足関節レベルまでのバイパス術を積極的に行っています。

下肢静脈瘤のレーザー治療

最新のレーザー治療から静脈瘤切除まで患者さんにあった適切な方法をご提供させて頂きます。

透析のアクセス造設及びメンテナンス

血管内治療から人工血管を用いたアクセス作成まで幅広くやっています。

診療部長　福田（ふくだ）　宏嗣（ひろつぐ）
医局長　緒方（おがた）　孝治（こうじ）
外来医長　土屋（つちや）　豪（ごう）
病棟医長　加藤（かとう）　昂（たかし）

外来受付電話番号　0282-87-2206

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
福田（ふくだ）　宏嗣（ひろつぐ）	教　授	心臓血管外科	低侵襲心臓血管手術	＊1 ＊2
柴崎（しばさき）　郁子（いくこ）	教　授	心臓血管外科	弁膜症手術、心不全外科	＊1 ＊2
緒方（おがた）　孝治（こうじ）	准教授	心臓血管外科	血管外科	＊1 ＊2
小西（こにし）　泰介（たいすけ）	准教授	心臓血管外科	心臓・血管外科	＊1 ＊2
川村（かわむら）　匡（まさし）	准教授	心臓血管外科	成人心臓血管外科・心不全外科・心臓弁膜症・心臓移植	＊1 ＊2
土屋（つちや）　豪（ごう）	講　師	心臓血管外科	心臓・血管外科	＊1 ＊2
清水（しみず）　理葉（りは）	講　師	心臓血管外科	血管外科	＊1 ＊2
手塚（てづか）　雅博（まさひろ）	大学院生	心臓血管外科	血管外科領域のハイブリッド治療	＊1 ＊2
加藤（かとう）　昂（たかし）	助　教	心臓血管外科	成人心臓血管外科・大動脈瘤などの血管内治療	＊1 ＊2
横山（よこやま）　昌平（しょうへい）	大学院生	心臓血管外科	成人心臓血管外科	＊1
廣田（ひろた）章太郎（しょうたろう）	助　教	心臓血管外科	血管外科	＊1
松岡（まつおか）　大貴（たいき）	助　教	心臓血管外科	血管外科	
大久保（おおくぼ）翔平（しょうへい）	レジデント	心臓血管外科	成人心臓血管外科	
松下（まつした）　恭（やすし）	非常勤准教授	心臓血管外科	血管外科	＊1 ＊2 ＊3
斎藤（さいとう）　俊輔（しゅんすけ）	非常勤准教授	心臓血管外科	成人心臓血管外科	＊1 ＊2

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医
＊2：特定非営利活動法人　日本心臓血管外科学会　心臓血管外科専門医
＊3：一般社団法人　日本循環器学会　循環器専門医

□ 専門外来

新患外来	月	am 9:00 ～ 12:00	福田　宏嗣	
冠動脈外科、心臓弁膜症、大動脈外科（ステントグラフト内挿術）	月	am 9:00 ～	福田　宏嗣	
血管外科	火・金（第2・4）	am 9:00 ～	緒方　孝治	心臓血管外科専門医、脈管専門医
冠動脈疾患、心臓弁膜症、大動脈瘤	火	am 9:00 ～	柴崎　郁子	心臓血管外科専門医
弁膜症（TAVI）、VAD外来	火	pm 1:00 ～	柴崎　郁子	心臓血管外科専門医
大動脈外科（ステントグラフト内挿術）	木	pm（第2・4）	清水　理葉	心臓血管外科専門医、脈管専門医
心臓血管外科一般			小西　泰介	心臓血管外科専門医、ステントグラフト実施基準管理委員会指導医
血管外科、大動脈外科（ステントグラフト内挿術）	金	am 9:00 ～	手塚　雅博	心臓血管外科専門医、脈管専門医、血管内治療医

回診、カンファレンス

○教授回診	水	am 8:00 ～	
○カンファレンス	月	pm 6:00 ～	ハートセンター内科・外科の合同カンファレンス
	火	pm 5:00 ～	心臓・血管外科カンファレンス
	水	am 8:00 ～	呼吸器外科・心臓・血管外科合同カンファレンス
	金	pm 5:00 ～	ハートセンター TAVIカンファレンス、VADカンファレンス、末梢血管カンファレンス

3ヵ月に1回、心臓・血管内科・循環器内科・心臓・血管外科の循環器疾患症例検討会を行っています。

呼吸器外科

□ 診療内容

当科は、呼吸器（肺、縦隔、胸壁など）疾患に対する外科治療を行っています。肺がんなどの腫瘍性疾患をはじめ、肺真菌症や膿胸などの炎症性疾患、気胸や呼吸不全などの機能性疾患に対し、最も良い治療法を選択し治療して参ります。また、脳死肺移植実施施設として肺移植適応症例を日本臓器移植ネットワークに登録し、肺移植手術を実施しています。

□ 主な対象疾患

○肺がん　○気胸　○縦隔腫瘍　○膿胸　○胸膜中皮腫
○肺移植

□ 特徴・特色

肺がん、縦隔腫瘍、気胸、その他の呼吸器外科疾患に対する手術を年間約250例行っています。特に、進行肺がんに対しては、化学療法や放射線療法を行った後に肺とともに浸潤臓器を合併切除する拡大手術や機能温存手術を積極的に行っています。また、早期肺がんには胸腔鏡併用手術やロボット手術、完全鏡視下肺葉切除を行なっています。

また、脳死肺移植実施施設全国11施設の１つとして認定され、2009年には関東甲信越地方では初となる脳死肺移植手術を施行しました。2024年５月現在、脳死肺移植、生体肺移植を31例に実施しており、肺移植後５年生存率87％の成績を得ています。

□ その他

高度医療

肺がん手術（気管･気管支形成術、血管形成術）、自然気胸･縦隔腫瘍・早期肺がんに対する胸腔鏡手術。

脳死肺移植、生体肺移植

特に紹介していただきたい疾患

肺がん、自然気胸、難治性気胸、縦隔腫瘍、膿胸、肺真菌症、血痰、喀血。

肺移植適応疾患（肺気腫・間質性肺炎・肺高血圧症・気管支拡張症・LAM　など）

肺 移 植

重症呼吸不全患者さんを対象として、肺移植に関する相談に応じています。

他に治療法がなく、肺移植の適応が考えられる場合には、（必要に応じて）検査入院していただき、肺移植適応検討委員会にてその適否が検討されます。最終的に肺移植適応と判定されますと、日本臓器移植ネットワークに登録され移植の日まで待機することとなります。

回診､カンファレンス

○教授回診	水	am 8:00 ～	
○カンファレンス	火	am 8:00 ～	呼吸器外科カンファレンス
		am 8:30 ～	呼吸器外科・呼吸器・アレルギー内科合同カンファレンス
	木	am 8:00 ～	呼吸器外科・呼吸器・アレルギー内科・放射線科合同カンファレンス

月２回、呼吸器外科・呼吸器･アレルギー内科・放射線科・病理部の合同カンファレンス（肺がんキャンサーボード）を行っています。

診療部長　千田　雅之
医局長　井上　尚
外来医長　前田寿美子
病棟医長　井上　尚

外来受付電話番号　0282-87-2206

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
千田　雅之	教　授	呼吸器外科	肺がん、肺移植、縦隔腫瘍、鏡視下手術、膿胸、胸部外傷	＊1 ＊2
前田寿美子	教　授	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊1 ＊2
中島　崇裕	准教授	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊1 ＊2
井上　尚	准教授	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊1 ＊2
山中　秀樹	講　師	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊1 ＊2
蓮実　健太	助　教	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊2
梅田　翔太	助　教	呼吸器外科	呼吸器外科一般	＊2

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医
＊2：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医

□ 専門外来

肺がん、縦隔腫瘍、鏡視下手術、膿胸、胸部外傷	金　am 9:00 ～	千田　雅之
肺移植	水　午前中	千田　雅之
呼吸器外科一般	火　am 9:00 ～	前田寿美子
呼吸器外科一般	月　am 9:00 ～	中島　崇裕
肺がん化学療法	水　am 9:00 ～	井上　尚
呼吸器外科一般	木　am 9:00 ～	井上　尚

脳神経外科

□ 診療内容

脳血管障害（未破裂脳動脈瘤、巨大脳動脈瘤、脳動静脈奇形、モヤモヤ病、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞など）…開頭手術、血管バイパス術、血管内治療、ガンマナイフ治療
脳腫瘍（神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、脊索腫、軟骨肉腫、松果体腫瘍、眼窩内腫瘍、転移性脳腫瘍）…開頭手術、内視鏡手術（経鼻内視鏡、開頭、脳室鏡）、ガンマナイフ治療
脊椎脊髄疾患（変形性頚椎症、後縦靭帯骨化症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄空洞症、脊髄動静脈奇形、腰椎分離・すべり症など）…後方手術、前方手術、内固定術、血管内治療など
機能的脳神経外科（難治性てんかん、顔面けいれん、三叉神経痛、パーキンソン病、癌性疼痛）…開頭手術、定位的手術、ガンマナイフ治療
先天奇形（水頭症、二分脊椎、二分頭蓋、キアリ奇形など）…脳室腹腔短絡術など
頭部外傷…穿頭術、開頭術など

□ 特徴・特色

脳血管障害、頭部外傷、脊髄脊椎外傷を含め、腫瘍、てんかんなど脳神経外科の全分野の疾患に専門体制で対応しております。各分野に手術経験豊富なスタッフを配備し、幅広い疾患に安全な治療を提供します。毎日カンファレンスと回診を行い全スタッフ間での合意のもと治療方針を決定しております。私達の手術等件数は、全国80医科大学病院の中でも屈指の規模です。PETをはじめとした最新の診断設備、**ガンマナイフ**などの定位放射線治療設備、**術中ナビゲーション**・電気生理学的モニタリング装置・術中血管撮影装置・神経内視鏡などの手術支援装置を最大限に活用し、緻密な診断・手術計画に基づいた安全性の高い手術・治療をおこなっています。

脳血管障害に対しては脳卒中専門医４名を含む全科体制で臨み、脳卒中センターならびに救命救急センターとの連携のもと急性期に万全の対応をしております。未破裂脳動脈瘤・脳血管狭窄などに対する予防的治療も含め、開頭手術のエキスパートと血管内治療の専門スタッフが共同で治療にあたります。日本脳神経血管内治療学会の研修施設として認定されており、最先端のデバイスを用いた血管内治療にも取り組んでおります。**脳腫瘍**の集学的治療は強力な分野で、放射線科、血液内科、小児科、県立がんセンターと密に連携しながら、最新かつ最良の治療を提供します。聴神経腫瘍などの良性脳腫瘍に対しても、経験豊富な専門スタッフが信頼できる手術実績をあげています。下垂体、頭蓋底腫瘍に対する経鼻内視鏡手術も耳鼻科と合同で手術を行い、低侵襲な治療を心がけています。**脊椎脊髄疾患**は全国的な評価を確立しており、累積手術数は国内最大規模を誇ります。日本脊髄外科学会の訓練指導施設となっています。頚椎、腰椎の病変に加えて、脊髄そのものの病変、ことに脊髄髄内腫瘍に対しても、モニタリングを駆使しつつ安全かつ適切な外科治療を提供しています。薬剤抵抗性の**難治性てんかん**に対しては、**PET**を含めた最新の画像診断と生理学的検査を駆使した診断・外科治療を行っており、発作消失もしくは軽減を得ています。また、てんかん専門医との協力により小児にも積極的に手術を行い、退行や精神運動発達遅延を改善させています。パーキンソン病（ふるえ、寡動、すくみ歩行）、本態性振戦（ふるえ）などの**不随意運動**に対しても最新の設備を整え、脳深部刺激を多数施行し、確実な治療効果をあげています。また三叉神経痛、顔面痙攣に対しても微小血管減圧術やガンマナイフなど安全な治療を行っています。小児の水頭症や二分脊椎などの奇形に対しても、学内の総合周産期母子医療センターと協力して専門スタッフが治療にあたります。

□ その他

おもな治療症例数（2023年度、一年あたり）
開頭脳動脈瘤クリッピング術等 30
開頭脳腫瘍摘出術等 77
内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術 72
脊髄脊椎手術等 43
血管内治療 95
ガンマナイフ 187
治療件数・手術成績の詳細については私どものウエブサイトにて公表しておりますのでご覧下さい。

【ウェブサイト】
http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/noge/

回診、カンファレンス

以下のカンファレンスを行っております。他施設からのご参加を歓迎いたします。ご相談の症例などがありましたらお気軽にご参加下さい。

○カンファレンス	毎日	7:30am 症例・手術カンファレンス、病棟回診
○教室会	火	6:00pm 抄読会、学会発表予演・報告など
○脳卒中カンファレンス	水	4:00pm
○病理組織検討会	火	4:00pm

診療部長　阿久津博義
医局長　森永　裕介
外来医長　池田　剛
病棟医長　阿久津善光

外来受付電話番号　0282-87-2205

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医
阿久津博義	教　授	脳腫瘍、下垂体腫瘍、頭蓋底腫瘍、聴神経腫瘍	＊1 ＊5 ＊7 ＊11
叶　秀幸	教　授	ガンマナイフ	＊1
宇塚　岳夫	准教授	脳腫瘍	＊1
黒川　龍	准教授	脊椎脊髄疾患、頭蓋底外科	＊1 ＊4
池田　剛	講　師	脳血管障害、血管内治療	＊1 ＊2 ＊8 ＊9
齊藤　克也	講　師	脳血管障害、血管内治療	＊1 ＊2 ＊7 ＊8 ＊9
柴尾　俊輔	講　師	脳腫瘍、頭蓋底腫瘍、聴神経腫瘍	＊1 ＊7 ＊8 ＊10
荒川　明子	助　教	頭部外傷、救急医療	＊1
森永　裕介	助　教	下垂体腫瘍、血管内治療	＊1 ＊3 ＊7 ＊11
阿久津善光	助　教	脳血管障害、血管内治療	＊1 ＊3 ＊8
角　拓真	助　教	脳腫瘍	＊1
本郷　剛	助　教	脳神経外科全般	＊1
河本　俊介	特任教授	脳血管障害、聴神経腫瘍	＊1 ＊8 ＊9
荻野　雅宏	非常勤講師	てんかん、スポーツ医学、機能的脳神経外科	＊1 ＊6 ＊8
増田　洋亮	非常勤講師	パーキンソン病、機能的脳神経外科	＊1 ＊12

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医
＊2：特定非営利活動法人　日本脳神経血管内治療学会　脳血管内治療指導医
＊3：特定非営利活動法人　日本脳神経血管内治療学会　脳血管内治療専門医
＊4：一般社団法人　日本脊髄外科学会　指導医
＊5：一般社団法人　日本脊髄外科学会　認定医
＊6：一般社団法人　日本脳神経外傷学会　認定指導医
＊7：一般社団法人　日本神経内視鏡学会　技術認定医
＊8：一般社団法人　日本脳卒中学会　専門医
＊9：一般社団法人　日本脳卒中の外科学会　技術指導医
＊10：一般社団法人　日本脳卒中の外科学会　技術認定医
＊11：一般社団法人　日本内分泌学会　内分泌代謝専門医
＊12：一般社団法人　日本てんかん学会　専門医

□ 専門外来

必ずご予約ください　午前＝9:00 ～ 11:00am、午後2:00 ～ 4:00pm

下垂体・頭蓋底腫瘍	木	午前	阿久津博義
脳腫瘍	火・木・金	午前	火・金：宇塚岳夫、木：柴尾俊輔
ガンマナイフ	金	午前	叶秀幸
脳血管障害・血管内治療	月・火	午前	月：齊藤克也、火：池田剛
脊椎脊髄外科	月	午前・午後	黒川龍
てんかん	水	午前・午後（第1・3）	荻野雅宏
パーキンソン病	水	午後（第3）	増田洋亮（非常勤）
聴神経・頭蓋底腫瘍	木	午前	柴尾俊輔

整形外科

□ 診療内容

脊椎脊髄病の外科、関節（肩・股・膝・足など）の外科、上肢・手外科、スポーツ障害を中心として、整形外科全般の診療を行っています。この中にはリウマチ、骨軟部腫瘍、スポーツ外傷なども含まれますが、小児から高齢者まで幅広く診察しています。また、救急救命センターを通しての多発外傷も診療しています。

種市教授・稲見教授・森平准教授・高畑准教授を中心とした脊椎グループは、東京や神奈川のほか九州・関西・東北地方など遠方からの受診が増加しており、通常の頚椎・腰椎・胸椎疾患の手術に加え、脊柱側弯症や変性側弯の難易度の高い手術が急増しています。

富沢講師・関本講師を中心とした関節グループはリウマチセンター、スポーツグループとの兼任で多くの関節手術（肩・股・膝・足など）を担当しています。特に難易度の高い肩関節手術や人工関節置換術、人工関節再置換術は県内でもトップクラスの症例数です。

中山講師を中心とした上肢グループは、橈骨遠位端骨折や肘関節周辺疾患・外傷の手術を数多く行っています。

瓜田講師・山口講師を中心としたスポーツ整形グループは、肩・肘・膝等のスポーツ障害の治療を行っています。

□ 特徴・特色

整形外科領域の各疾患や外傷に対してその分野の専門医（整形外科学会認定専門医）が診療（診断・保存的治療・手術）を行っています。種市教授の目標は、超一流の治療を提供することであり、また医局としての使命と考えており、その実践に日夜努力しております。一般的な疾患・外傷も扱っておりますが、高度な手術を要する難治例にも積極的に挑戦しています。その治療成績は国内外から高い評価を受けており、遠方から患者さんが受診される理由となっています。

□ 外来

	月	火	水	木	金	土
午前	(脊椎) 高畑雅彦　准教授 菅藤智哉　医員 土井一雄　医員 (関節) 吉川勝久　講師 (手) 中山健太朗　講師	(脊椎) 新井秀和　医員 (関節) 山口雄史　講師 池田隆太郎　医員 苛原　航　医員 都丸哲平　医員 (手) 大髙遼太郎　医員	(脊椎) 種市　洋　教授 (予約のみ) 稲見　聡　教授 森平　泰　准教授 高畑雅彦　准教授 浅野太志　医員 髙田知史　医員 (関節) 柴　佳奈子　講師	(関節) 瓜田　淳　講師 知場一記　医員 (手) 中山健太朗　講師 (リウマチセンター・整形) 富沢一生　講師 関本巌雄　講師	(脊椎) 稲見　聡　教授 森平　泰　准教授 上田明希　講師 (スポーツ) 瓜田　淳　講師 (関節) 富沢一生　講師 山口雄史　講師 (手) 小曽根和毅　医員 (PM)	※1診［交代制］
午後 専門外来	＊種市教授へのご紹介の際は、お電話にて予約をお取り下さい。整形外科外来〔TEL：0282-87-2207（直通）〕 ＊初診をはじめ患者さんのご紹介をいただく場合は必ず事前に整形外科外来〔TEL：0282-87-2207（直通）〕までお問い合わせ下さい。					

整形外科入院患者さんの診療体制

病院の特徴から、手術による治療を行う患者さんだけが入院の対象となります。

●現在４つの診療グループ（脊椎、関節、上肢、スポーツ）があり、各グループは、その領域の専門知識と指導的診療能力を持った医師（整形外科学会認定専門医）が診療班長となり、その医師の指導のもとに診療を行っています。

●障害部位別あるいは疾患別によって適切なグループが担当しますが、初診にあってはその限りではありません。特に、紹介状を持参されないときはグループを指定することはできませんので、ご承知おきください。その場合にあっても、通常は次回から専門グループの診察に廻ることができます。

●治療方針は、担当した診療グループが治療計画を立て、それを全員の医師で検討する症例検討会に提出しそこで最終的に決まります。

●手術後の経過は各担当グループが退院まで観察し適時対応いたします。この間、教授回診や検討会で手術所見や術後結果が報告されチェックを受けます。

診療部長　種市（たねいち）　洋（ひろし）
医局長　富沢（とみざわ）　一生（かずお）
外来医長　高畑（たかはた）　雅彦（まさひこ）
病棟医長　瓜田（うりた）　淳（あつし）

外来受付電話番号　0282-87-2207

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医
種市（たねいち）　洋（ひろし）	教　授	脊柱側弯症、変性腰椎・頚椎の外科、リウマチ頚椎	＊1
稲見（いなみ）　聡（さとし）	教　授	脊椎外科、脊柱側弯症	＊1
森平（もりだいら）　泰（ひろし）	准教授	脊椎外科、脊柱側弯症	＊1
高畑（たかはた）　雅彦（まさひこ）	准教授	脊椎外科、脊柱靱帯骨化症、骨粗鬆症	＊1
富沢（とみざわ）　一生（かずお）	講　師	股関節外科、膝関節外科、リウマチ性疾患	＊1
瓜田（うりた）　淳（あつし）	講　師	スポーツ整形外科	＊1
山口（やまぐち）　雄史（ゆうじ）	講　師	スポーツ整形外科	＊1
中山健太朗（なかやまけんたろう）	講　師	手外科、上肢外科	＊1
関本（せきもと）　巌雄（いわお）	講　師	股関節外科、膝関節外科、リウマチ性疾患	＊1
菅藤（かんとう）　智哉（ともや）	助　教	脊椎外科	＊1
髙田（たかだ）　知史（さとし）	助　教	脊椎外科	＊1
土井（どい）　一雄（かずお）	助　教	脊椎外科	＊1
苛原（いらはら）　航（わたる）	助　教	関節外科、外傷一般	＊1
大髙遼太郎（おおたかりょうたろう）	助　教	手外科、上肢外科	＊1
都丸（とまる）　哲平（てっぺい）	助　教	関節外科、外傷一般	＊1
菊池（きくち）　佑実（ゆみ）	助　教	整形外科、外傷一般	
菊地（きくち）　優貴（ゆうき）	レジデント	整形外科、外傷一般	
北村（きたむら）　大樹（だいき）	レジデント	整形外科、外傷一般	
篠﨑（しのざき）　歩（あゆみ）	レジデント	整形外科、外傷一般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人日本整形外科学会 整形外科専門医

□ その他

担当医全員で行う症例検討会と各専門分野の担当医で行う検討会が行われています。参加を希望する先生は連絡下さい。詳細を連絡いたします。

	曜　日	時　間	場　　所
手術患者症例検討会	水曜日	午前７時30より	新館５階病棟整形外科カンファランスルーム
脊椎班症例検討会	火曜日	午後６時より	整形外科研究室
関節班症例検討会	月曜日	午後６時より	整形外科研究室
上肢班症例検討会	月曜日	午後５時より	整形外科研究室

泌尿器科

□ 診療内容

当泌尿器科では、特定機能病院およびがん治療拠点病院としての獨協医科大学病院の社会的使命を鑑み、1)先進医療、2)地域連携、3)チーム医療を積極的に推進しつつ、泌尿器科全般の診療を行っています。泌尿器科は主として後腹膜腔・骨盤腔に存在する臓器（副腎、腎、尿路系）及び男子生殖器を診療対象にしており、それら臓器およびその周囲組織の腫瘍学、排尿学、結石学、男性・生殖学、感染症学、救急・外傷学、機能障害等を担当しています。

外来での一般外来は３～４人の医師が担当しています。また、下記の専門外来を開いています。入院患者さんへの診療は、手術療法および化学療法が主体となります。

□ 特徴・特色

最新の知識や技術・設備の提供だけではなく、ガイドラインやEBM（臨床効果が認められた治療）に基づく医療を中心とし、低侵襲手術、先進医療、がんの集学的治療を積極的に行っています。

低侵襲手術としては、早期がんおよび良性腫瘍（副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管がん、前立腺がん）に対して、腹腔鏡下手術（後腹膜鏡下および単孔式LESS）と腹腔鏡下小切開手術（MIES）を積極的に行っており、現在では、年間約100件の実績があります。これらの手術では、手術翌日から飲水と歩行が可能となり、早期退院につながります。また、排尿障害（前立腺肥大症や尿失禁等）や尿路結石に対しても、低侵襲治療を行い良好な手術成績を収めています。さらに2012年10月より、早期前立腺がんに対し、2016年4月より、早期腎がんに対し、2021年6月より、浸潤性膀胱癌に対し、2022年4月より、副腎腫瘍、腎盂尿管がんに対し、da Vinciサージカルシステムを用いたロボット支援手術を開始し、こちらも良好な手術成績を収めており、現在は年間約230件以上の実績があります。現在、低侵襲手術の主流はロボット支援手術へと変化してきており、その潮流を患者さんに提供することを当科の社会的責務としています。

また、個々の患者さんの病状・病態にできるだけ適合させた治療の可能性を模索すべく、院内の倫理委員会や治験委員会の承諾を得て、他大学・施設との共同臨床研究にも積極的に参画しています。

がん（特に進行がん）の集学的治療に対しては、病気そのものに対する手術・化学薬物・放射線治療に加え、全人的医療の見地から、緩和医療（痛みの軽減）や精神的医療（癌に対する精神的不安の軽減）や高額医療等の不安に対してのサポート体制を構築しており、各領域の専門の医師や看護師や事務職と連携をとりながら治療に当たっています。

□ 専門外来

尿路結石外来（体外衝撃波治療）	木曜日午後（福田助教）
化学療法外来	土曜日午前　木島講師
セカンドオピニオン外来（適宜）	釜井（腎細胞癌、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍）
	安士（前立腺癌）
	木島（膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣癌）

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

高血圧や糖尿病の精査中にたまたま見つかった偶発腫瘍：
（多くが腹腔鏡下手術や腹腔鏡下小切開手術の適応となります）
進行性がん・難治性がん：
（集学的治療の対象となります）
血清PSA値が3.0～10.0 ng/ml：
（前立腺がんの早期発見につながり、治療の選択肢が増えます）
排尿障害・尿失禁：
（高度の集学的治療が可能です）
LOH症候群（加齢性性腺機能低下症候群）：
（多くがホルモンの補充療法の適応となります）

診療部長	釜井　隆男
医局長	木島　敏樹
外来医長	安士　正裕
病棟医長	木島　敏樹

外来受付電話番号　0282-87-2208

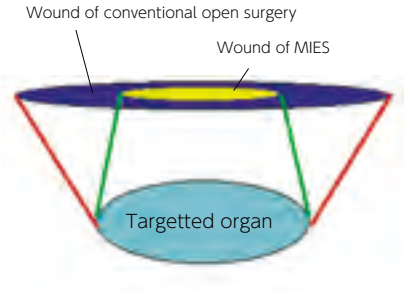
□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
釜井　隆男	教　授	泌尿器外科学	泌尿器疾患の外科的治療、腎細胞癌、後腹膜腫瘍	＊1
安士　正裕	教　授	泌尿器外科学	前立腺癌、前立腺肥大症	＊1
木島　敏樹	講　師	泌尿器外科学	膀胱癌、前立腺癌	＊1
別納　弘法	講　師	泌尿器外科学	泌尿器腫瘍	＊1
福田　武彦	非常勤助教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	
武井　航平	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
戸倉　祐未	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
植松　稔貴	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
国分　英利	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
大久保尚弥	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
倉科　　凌	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	＊1
岡﨑　明仁	助　教	泌尿器外科学	泌尿器科全般	
古藤野茉莉子	レジデント	泌尿器外科学	泌尿器科全般	
稲葉　咲葵	レジデント	泌尿器外科学	泌尿器科全般	
窪田　晴香	レジデント	泌尿器外科学	泌尿器科全般	
藤田　素輝	レジデント	泌尿器外科学	泌尿器科全般	

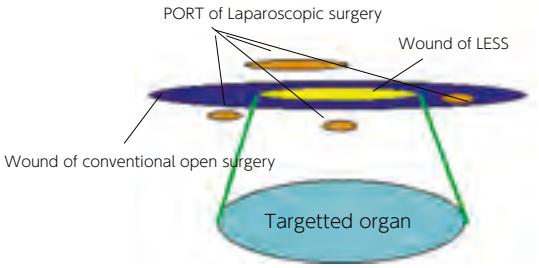
＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本泌尿器科学会　泌尿器科専門医

MIESは肉眼的な直視とモニター画面を見ながら手術を行う。



後腹腔鏡下手術および単孔式腹腔鏡下手術はモニター画面のみを見ながら手術を行う。



da Vinci サージカルシステムを用いたロボット支援前立腺全摘術

眼科

□ 診療内容

午前の外来診療は一般外来として、眼科疾患全般及び紹介患者さんを対象に診察を行っています。午後は専門外来が中心となり、曜日ごとに屈折矯正、ぶどう膜炎、未熟児網膜症、角膜疾患、斜視弱視、白内障・水晶体疾患などの難治および重症疾患を対象として診断、治療を専門医が担当して行っています。

□ 特徴・特色

当科では、重症疾患、救急疾患、外傷および手術適応疾患について、迅速かつ慎重に対応し、患者さん中心の診療体系を確立し、地域医療に貢献できるよう努力をしております。獨協医大眼科の理念として「良質で安全・安心な医療の提供、協調と納得の医療、向上を目指し切磋琢磨、見ることへの挑戦」をあげ、医療の質だけではなく心のこもった医療が行えるように、文字どおり切磋琢磨しております。

□ 専門外来

クロスリンキング外来（伊藤、高橋（鉄））月曜日
対応疾患…円錐角膜など
PTK外来（伊藤、高橋（鉄））月曜日
対応疾患…近視矯正、乱視矯正、角膜混濁疾患（PTK）など
ぶどう膜外来（鈴木（重）、高山）火曜日
対応疾患…各種ぶどう膜炎（サルコイドーシス、ベーチェット、原田病など）
ロービジョン外来（鈴木（重））火曜日
未熟児・小児眼科・NICU外来（石井、山﨑、鈴木（幹））水曜日
対応疾患…未熟児網膜症、先天白内障など
黄斑部外来（須田、岡安）水曜日
対応疾患…加齢黄斑変性症、黄斑円孔、黄斑前膜、黄斑浮腫など
斜視・弱視外来（早津、宮下、武村、山﨑、新井）木曜日
対応疾患…斜視、弱視、小児神経眼科疾患など
角膜外来（妹尾、伊藤、千葉（矩）、高山）金曜日
対応疾患…全層角膜移植、深部表層角膜移植、角膜内皮移植、輪部移植、羊膜移植、コンタクトレンズ、ドライアイなど
涙道外来（古藪、高橋（鉄））金曜日
対応疾患…鼻涙管狭窄症など
眼瞼外来（横塚）金曜日
対応疾患…眼瞼疾患（麦粒腫・散粒腫・マイボーム腺梗塞など）

※午後の外来は基本的に予約のある患者さんのみ診察を行っています。（救急疾患の患者さんは順次受け付けております。）

□ 診療実績

術後成績は網膜剥離復位率約98％、黄斑円孔閉鎖率約98％などと良好な成績を得ています。昨年の眼科手術件数は約2,400件で、内訳は白内障、網膜剥離、増殖糖尿病性網膜症、黄斑疾患（円孔、前膜、血腫）、角膜移植、緑内障手術、斜視手術、腫瘍、（眼瞼および結膜・眼窩および眼内）、眼瞼下垂などです。黄斑外来では硝子体注射ならびにPDT（光線力学的療法）を積極的に導入して治療に取り組んでおります。また、内皮移植用のケラトームを導入し国内ドナー角膜による角膜内皮移植（DSAEK）、フェムトセコンドレーザーによる角膜手術などを積極的に取り組んでおります。

角膜移植：先端技術の羊膜移植や深層表層角膜移植（DALK）、角膜内皮移植（DSAEK）、フェムトセコンドレーザーアシスト移植（IEK）をはじめ、全ての角膜移植が可能です。角膜の供給は全国でもトップクラスです。
屈折矯正手術：エキシマレーザーによるレーザー治療的角膜切除術（PTK）が可能となっています。
白内障手術：難症例の白内障手術にも対応しています。また、白内障短期入院設備も備えています。
網膜硝子体手術：最新の手術機器・顕微鏡をそろえ、一般病院では対応困難な網膜剥離、増殖性網膜症、黄斑下出血、眼外傷、眼内炎などの難症例にも対応できます。
眼瞼・涙道手術：腫瘍、鼻涙管閉塞、眼瞼下垂など眼付属器に対しての手術にも対応しています。
斜視手術：外斜視、内斜視、上下斜視に対する手術のほか、斜筋手術や筋移動術にも対応しています。

診療部長　妹尾（せのお）　正（ただし）

医局長　山﨑（やまざき）　駿（しゅん）

外来医長　千葉（ちば）　矩史（のりふみ）

病棟医長　千葉（ちば）　矩史（のりふみ）

外来受付電話番号　0282-87-2209

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域
妹尾（せのお）　正（ただし）	教　授	眼科全般、角膜、網膜硝子体	角膜移植
松島（まつしま）　博之（ひろゆき）	准教授	眼科全般、白内障、網膜硝子体	水晶体
永田万由美（ながたまゆみ）	准教授	眼科全般、白内障、網膜硝子体	水晶体
鈴木（すずき）　重成（しげなり）	講　師	眼科全般、ぶどう膜	ぶどう膜疾患
伊藤（いとう）　栄（さかえ）	講　師	眼科全般、角膜、屈折矯正、白内障	屈折矯正
千葉（ちば）　矩史（のりふみ）	助　教	眼科全般、角膜、網膜硝子体	角膜疾患
高橋（たかはし）　鉄平（てっぺい）	助　教	眼科全般、涙道疾患	涙道疾患
石井洋次郎（いしいようじろう）	助　教	眼科全般、ぶどう膜、角膜	角膜疾患
武村（たけむら）　千紘（ちひろ）	助　教	眼科全般、斜視弱視、白内障、小児眼科	斜視弱視
横塚（よこつか）　奈央（なお）	助　教	眼科全般、白内障	眼瞼疾患
古藪幸貴子（こやぶさきこ）	助　教	眼科全般、白内障	涙道疾患
岡安（おかやす）　彬彦（あきひこ）	助　教	眼科全般、白内障	水晶体
山﨑（やまざき）　駿（しゅん）	助　教	眼科全般、白内障	水晶体
新井亜由美（あらいあゆみ）	助　教	眼科全般	
小野（おの）　優（ゆう）	助　教	眼科全般、眼瞼疾患	
高山（たかやま）　朋子（ともこ）	助　教	眼科全般、白内障	
鈴木（すずき）　幹崇（みきたか）	助　教	眼科全般	
松本（まつもと）はるか	レジデント	眼科全般	
輿石（こしいし）　侑花（ゆか）	レジデント	眼科全般	
中野（なかの）　正也（まさや）	レジデント	眼科全般	
藤沢（ふじさわ）　哲至（てつし）	レジデント	眼科全般	
千葉（ちば）　桂三（けいぞう）	非常勤講師	眼科全般、角膜、屈折矯正、斜視弱視	角膜疾患
高橋（たかはし）　佳二（けいじ）	非常勤講師	眼科全般、網膜硝子体、眼瞼、涙器	
須田（すだ）　雄三（ゆうぞう）	特任准教授	眼科全般、網膜硝子体、黄斑部疾患	黄斑疾患
早津（はやつ）　宏夫（ひろお）	非常勤講師	眼科全般、斜視弱視	
宮下（みやした）　博行（ひろゆき）	非常勤助教	眼科全般、斜視弱視、白内障、小児眼科	斜視弱視
岸本（きしもと）　尚人（ひさと）	非常勤助教	眼科全般、先天白内障、コンタクト	
荒川（あらかわ）　恭子（きょうこ）	非常勤助教	眼科全般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

□ その他

主な医療設備

外来診察用細隙灯顕微鏡（9台）、病棟診察用細隙灯顕微鏡（5台）、入院施設（ベット数42）、スペキュラーマイクロスコープ、レーザーフレアセルメーター、ビジュアルフィールドアナライザー、スキャニングレーザーオフサルモスコープ、エキシマレーザー、フェムトセコンドレーザー、内皮移植用ケラトーム、白内障手術装置（手術室2台）、硝子体手術装置（2台）、超音波診断装置、眼底レーザー装置、PDT（黄斑用）レーザー装置、YAGレーザー装置、デジタル眼底カメラ、前眼部解析装置、前眼部OCT、OCTアンギオグラフィー、ノンコンタクトトノメーター、その他

耳鼻咽喉・頭頸部外科

□ 診療内容

耳鼻咽喉・頭頸部外科の守備範囲は非常に広く、耳・鼻・咽頭喉頭疾患はもとより頭頸部腫瘍や甲状腺・副甲状腺疾患も含まれます。さらに当科では院内の内視鏡センターを活用し、上部消化管や呼吸器疾患にも対応した診療体制を整えています。

患者さん一人ひとりのニーズに応えるべく、専門的かつ包括的な診療を実践しています。特定機能病院ならではの診療体制で、地域医療に貢献しております。

□ 特徴・特色

1）鼻副鼻腔疾患：高難易度症例に対してもナビゲーションシステムの支援により、術中リアルタイムに鼻副鼻腔の形態を正確に把握することで、安全性の高い内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っています。また、頭蓋底腫瘍に対して低侵襲の経鼻内視鏡下頭蓋底手術を脳神経外科と協力して積極的に行っています。花粉の定点観測を行い、花粉の飛散状況、飛散数予測に基づいたスギ花粉症を含む鼻アレルギーの薬物療法、免疫療法および手術療法による総合的な治療を行っています。

2）耳科疾患：慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳小骨奇形などに対し、豊富な治療経験を有します。

3）頭頸部腫瘍：甲状腺や唾液腺も含めた幅広い頭頸部悪性腫瘍の治療を行っています。進行がんには、形成外科と協力して再建手術を行うなど、機能温存手術に積極的に取り組んでいます。

4）咽喉頭疾患：内視鏡検査、嚥下機能検査、音響分析などを積極的に行い、咽喉頭の質的ならびに機能的評価を行っています。

5）睡眠呼吸障害：睡眠医療センターおよび県内他施設とも連携し、成人および小児の睡眠呼吸障害の診断と、手術適応を含めた治療方針の決定を行っています。また、舌下神経電気刺激療法を行っています。

□ 診療体制

各診療日とも5～6名の担当医師が診療にあたっています。また、日本気管食道科学会、日本アレルギー学会の各専門医や、がん治療認定医も診療にあたっています。

病棟では10名の医師が2チームに分かれて診療し、夜間休日を除いて急患の受け入れに対応できる体制をとっています。入院中は、クリニカルパスを併用することで医療安全の向上と診療の効率化を図っています。

□ 主な医療設備

ナビゲーションシステム、聴性脳幹反応検査、聴性定常反応検査、電気眼振図検査、他

□ 診療実績（2023年度）

手術件数	2023年度の総手術件数は手術総数2,154件 内訳（外来小手術含む、重複あり） 鼓室形成術、乳突洞削開術など：　193件 内視鏡下鼻副鼻腔手術など：　1,254件 口蓋扁桃摘出術、喉頭微細手術など口腔咽喉頭手術：212件 唾液腺腫瘍手術、甲状腺腫瘍手術、頸部悪性腫瘍手術など頭頸部手術：337件 そのほか：　158件
外来患者数	2023年度の総外来患者数　34,014名 （うち新患2,234名） 1日平均121.4名
入院患者数	2023年度の入院延患者数12,186名 1日平均33.2名

□ 専門外来

○鼻副鼻腔嗅覚外来　毎週金曜日午後
　担当医　中山、柏木、常見
○小児難聴外来　毎週水曜日午後
　担当医　滝瀬、増山
○睡眠呼吸障害外来　毎週月、火曜日午後
　担当医　中島（逸）、今井
○アレルギー外来　毎週月曜日午後
　担当医　今野
○めまい外来　毎週木曜日午後
　担当医　添田（一）、滝瀬、吉田
○声の外来（音声外来）毎週金曜日午後
　担当医　生野、吉田
○内視鏡外来　毎週火曜日午後
　担当医　平林、今井、阿久津
○嚥下障害外来　毎週木曜日午後
　担当医　後藤、小泉
○耳術後外来　毎週金曜日午後
　担当医　深美
○腫瘍外来　毎週月曜日午後
　担当医　平林、今野

診療部長　中山　次久
医局長　柏木　隆志
外来医長　中島　逸男
病棟医長　今野　渉

外来受付電話番号　0282-87-2210

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
中山　次久	教　授	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患、鼻アレルギー	＊1 ＊4
春名　眞一	名誉教授	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	＊1 ＊4
平林　秀樹	特任教授	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍、気管・食道異物、音声言語障害	＊1 ＊2
深美　悟	教　授	耳鼻咽喉科	中耳疾患、小児補聴器、小児難聴	＊1 ＊7
中島　逸男	准教授	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、睡眠呼吸障害	＊1 ＊5
今野　渉	講　師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、頭頸部腫瘍、鼻アレルギー	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
柏木　隆志	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	＊1
常見　泰弘	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
阿久津　誠	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
永島　祐美	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
今井　貫太	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
滝瀬由吏江	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
増山　由丹	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1
小泉　舜	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	
吉田健太郎	助　教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	
稲葉　護	レジデント	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	
添田　弘之	レジデント	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	
岩瀬　朗子	非常勤講師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻アレルギー	＊1
添田　一弘	非常勤講師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、めまい	＊1
後藤　一貴	非常勤講師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、嚥下機能障害	＊1 ＊2
生野　登	非常勤助教	耳鼻咽喉科	気管食道科一般、音声言語障害	＊1 ＊2
宗田　由美	非常勤助教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1 ＊2
豊田　由香	非常勤助教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻アレルギー	＊1
内藤　文明	非常勤助教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻アレルギー	＊1
山川　秀致	非常勤助教	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	＊1
蒲　伸泰	医　員	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科一般	＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　日本専門医機構認定　耳鼻咽喉科専門医
＊2：特定非営利活動法人　日本気管食道科学会　気管食道科専門医
＊3：日本頭頸部外科学会　頭頸部がん専門医
＊4：一般社団法人　日本アレルギー学会　アレルギー専門医
＊5：日本睡眠学会　睡眠医療認定医
＊6：暫定鼻科指導医
＊7：暫定耳科指導医

特に紹介していただきたい疾患

耳：慢性化膿性中耳炎、真珠腫性中耳炎、難治性中耳炎、コレステリン肉芽腫、他
鼻：慢性鼻副鼻腔炎、好酸球性鼻副鼻腔炎、鼻アレルギー、副鼻腔腫瘍（良性、悪性）、眼窩壁骨折、鼻中隔弯曲症、他
咽頭：咽喉頭炎、上・中・下咽頭腫瘍、睡眠時無呼吸症候群、他　喉頭：声帯ポリープ、喉頭軟弱症、喉頭腫瘍（良性、悪性）、嚥下障害、他
頸部：甲状腺疾患、気管・気管支疾患、食道疾患、顎下腺疾患、耳下腺疾患、他

産科婦人科

□ 診療内容

産科婦人科は、婦人科腫瘍・周産期・生殖内分泌・女性医学と幅広い領域を扱いますが、当科はそれぞれの領域の専門医が在籍し専門的な医療を提供しています。

・婦人科腫瘍分野では、がんの地域拠点病院として、合併症を有する患者さんを積極的に受け入れ、外科・泌尿器科をはじめ複数診療科と連携しながら診療にあたっています。
・女性医学では、ホルモン治療を中心とした若い方の卵巣機能不全から、更年期障害、骨粗鬆症や動脈硬化への対応まで行います。思春期から更年期・老年期まで、quality of lifeの向上を目標に治療をしています。
・生殖内分泌分野では、月経困難症・無月経・多嚢胞性卵巣症候群・ホルモン異常に対し、ホルモン負荷試験や薬物療法を行います。また流産を繰り返すいわゆる不育症の検査・治療や、性分化異常や先天奇形の検査・手術療法を行っています。
・周産期分野では、小児科・新生児科と協力しながら総合周産期母子医療センターの一端をにない、県下全域からのハイリスク妊娠、産科救急症例の母体搬送をNICUとの連携協力のもと全ての妊娠週数で引き受けています。また、遺伝性疾患のカウンセリングや出生前診断のご相談にも応じています。

対象疾患

婦人科良性腫瘍：子宮筋腫、卵巣腫瘍
婦人科悪性腫瘍：子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、卵管がん、外陰がん、腟がん、絨毛がん
妊娠・分娩管理：妊婦健診、合併症妊娠管理、周産期感染症、遺伝相談、新型出生前遺伝学的検査
婦人科内分泌疾患：先天異常、月経異常、子宮内膜症、不妊・不育症
女性医学：先天奇形、思春期・中高年期の健康管理
その他：性感染症など

□ 特徴・特色

婦人科腫瘍

1. 子宮頸がん：上皮内がん、初期浸潤がんに対して子宮温存治療（円錐切除術）を行っています。ループ式電気円錐切除による日帰り治療も行っています。浸潤がんでは手術療法や放射線治療（放射線科と共同）を行っています。
2. 子宮体がん：早期例ではロボット支援下の低侵襲手術を行っています。また、妊娠を希望する若年患者さんに対して妊孕性温存療法(ホルモン治療）を積極的に行っています。
3. 卵巣がん：外科・泌尿器科と共同で積極的に拡大手術を行っています。進行・再発例にはがんゲノム検査も導入しています。
4. 子宮筋腫・子宮腺筋症：マイクロ波子宮内膜アブレーション（MEA）や、子宮動脈塞栓術（UAE）も導入しています。UAEは適応を確認した上で、放射線科に依頼して行っています。
5. 良性腫瘍（卵巣嚢腫や子宮筋腫など）：腹腔鏡やロボット支援下の低侵襲手術を導入しています。子宮筋腫や内膜ポリープに対し子宮鏡下手術を行っています。
6. 遺伝性乳癌卵巣がんの方に、予防的卵巣・卵管切除を行っています（遺伝カウンセリングが必要です）。遺伝性腫瘍未発症者の婦人科サーベイランスを行っています。

女性医学

1. 思春期外来では月経異常、思春期早発症などの内分泌異常、避妊相談に対応しています。また先天性ないしは悪性腫瘍治療後の卵巣機能低下に対するホルモン治療も女性医学専門医により行っています。
2. 中高年外来では、更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症、尿失禁などに対して、ホルモン補充療法、漢方療法に加えメンタルケアを含めた女性の生涯ケアを目的とした管理・治療を行っています。

生殖内分泌

1. 不妊治療は当院リプロセンターで対応しています。
2. 習慣流産などの不育症についての検査治療を行っています。
3. 月経困難症・無月経・多嚢胞性卵巣症候群・ホルモン異常などの検査・治療を行っています。

周産期

1. 総合周産期母子医療センターでは年間約500件の分娩を取り扱い、県内および近県から母体搬送、ハイリスク妊婦を常時引き受けています。2018年4月より、バースセンターが開設され、助産師によりローリスク妊婦の妊娠・分娩管理及び産後ケアを開始しました。
2. 産科危機的出血に対して、症例を選択して放射線科医による出血原因血管の塞栓術を行ったり、薬物療法や輸血、各種新規器材を用いたり、緊急手術を行うなど救急科とも連携して集学的に対応します。
3. 日本超音波医学会認定指導医・専門医による胎児診断を行っています。
4. 遺伝外来では、臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリング、出生前遺伝学的検査の相談や検査、薬剤催奇形性、遺伝性腫瘍などの相談を行っています。

診療部長（婦人科）	三橋　暁
診療部長（産　科）	成瀬　勝彦
医局長	久野　達也
外来医長	添田わかな
病棟医長（婦人科）	河原井麗正
病棟医長（産　科）	多田　和美

外来受付電話番号　0282-87-2211

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	認定医・専門医
三橋　暁	教　授	婦人科腫瘍	婦人科悪性腫瘍・ロボット手術	＊1,2,4,5,7,8
成瀬　勝彦	教　授	周産期・臨床遺伝	ハイリスク妊娠・出生前診断	＊1,3,6,9
尾林　聡	教　授	女性医学	更年期・末梢循環	＊1,4,10
柴田　英治	教　授	周産期	ハイリスク妊娠	＊1,3
多田　和美	講　師	周産期	ハイリスク妊娠	＊1,3
河原井麗正	講　師	婦人科腫瘍・生殖内分泌・臨床遺伝	婦人科悪性腫瘍・腹腔鏡手術	＊1,3,4,5,6,7,11,12,13
添田わかな	助　教	女性医学	思春期・更年期医学・骨粗鬆症	＊1,4,10
久野　達也	助　教	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
加藤　祥子	助　教	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
廣瀬　雅紀	助　教	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
海寶　望	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
岩崎　健太	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
河津　雄太	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
鷺　瑞月	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
佐久間彗輔	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
中村　響	レジデント	産科婦人科	産婦人科全般	
（以下非常勤）				
渡辺　博	特任教授	周産期・臨床遺伝	超音波診断	＊1,3,6
望月　善子	特任教授	生殖内分泌・女性医学	神経内分泌・思春期更年期	＊1,4,10
吉仲　昭	非常勤医	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
柳田　充雄	非常勤医	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
小田　華	非常勤医	産科婦人科	産婦人科全般	＊1
若井　香織	非常勤医	産科婦人科	産婦人科全般	＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：産婦人科専門医
＊2：婦人科腫瘍専門医
＊3：周産期(母体・胎児)専門医
＊4：女性ヘルスケア専門医
＊5：細胞診専門医
＊6：臨床遺伝専門医
＊7：がん治療認定医
＊8：ロボット外科学会専門医（国内B級）
＊9：超音波専門医
＊10：女性心身医学専門医
＊11：生殖医療専門医
＊12：内分泌代謝科（産婦人科）専門医
＊13：婦人科内視鏡技術認定医

□ 専門外来

腫瘍外来　（月・水・金）
ハイリスク妊娠外来　（火・木）
思春期・更年期外来　（水・金）

□ その他

ご協力のお願い

・当科では１年以上外来を受診されていない方には、紹介状のご持参をお願いしております。
患者さんをご紹介の際には、どうぞご協力の程、宜しくお願い申し上げます。
・初診は予約制とさせていただいており、緊急を要する患者さんの紹介の際は電話での問い合せをお願い致します。

口腔外科

□ 診療内容

下記のような歯科・口腔外科疾患に対し診療を行っています。○口腔・顎顔面領域の腫瘍性疾患（悪性腫瘍、良性腫瘍、腫瘍類似病変）　○唇顎口蓋裂　○顎変形症　○口腔・顎・顔面領域の感染･炎症　○口腔･顎･顔面外傷　○顎関節疾患（顎関節症、脱臼、強直症など）　○口腔粘膜疾患　○歯科インプラント・造骨手術　○唾液腺疾患（腫瘍、唾石症、口腔乾燥症、シェーグレン症候群）　○顎顔面補綴　○有病者・障がい者歯科疾患　○口腔ケア　○睡眠時無呼吸症に対するオーラルスプリント作製、上下顎前方移動術（要医科からの依頼）　○口腔領域のアレルギー疾患（花粉食物関連アレルギー症候群：PFAS、口腔扁平苔癬など）　○歯科矯正治療（唇顎口蓋裂、顎変形症）

□ 診療体制

日曜日と第３土曜日（および病院規定の休診日）を除く毎日、初診患者さんを受け付けます（初診受付時間は病院規定に従います）。受診に当たっては、完全紹介制とさせていただいておりますので、かかりつけ医等からの紹介状をご持参ください。また必要に応じて、救急患者さんは24時間体制で対応しています。

□ 特徴・特色

1. 日本口腔外科学会の指導医、専門医、認定医のほか、各学会の指導医・専門医が多数在籍しています。また各学会の研修施設にも認定されています。
2. 悪性腫瘍外来、唇顎口蓋裂外来、歯科矯正治療（唇顎口蓋裂、顎変形症に対する）外来などの専門外来を設置しています。
3. 入院病床を14床備えており、全身麻酔手術症例だけでなく、局所麻酔・静脈内鎮静法手に対する検査等を目的とした入院対応も可能です。
4. 歯科麻酔医による静脈内鎮静法下での手術（入院･外来）も対応しています。
5. 口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍に対する集学的治療：早期診断、早期治療を念頭に対応。手術療法を主体に、他科とも連携しながら放射線治療、化学療法（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含む）を組み合わせて、良好な治療成績を得ています。過去14年間の口腔扁平上皮癌１次手術症例の５年累積生存率はStage0：100.0　%、Stage1：81.5　%、Stage2：88.4　%、Stage3：85.0　%、Stage4a：66.3　%、Stage4b：80.0％と極めて高い治療水準でした。また腫瘍制御だけでなく、機能や審美面を考慮した治療を行い、QOLの維持・回復にも努めています。手術症例では、形態・機能回復を目的とした血管柄付き遊離皮弁再建を形成外科と連携し行っています。
6. 唇顎口蓋裂への一貫治療：出生直後から成人に至るまで、当科での一貫治療が可能です（ホッツ床作製、口唇形成術、口蓋形成術、歯科矯正医による動的治療、顎裂部骨移植術、上下顎骨骨切り術、口唇鼻修正術、咽頭弁形成術など）。また言語療法や滲出性中耳炎などに対しては、関係各科と連携し治療を行っています。
7. 口腔・顎・顔面外傷の治療：迅速な初期対応のうえ、手術適応症例に対しては早期手術を実施しています。骨折に対しては、骨折部の治癒だけでなく、口腔外科として咬合機能の回復を念頭に置いた治療を行っています。
8. 歯科インプラント治療：腫瘍・外傷による顎欠損症例に対する広範囲顎骨支持型補綴だけでなく、難症例に対する増骨（サイナスリフト､GBR）手術も対応しています。また再生医療として関係法制を遵守し、PRP（多血小板血漿）療法も行っております。
9. 口腔ケア：医学部付属病院における口腔外科として、周術期や化学療法・放射線治療、移植医療を受ける患者さんに対する口腔ケアにも積極的に取り組んでいます。
10. 顎変形症・睡眠時無呼吸症に対する外科的矯正治療：顎変形症に対する外科的手術を併用した顎矯正治療を行なっております。これらの治療は歯科矯正を専門とする歯科医院とも連携して治療を行なっております。また、院内・院外の内科・耳鼻咽喉科と連携しつつ、睡眠時無呼吸症に対するオーラルアプライアンスによる治療や、上下顎前方移動術による治療も行なっております。

診療部長　川又　均（かわまた　ひとし）

医局長　福本　正知（ふくもと　ちょうじ）

外来医長　和久井崇大（わくいたかひろ）

病棟医長　小宮山雄介（こみやまゆうすけ）

外来受付電話番号　0282-87-2212

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
川又　均（かわまた　ひとし）	教　授	□腔外科一般	□腔癌、唇顎□蓋裂、歯科インプラント、顎顔面外傷、有病者歯科	＊1 ＊2 ＊4 ＊5 ＊6 ＊8 ＊9 ＊11 ＊12＊14 ＊15 ＊16 ＊17
和久井崇大（わくいたかひろ）	准教授	□腔外科一般	□腔癌、唇顎□蓋裂、顎顔面外傷、歯性感染、顎変形症、有病者歯科	＊1 ＊2 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊8 ＊9 ＊11 ＊17
福本　正知（ふくもと　ちょうじ）	講　師	□腔外科一般	□腔癌、化学療法（悪性腫瘍、抗菌薬）、顎顔面外傷、院内感染対策	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5 ＊7 ＊20
小宮山雄介（こみやまゆうすけ）	講　師	□腔外科一般	□腔粘膜疾患、顎骨腫瘍、歯科インプラント、有病者歯科、□腔ケア	＊2 ＊4 ＊5 ＊7 ＊10
八木沢就真（やぎさわしゅうま）	助　教	□腔外科一般	歯科インプラント、歯性炎症、有病者歯科、□腔ケア	＊3
藤原　昂夢（ふじわら　あむ）	助　教	□腔外科一般	歯性炎症、有病者歯科、□腔ケア	＊3
白石　怜（しらいし　りょう）	助　教	□腔外科一般	□腔粘膜疾患、□腔カンジダ症、歯科インプラント、歯性炎症、有病者歯科	＊3
小池　亜弥（こいけ　あや）	助　教	□腔外科一般	歯科インプラント、歯性炎症、有病者歯科、□腔ケア	
国富　陽介（くにとみ　ようすけ）	助　教	歯科矯正	歯科矯正	＊18
小山　祐平（こやま　ゆうへい）	助　教	歯科麻酔	歯科麻酔、有病者歯科、障がい者歯科、□腔ケア	＊21
（以下非常勤）				
長谷川智則（はせがわとものり）	助　教	□腔外科一般	歯性炎症、小児□腔外科、有病者歯科	＊2 ＊3 ＊6 ＊7 ＊9 ＊14
俵藤　俊暉（ひょうどう　としき）	助　教	□腔外科一般	顎顔面外傷、歯性炎症、有病者歯科	＊3
人見　雅代（ひとみ　まさよ）	助　教	□腔外科一般	有病者歯科、□腔ケア	
大友　文雄（おおとも　ふみお）	非常勤助教	有病者歯科	有病者歯科、□腔ケア	＊4
越路千佳子（こしじ　ちかこ）	非常勤助教	□腔外科一般	唇顎□蓋裂、有病者歯科、□腔ケア	＊2 ＊10
博多　研文（はかた　けんぶん）	非常勤助教	□腔外科一般	顎顔面外傷、有病者歯科、障害者歯科	＊2 ＊3 ＊4 ＊7
螺良　真希（つぶら　まき）	非常勤助教	□腔外科一般	歯性炎症、有病者歯科、□腔ケア	＊2 ＊3
大島　遼（おおしま　りょう）	非常勤助教	□腔外科一般	歯科インプラント、歯性感染、顎顔面外傷、□腔ケア	＊2 ＊3 ＊7
上岡　寛（かみおか　ひろし）	非常勤講師	歯科矯正	歯科矯正	＊18 ＊22
西　恭宏（にし　やすひろ）	非常勤講師	歯科補綴	歯科補綴、顎補綴	＊23 ＊24 ＊25

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：日本□腔外科学会指導医
＊2：日本□腔外科学会専門医
＊3：日本□腔外科学会認定医
＊4：臨床研修指導歯科医
＊5：日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科□腔外科）
＊6：日本□腔科学会指導医
＊7：日本□腔科学会認定医
＊8：日本有病者歯科医療学会指導医
＊9：日本有病者歯科医療学会専門医
＊10：日本有病者歯科医療学会認定医
＊11：日本□腔腫瘍学会暫定□腔がん指導医
＊12：日本顎顔面インプラント学会指導医
＊13：日本歯科麻酔学会認定医
＊14：日本小児□腔外科学会指導医
＊15：日本小児□腔外科学会認定医
＊16：日本□腔インプラント学会指導医
＊17：日本□腔内科学会指導医
＊18：日本矯正歯科学会認定医
＊19：日本睡眠歯科学会認定医
＊20：ICD制度協議会認定ICD
＊21：日本再生医療学会 再生医療認定医
＊22：日本矯正歯科学会指導医
＊23：日本補綴歯科学会指導医
＊24：日本老年歯科学会老年歯科指導医
＊25：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

リハビリテーション科

□ 診療内容

ノーマライゼーションの理念の実現に向けて、リハビリテーション医療一般について総合的に対応しております。療育を必要とする小児疾患、脳血管障害や脊髄障害を中心とした神経疾患、骨・関節障害などの整形外科疾患以外にも循環器疾患、呼吸器疾患、老化や生活習慣病にともなう各種障害に対して、評価と治療ならびにその原因疾患に関する継続的対応や生活援助について、全人的に診療しています。

病棟には各種コミュニケーション機器、移乗用リフト、電動車椅子、障害者用トイレなどが整備され、重度障害や重複障害における回復期リハビリテーションと在宅・社会復帰などを目標として、院内各診療専門科と連携をとりリハビリテーション診療を行います。

□ 主な対象疾患

以下の疾患を原因とする運動障害、知的障害、言語障害、摂食障害、排泄障害などから発生する能力障害（動作障害としての歩行障害など）や社会的不利が治療対象です。

1．脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳性麻痺などの脳障害
2．外傷性脊髄損傷、脊髄変性疾患、脊髄腫瘍、脊髄血管障害、二分脊椎などの脊髄障害
3．関節リウマチ、膠原病、変形性関節症、骨折、手の外科術後、切断、火傷後拘縮、骨粗鬆症、先天奇形などの骨・関節障害
4．末梢神経疾患、変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、筋萎縮症、進行性筋ジストロフィー症などの神経・筋障害
5．肺気腫、肺外科術前術後、誤嚥性肺炎などの呼吸機能障害
6．失語症、言語発達障害、口蓋裂などの言語障害
7．糖尿病、高血圧症、高脂血症、肥満症、老化による体力低下など
8．脳卒中、神経筋疾患、加齢性変化などによる嚥下障害

□ 特徴・特色

1．特定機能病院内にある総合承認施設（理学療法士42名、作業療法士11名、言語聴覚士5名）を用いた外来、入院での総合リハビリテーション医療
2．小児訓練室、言語・聴覚訓練室、日常生活動作訓練室などを備えた総合施設
3．地域連携・患者サポートセンター（医療福祉相談部門、退院サポート室）と連携した地域・住宅・社会復帰援助
4．精神・心理面を含めた各診療専門科と連携した全人的リハビリテーション対応
5．各種疾患（脳血管障害、先天性小児疾患）に対する早期リハビリテーション医療
6．老年医学研修施設としての高齢者リハビリテーション対応

□ 専門外来

装具診外来：　月　pm 2:00～　美津島　入澤　中村
（神経・筋疾患、骨・関節疾患に対する下肢装具、体幹装具（コルセットなど）、上肢装具、杖、車椅子、特殊靴、その他の福祉機器などと切断に対する義手、義足を義肢装具士とともに適合判定します。）

ボツリヌス外来：　月・金　am 9:00～　入澤　中村
（脳卒中後の上下肢の痙縮に対するボツリヌス治療を行います。）

診療部長	美津島（みずしま）　隆（たかし）
医局長	入澤（いりさわ）　寛（ひろし）
外来医長	中村（なかむら）　智之（ともゆき）
病棟医長	入澤（いりさわ）　寛（ひろし）

外来受付電話番号　0282-87-2215

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
美津島（みずしま）　隆（たかし）	教　授	リハビリテーション一般 （リハビリ医学専門医）	脳血管障害、脊髄障害、義肢装具、嚥下障害、循環器疾患、呼吸器疾患	＊1 ＊5
入澤（いりさわ）　寛（ひろし）	准教授	リハビリテーション一般 （リハビリ医学専門医）	脳血管障害、運動器障害、脳性麻痺、嚥下障害、痙縮治療	＊1 ＊6 ＊7
中村（なかむら）　智之（ともゆき）	講　師	リハビリテーション一般 （リハビリ医学専門医）	脳血管障害、循環器疾患、嚥下障害、義肢装具	＊1
千葉（ちば）　友美（ゆみ）	助　教	リハビリテーション一般	整形外科、義肢装具、嚥下障害	＊1
星合（ほしあい）　宗（はじめ）	専攻医			
廣田（ひろた）　美槻（みつき）	専攻医			
春田（はるた）　侑亮（ゆうすけ）	専攻医			
川澄（かわすみ）　沙帆（さほ）	専攻医			
広瀬（ひろせ）　健（けん）	非常勤講師	リハビリテーション一般 循環器疾患	脳血管障害、虚血症心疾患、慢性疼痛疾患	＊2 ＊4
鈴木（すずき）　大雅（ひろまさ）	非常勤助教	リハビリテーション一般 （リハビリ医学専門医）	脳血管障害、脊髄障害、末梢神経障害、整形外科疾患	＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人　日本リハビリテーション医学会　リハビリテーション科専門医
＊2：一般社団法人　日本循環器学会　循環器専門医
＊3：公益社団法人　日本麻酔科学会　麻酔科専門医
＊4：一般社団法人　日本ペインクリニック学会　ペインクリニック専門医
＊5：一般社団法人　日本脳卒中学会　脳卒中専門医
＊6：公益社団法人　日本整形外科学会　整形外科専門医
＊7：公益社団法人　日本整形外科学会　運動器リハビリテーション認定医

□ その他

主な医療設備

○レーザー治療
1,000ｍＷの半導体レーザー治療器を、除痛目的のみでなく、麻痺性疾患による筋緊張亢進に対して無侵襲緊張調整として機能訓練と併せて使用しています。

○日常生活動作訓練
作業療法士が在宅生活の擬似動作訓練を行っています。実際に直接生活に役立つ援助を計画します。外来・入院ともに利用可能です。

○磁気刺激療法
連続的な末梢神経刺激を可能にした磁気刺激装置「Pathleader」を導入しています。経皮的な電気刺激と異なり、磁束によって作られた過電流が筋肉の神経線維を刺激することが特徴で、電気刺激と比べて痛みや不快感を感じにくい状態で深部の神経線維にアプローチすることができます。

○筋電義手
断端に残った筋肉を動かすことで発生する電気信号を利用した筋電義手を、病気・事故などによって腕を失った方に向けて処方・訓練しています。2020年現在、県内では唯一の実施医療機関となっております。

形成外科・美容外科

□ 診療内容

形成外科は体表あるいは体表に近い身体各部の先天的および後天的疾患による変形に対して、おもに手術的治療によって形態および機能の修復をはかる外科学の一分野であります。形成外科固有の疾患に対する手術のみならず、他科との連携によって悪性腫瘍切除とともに行う再建手術も頻繁に行っております。また美容外科は形成外科の一分野であります。当科は広く形成外科一般について診療を行っており、必要に応じて入院手術を行う体制を整えております。

□ 特徴・特色

形成外科一般について医学的に適正で心のこもった治療を提供することをモットーとしています。とくに顔面神経麻痺の形成外科的治療、小耳症に対する耳介形成手術については十分な実績を持っており、この分野では遠方からも患者さんがいらっしゃるセンターとなっております。また乳がん・頭頸部がんなどの悪性腫瘍切除後の変形に対する治療、口唇口蓋裂の一次形成手術あるいは瘢痕や変形に対する二次形成手術、耳介や顔面のその他の先天的疾患に対する形成手術、手指・足趾の先天的疾患に対する形成手術、顔面や手の外傷（顔面骨骨折や切断指など）、熱傷および熱傷瘢痕拘縮、皮膚・軟部組織腫瘍や耳下腺腫瘍に対する治療、などに対して積極的に取り組んでいます。

形成外科が開設された2006年から入院手術数は年々増加し、最近は年500件を超えております。新しい専門医制度のもとで形成外科の基幹施設としての役割を担っています。

□ 専門外来

顔面神経麻痺外来：（月・木）午前　梅川
小耳症外来　　：（木）午後　倉林
初診は（月）から（土）の午前8時から11時まで受付けしております。
（月）から（金）の午後は再診予約制で、日帰りの手術にも対応しています。

診療部長	飯田（いいだ） 拓也（たくや）
医局長	倉林（くらばやし） 孝之（たかし）
外来医長	梅川（うめかわ） 浩平（こうへい）
病棟医長	倉林（くらばやし） 孝之（たかし）

外来受付電話番号　0282-87-2488

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
朝戸（あさと） 裕貴（ひろたか）	特任教授	形成外科一般	顔面神経麻痺、小耳症、がん切除後の再建外科	＊1 ＊2
飯田（いいだ） 拓也（たくや）	教　授	形成外科一般	乳房再建、頭頸部再建	＊1
梅川（うめかわ） 浩平（こうへい）	講　師	形成外科一般	足難治性潰瘍、眼瞼下垂、顔面神経麻痺	＊1
倉林（くらばやし） 孝之（たかし）	講　師	形成外科一般	小児先天異常全般	＊1
中村（なかむら） 佑紀（ゆき）	医　員			
松元麻里子（まつもとまりこ）	レジデント			
佐山（さやま） 太郎（たろう）	レジデント			
本庄（ほんじょう） 和輝（かずき）	レジデント			
大塚（おおつか） 天心（てんしん）	レジデント			
下田（しもだ） 実果（みか）	レジデント			

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本形成外科学会　形成外科専門医
＊2：一般社団法人　日本手外科学会　手外科専門医

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

○顔面神経麻痺：陳旧性となった顔面神経麻痺に対して神経血管付遊離広背筋移植を中心とした表情の再建手術を行っています。
○小耳症：肋軟骨移植による耳介形成術、および耳鼻咽喉科との共同手術で外耳道形成術による聴力改善も目指した治療を行っています。
○悪性腫瘍切除後の変形：乳がん切除後の乳房再建、頭頸部がん切除後の顔面変形の再建についてマイクロサージャリーを用いた遊離組織移植を行っています。
○口唇口蓋裂：一次形成術ならびに瘢痕や変形に対する二次形成術について、医学的見地から適正な時期に形成外科手術を行い、瘢痕や変形を目立たなくさせることを目指しています。
○耳介や顔面、手足の先天的疾患：各種の耳介先天性変形や眼瞼下垂、合指症や多指症などの手足の先天性変形に対して、医学的見地から適正な形成外科手術を行います。
○顔面や手の外傷、熱傷：顔面骨骨折の整復固定術、切断指の再接着術、熱傷に対する植皮術などを行います。また瘢痕拘縮やケロイドに対して治療を行います。
○皮膚・軟部組織腫瘍や耳下腺腫瘍：身体各部の皮膚・皮下軟部組織腫瘍の切除術、顔面神経機能を確実に温存する耳下腺腫瘍の摘出術などを行います。
○リンパ浮腫：乳がん切除後や婦人科腫瘍切除後、先天性や外傷後などに生じる上・下肢のリンパ浮腫に対して、顕微鏡下におけるリンパ管静脈吻合を行っております。

救急・集中治療科 救命救急センター、集中治療センター

□ 特徴・特色

当施設は日本救急医学会、救急科専門医指定施設の資格を有する救命救急センター病棟27床と、日本集中治療医学会専門医研修施設の資格を有する集中治療室12床で構成された、併設型救命救急センターとして救急患者さんの診療に当たっております。救急隊からの要請に応じ、救急科専門医と各科専門医が24時間体制で救急処置、診断、治療を迅速に対応できるよう努めております。

2010年1月より栃木県ドクターヘリ運航事業が開始され、当病院を基地病院として、当施設を含めた県内救命救急センター5施設と救急医療機関、消防機関が連携し、栃木県救急医療体制の向上に努めております。現在は全国でも有数の出動数となっております。

（2023年度　要請　659件、出動 547件）

さらに当院は災害拠点病院、DMAT指定医療機関に指定されており、災害時に迅速に対応するため、政府総合訓練やDMAT関東ブロック訓練などに積極的に参加しています。実際に東日本大震災、熊本地震、2019年に発生した台風による豪雨災害に出動し活動しました。コロナ渦にあっても、武漢帰国者やクルーズ船乗員対応、県内クラスター病院支援活動を行いました。令和6年能登半島地震においても、保健医療福祉調整本部活動や病院支援に携わりました。

□ 診療概要

救急車やドクターヘリによって搬送された緊急疾患・外傷患者さんなどの初期診療を行い、必要に応じて救命救急センター病棟にて全身管理を行います。一方、当院の集中治療室はClosed ICUであり、院内急変や重症の患者さん、侵襲の大きな術後管理などを当センターの専従医が24時間体制で診療にあたっております。さらには、早期離床リハビリや早期栄養療法を積極的に行うため、専従の看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士が毎朝カンファレンスに参加してチーム医療を行っております。近年はコロナ重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症、特に重症の患者さんの治療にあたってもきました。

【主な対象疾患】

○心肺停止	○ショック	○重症呼吸不全
○重症肝不全	○多発外傷	○敗血症
○急性中毒	○広範囲熱傷	○虚血性心疾患
○脳血管障害	○意識障害	

□ 診療体制

救急傷病患者に24時間体制で対応しております。

日勤帯救急対応：専従医24名　（救急科専門医 14名）
（救急・集中治療科17名、心臓・血管内科3名、脳神経内科2名、脳神経外科1名、呼吸器・アレルギー内科1名）

夜間帯救急対応：当直医師3名＋初期研修医 数名

休日日勤救急対応：当直医師3名、
日勤医師2名（計5名）＋初期研修医 数名

栃木ドクターヘリ：原則、医師2名、看護師1名にて搭乗

□ 主な医療設備

【診療施設】

初期治療室1室（3床）、救命救急センター病棟27床（内集中治療室7床）、集中治療センター 12床、洗浄室1室

【検査室・機器】

CT室1室、X線撮影室1室
超音波診断装置、心電図等診断装置、気管支ファイバースコープ、上部消化管内視鏡、各種呼吸循環モニター

【特殊機器】

経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピング、IMPELLA、体外式ペースメーカー、血液浄化装置、人工呼吸器ほか

□ その他

栃木県病院前救護体制検討部会下都賀・上都賀地域のメディカルコントロール検証施設として、所轄消防本部のある石橋や栃木、鹿沼、日光の救急救命士の技術指導に協力し、救急活動の向上に努めております。

またモビリティリゾートもてぎでのレース開催時には、重症外傷発症時のヘリコプター搬送による救急対応にも協力しております。

センター長　和氣（わけ）　晃司（こうじ）
医局長　菊池（きくち）　仁（じん）
外来医長　町田（まちだ）　匡成（まさなり）
病棟医長　内田（うちだ）　雅俊（まさとし）

電話番号　0282-87-2477（救命救急センター）
0282-87-2188（集中治療センター）

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医
和氣（わけ）　晃司（こうじ）	教　授	救急・集中治療、麻酔、航空医学、災害医療(DMAT)	＊1 ＊2 ＊3 ＊10 ＊16
菊地（きくち）　研（みがく）	教　授	循環器救急、集中治療、心肺蘇生　心拍再開後治療	＊1 ＊2 ＊4 ＊7 ＊11
荒川（あらかわ）　明子（あきこ）	助　教	神経外科救急、脳血管障害	＊8
星山（ほしやま）　栄成（えいせい）	准教授	神経救急、脳血管障害	＊1 ＊4 ＊6 ＊11 ＊12 ＊13 ＊14
内田（うちだ）　雅俊（まさとし）	准教授	救急・集中治療、航空医学	＊1 ＊4 ＊11
増山（ますやま）　智之（ともゆき）	准教授	救急・集中治療	＊1 ＊11
菊池（きくち）　仁（じん）	講　師	救急・集中治療、航空医学、災害医療(DMAT)	＊1 ＊10
林（はやし）　健太郎（けんたろう）	講　師	救急・集中治療、麻酔、航空医学	＊1 ＊2 ＊11
内田（うちだ）　信彦（のぶひこ）	助　教	呼吸器救急、アレルギー、感染症	＊4 呼吸器専門医　気管支鏡専門医
高野（たかの）　雅嗣（まさつぐ）	助　教	神経救急、脳血管障害	＊4 ＊6
町田（まちだ）　匡成（まさなり）	助　教	救急・集中治療、麻酔、災害医療(DMAT)、航空医学	＊1 ＊2 ＊10
前川（まえかわ）　奈々（なな）	助　教	救急・集中治療、航空医学、災害医療(DMAT)	＊1
寶住（ほうずみ）　肇（はじめ）	助　教	救急・集中治療、麻酔、航空医学	＊1
石田（いしだ）　和俊（かずとし）	助　教	循環器救急	
正和（まさわ）　泰斗（たいと）	助　教	循環器救急	
井上（いのうえ）　莉里（りり）	助　教	循環器救急	＊4
佐久間大智（さくまだいち）	助　教	救急・集中治療、災害医療(DMAT)	＊1
廣瀬（ひろせ）　晃平（こうへい）	助　教	救急・集中治療	＊1
野間（のま）　真人（まさと）	助　教	救急・集中治療	
本田（ほんだ）　新（あらた）	助　教	救急・集中治療	＊1
片柳（かたやなぎ）　翔太（しょうた）	助　教	救急・集中治療	
眞船（まふね）　芳郎（よしろう）	レジデント	救急・集中治療	
小島（こじま）　美優（みゆう）	レジデント	救急・集中治療	
樋田（ひだ）ゆめか	レジデント	救急・集中治療	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本救急医学会　救急科専門医
＊2：公益社団法人　日本麻酔科学会　麻酔科専門医
＊3：一般社団法人　ペインクリニック学会　ペインクリニック専門医
＊4：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊5：一般社団法人　日本熱傷学会　熱傷専門医
＊6：一般社団法人　日本神経学会　神経内科専門医
＊7：一般社団法人　日本循環器学会　循環器専門医
＊8：一般社団法人　日本脳神経外科学科　専門医
＊9：日本脳卒中学会　専門医
＊10：日本航空医療学会　認定指導者
＊11：一般社団法人　日本集中治療医学会　集中治療専門医
＊12：一般社団法人　日本老年医学会　老年病専門医
＊13：一般社団法人　日本頭痛学会　頭痛専門医
＊14：一般社団法人　日本抗加齢医学会　抗加齢医学専門医
＊15：一般社団法人　日本外科学会　外科専門医
＊16：一般社団法人　社会医学系専門医協会　社会医学系専門医

乳腺センター

センター長　中川（なかがわ）　剛士（つよし）

外来受付電話番号　0282-87-2084

□ はじめに

乳腺センターでは、乳腺疾患の診断および治療、遺伝性乳がん卵巣がん症候群などの遺伝性腫瘍のご相談（遺伝カウンセリング）など、最新の知見をもとにした乳腺疾患の診療を行っております。

□ 診療内容

適切な診断と治療を行うため、丁寧な診察を心がけています。何らかの症状があり、乳がんを心配される方は早めに受診してください。また、ご家族やご親戚の中に、乳がんや卵巣がんなどの方がおられ、遺伝性のがんをご心配されていらっしゃる方に、遺伝カウンセリングを行っております。

乳がんについて）

乳がんは、治療によって治る可能性が高い病気です。治療は、手術だけでなく、さまざまな種類の薬物療法をはじめ、放射線治療やリハビリテーション、あるいは痛みや精神的苦痛を和らげる緩和医療の組み合わせが重要です。標準的な治療を基本としますが、ただ“がん”の治療をするだけでなく、患者さんお一人お一人のがんの状態、お体の状態、生活環境等を十分に考慮した上で、最適な治療をご提案し、ご納得いただいた上で治療ができるよう努力しております。

乳がんの症状）

乳がんの症状には、腫瘤（しこり）、硬結（乳腺の一部が硬くなること）、乳頭からの異常分泌（血液）、乳頭のびらん（ただれたような状態になること）などがあります。全く症状がない場合も多いので、早期発見のために検診も非常に重要です。乳房の痛みは、ホルモンバランスによるものが多く、通常は乳がんの症状ではありません。

診察の流れ）

問診票にご記入いただいた後、画像検査を行います。検査は、マンモグラフィおよびトモシンセンシス、超音波検査（エコー）、必要に応じてCTやMRI等を行います。組織からの針生検や画像誘導下組織吸引生検、場合によっては摘出生検によって、確定診断を行います。

対象疾患）

乳癌、遺伝性腫瘍（ご本人および血縁の方）、葉状腫瘍、その他乳房の良性疾患

乳房のことで悩んでいる方に、安心して診察を受けていただけるよう、優しい診療を心がけています。ご不明なことがありましたら気兼ねなくお問い合わせください。

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	認定医・専門医
中川（なかがわ）　剛士（つよし）	教　授	乳腺外科	乳がん診療	外科指導医・乳腺指導医

中央系部門のご案内

麻酔部（ペインクリニック）

□ 診療内容

通常の治療では軽減しない難治性の疼痛疾患に対して、神経ブロック、薬物療法、東洋医学（漢方療法、鍼治療）、光線療法、手術療法などによって治療を行っています。また、神経ブロックは疼痛疾患ばかりではなく、顔面神経麻痺、特発性難聴、顔面痙攣、多汗症といった非疼痛性機能性疾患や末梢循環障害をきたす疾患（動脈閉塞、バージャー病、レイノー症候群など）にも非常に有用です。

【診療体制】

診療時間：毎週月曜日～土曜日の午前（11：00までに受付をお願いしております。）

毎週土曜日の8：30AMから外来でのカンファレンスを行っています。

【主な外来診療責任者】

濱口（はまぐち） 眞輔（しんすけ）	教 授：水曜日	山下（やました） 雄介（ゆうすけ）	医 員：木曜日
山口（やまぐち） 重樹（しげき）	教 授：金曜日	知野（ちの） 諭（さとる）	医 員：月曜日
木村（きむら） 嘉之（よしゆき）	准教授：月曜日	山中恵里子（やまなかえりこ）	医 員：金曜日
高薄（たかすすき） 敏史（としふみ）	准教授：不定期	阿久津和也（あくつかずや）	医 員：火曜日
篠崎（しのざき） 未緒（みお）	講 師：火-金曜日	清水（しみず） 貴仁（たかひと）	医 員：木曜日
髙橋（たかはし） 良享（よしゆき）	講 師：金曜日	人見（ひとみ） 俊一（しゅんいち）	医 員：月曜日
寺島（てらしま） 哲二（てつじ）	講 師：金曜日	福田（ふくだ） 裕也（ゆうや）	医 員：金曜日
白川（しらかわ） 賢宗（けんしゅう）	講 師：月-木曜日	長岡（ながおか） 諒（りょう）	医 員：火曜日
國分（こくぶ） 伸一（しんいち）	講 師：水曜日	塙（はなわ） 宏基（ひろき）	医 員：火曜日
沼田（ぬまた） 祐貴（ゆうき）	講 師：木曜日	小林（こばやし） 泰知（たいち）	医 員：木曜日
佐藤（さとう） 雄也（ゆうや）	医 員：火曜日	長田（おさだ） 舞奈（まいな）	医 員：水曜日
小松崎（こまつざき） 誠（まこと）	医 員：水曜日	舘田（たてだ） 賢一（けんいち）	医 員：月曜日
櫻井（さくらい） 秀嵩（ひでたか）	医 員：木曜日	椎名（しいな） 真由（まゆ）	医 員：月曜日
丸山（まるやま） 耕平（こうへい）	医 員：水曜日	森（もり） 純一郎（じゅんいちろう）	医 員：金曜日

【主な対象疾患】

○腰痛症（急性腰痛、変形症腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）
○頚椎症（変形性頚椎症、頚椎椎間板ヘルニアなど）
○難治性疼痛（脊椎手術後難治性疼痛　など）
○三叉神経痛　○原因不明の顔面痛（非定型顔面痛）
○帯状疱疹による痛み、帯状疱疹後神経痛
○外傷性頚部症候群（むちうち損傷），複合性局所疼痛症候群（カウザルギア、反射性交感神経萎縮症）
○頭痛（偏頭痛、緊張性頭痛、群発頭痛）　○肩関節周囲炎
○肋間神経痛　○がん性疼痛
○末梢循環障害をきたす疾患（閉鎖性動脈硬化症、バージャー病、レイノー症候群など）
○顔面神経麻痺　○特発性難聴　○顔面痙攣　○多汗症

□ 特徴・特色

●各曜日ともペインクリニック専門医の資格を有した教授・准教授・講師を中心に、4-5名のスタッフが診療にあたっております。
●外来通院による治療を基本とします。
超音波ガイド下やX線透視下で行う必要がある高度な神経ブロック、手術療法（脊髄刺激療法など）は入院加療となります。
●当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、麻酔部では、緩和ケア部門を担当して院内外から紹介いただくがん疼痛の患者さんの痛み緩和に取り組んでおります。

□ その他

特に紹介していただきたい疾患と治療方法・治療成績

○腰椎症、頚椎症：各種神経ブロックによる痛みの緩和が可能です。また、高周波治療法を用いることで、長期的な痛みの緩和を得ることも可能となります。
○帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛：外来でのブロック療法、薬物療法で90％以上の患者さんが疼痛軽減を得ています。また、激痛の場合には入院にて神経ブロックを行います。（発症後の早期に痛みを緩和することで、疼痛の残存が少なくなる可能性が上がります。）
○三叉神経痛：高周波熱凝固や神経破壊薬を用いたブロックを行った場合、80％以上の患者さんが半年から1年ごとのブロックを行うのみで疼痛管理が可能となります。（場合により入院加療）
また、内服薬による治療も行っております。
○複合性局所疼痛症候群：交感神経機能異常による痛みであれば、交感神経ブロックによって痛みが軽減します。
○難治性疼痛：難治性疼痛（難治性の術後痛や神経炎）に対して、各種神経ブロックや脊髄刺激療法を行っています。
○末梢血行障害：神経ブロックや脊髄刺激療法によって90％以上の方に症状の改善がみられております。
○がん性疼痛：麻薬性鎮痛薬、鎮痛補助薬、神経ブロックなど用いて、包括的ながん疼痛治療を行っています。特に、内臓神経ブロックなどの特殊な治療を行うことで鎮痛薬の使用量を抑えることが可能となります。

主な医療設備

サーモグラフィー、脳血流シンチグラム、高周波熱凝固装置、各種理学療法機器、組織酸素飽和度測定器

高度医療

○高周波熱凝固法：長期間の神経ブロック効果が期待できます。
○脊髄刺激療法：あらゆる薬物に抵抗性の難治性疼痛に対して脊髄刺激療法を行い、長期の鎮痛が得られます。
○経皮的硬膜外癒着剥離術（Raczカテーテルによる治療）：脊椎術後の難治性疼痛の緩和に有用です。
○ボツリヌス毒素療法：眼瞼痙攣、顔面痙攣、腋窩多汗症，痙性斜頚の症状緩和に有用です。
○硬膜外カテーテル埋め込め術：硬膜外カテーテルを体内に埋め込み、がん疼痛患者の在宅療養を可能にします。
○脊椎疾患に対する各種椎間板治療（経皮的椎間板治療）

診療部長　濱口（はまぐち）　眞輔（しんすけ）
山口（やまぐち）　重樹（しげき）

医局長　髙橋（たかはし）　良享（よしゆき）

外来医長　篠崎（しのざき）　未緒（みお）

病棟医長　白川（しらかわ）　賢宗（けんしゅう）

外来受付電話番号　0282-87-2213

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
濱口（はまぐち）　眞輔（しんすけ）	教　授	ペインクリニック	脊椎難治性疼痛、神経ブロック、手術療法（脊髄刺激療法）、薬物療法、漢方療法	＊1 ＊2 ＊3
山口（やまぐち）　重樹（しげき）	教　授	ペインクリニック	緩和ケア（がん疼痛治療）、慢性疼痛、薬物療法	＊1 ＊2 ＊4
木村（きむら）　嘉之（よしゆき）	准教授	ペインクリニック	神経ブロック、認知行動療法、運動療法	＊1 ＊2
髙薄（たかすすき）　敏史（としふみ）	准教授	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1 ＊2
髙橋（たかはし）　良享（よしゆき）	准教授	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、手術療法	＊1 ＊2
篠崎（しのざき）　未緒（みお）	講　師	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、手術療法（脊髄刺激療法、経皮的椎間板治療）	＊1 ＊2
白川（しらかわ）　賢宗（けんしゅう）	講　師	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、緩和ケア（がん疼痛治療）	＊1 ＊2 ＊4
寺島（てらしま）　哲二（てつじ）	講　師	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、漢方療法	＊1 ＊2
國分（こくぶ）　伸一（しんいち）	講　師	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、手術療法	＊1 ＊2
沼田（ぬまた）　祐貴（ゆうき）	講　師	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、手術療法	＊1 ＊2
佐藤（さとう）　雄也（ゆうや）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1 ＊2
小松崎（こまつざき）　誠（まこと）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1 ＊2
山下（やました）　雄介（ゆうすけ）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1 ＊2
知野（ちの）　諭（さとる）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1 ＊2
山中恵里子（やまなかえりこ）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック、緩和ケア（がん疼痛治療）	＊1 ＊2
阿久津和也（あくつかずや）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1
清水（しみず）　貴仁（たかひと）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1
人見（ひとみ）　俊一（しゅんいち）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
福田（ふくだ）　裕也（ゆうや）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	＊1
長岡（ながおか）　諒（りょう）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
塙（はなわ）　宏基（ひろき）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
小林（こばやし）　泰知（たいち）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
長田（おさだ）　舞奈（まいな）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
舘田（たてだ）　賢一（けんいち）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
櫻井（さくらい）　秀嵩（ひでたか）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
椎名（しいな）　真由（まゆ）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
丸山（まるやま）　耕平（こうへい）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	
森（もり）　純一郎（じゅんいちろう）	医　員	ペインクリニック	疼痛疾患一般、神経ブロック	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：日本麻酔科学会認定麻酔専門医
＊2：日本ペインクリニック学会認定ペインクリニック専門医
＊3：日本東洋医学会認定漢方専門医
＊4：日本緩和医療学会認定緩和医療専門医

認知症疾患医療センター

□ 診療内容

高齢化社会の到来に伴って認知症の患者さんは急激に増加しており、認知症の患者数は2012年には460万人とされていましたが、2020年には600万人を超え、2025年には700万人近くとなり、65歳以上の5人に一人が認知症という状況となると推計されています。とりわけ過半数を占めるといわれるアルツハイマー病は最初「もの忘れ」から始まり、記憶、思考、理解、判断などの知的作業障害の他に、感情、行動、性格の変化などの精神症状が出てきます。アルツハイマー病は早い段階で気づかれることによって、その進行を薬物療法によって遅らせることが可能になってきています。また「もの忘れ」は自覚しているが、日常生活には支障はない人たちでも将来高率に認知症に進行することが明らかになっています。そのため、おかしいなと思った方は「年齢のせい」という先入観を捨てて、少しでも早く専門医の診断を受けることが大切です。本センターは県から指定されて獨協医科大学病院に設置されたもので、以下の相談・診療業務を行っています。

●専用電話：0282－87－2251によりご家族・ご本人からの電話相談に応じます（無料）pm 2:00～pm 4:00
●ご家族・ご本人の直接の来所相談に応じます。
●医療機関・福祉施設・市町村などからの専門医療相談に応じます。
●年齢を問わず「もの忘れ」を自覚されている方々、あるいは年齢のせいかと思われている方々の診断を行います（各種健康保険使用・有料）。診察は精神神経科外来、あるいは神経内科外来で行います。特に神経内科外来には「物忘れ外来」を設置し、認知症の鑑別診断と治療方針の選定を行っています。まだ市販されていない治験薬も、患者さんの症状により、またご家族の同意などをいただける場合に使用することも可能です。
●中等症以上の方で適応がある方には精神神経科病棟での入院加療をおこないます（各種健康保険使用・有料）。
●認知症との見分けが困難なうつ病、意識障害（せん妄）の診断と治療も行います（各種健康保険使用・有料）。

【主な対象疾患】
○アルツハイマー病（若年性アルツハイマー病を含む）
○レビー小体病
○血管性認知症
○その他の認知症性疾患
○老年期（血管性）うつ病

□ 特徴・特色

診療活動

正常な加齢による「もの忘れ」なのか、認知症なのか、認知症に類似していても治療できる疾患なのかを見極めること、また認知症をいかに早期から治療していくかは、個々の患者さんの経過、介護の方針に大きく影響します。特に認知症の中で大きな比重を占めるアルツハイマー病の早期診断と治療導入に力を入れています。介護者の相談に応じ、介護者を支援します。医療機関・福祉施設・市町村と連絡をとり患者さんの処遇を検討します。

認知症疾患医療センターとしての活動

市民と看護師・介護士・ケアマネージャーを対象に研修会を開催します。

連携病院を含めた医療連携協議会を開催します。

公開講座・講演会を定期的に開催し、認知症に対する啓蒙活動を行っています。

センター長　古郡（ふるごおり）　規雄（のりお）

副センター長　鈴木（すずき）　圭輔（けいすけ）

副センター長　渡邉（わたなべ）　由佳（ゆか）

外来受付電話番号　0282-87-2251

□ 業務体制

【相談時間】

月曜日～金曜日	pm2:00 ～ pm4:00

【診療受付時間】

完全予約制です。ただし、脳神経内科の「物忘れ外来」は火曜・水曜・金曜（pm 2:00 ～ pm 4:00）で完全予約制です。

スタッフ（いずれも兼務）

医師	6名
看護師	4名
臨床心理士	3名
医療ソーシャルワーカー	13名

□ その他

実績

2021年度実績

相談事業	2027件
ケースワーク事業	1704件
もの忘れ外来（神経内科）	482件

獨協医科大学認知症疾患医療センター主催講演会実績および予定

2013年11月2日（土）
　城戸真亜子先生（画家、タレント）
　「心をつなぐ介護日記」
2014年8月30日（土）
　小坂憲司先生（横浜市立大学医学部名誉教授）
　「認知症の臨床と介護」
2015年10月31日（土）
　長谷川和夫先生（認知症介護研究・研修東京センター
　名誉センター長
　聖マリアンナ医科大学　特別顧問）
　「認知症の正しい理解」
2016年10月29日（土）
　砂川啓介先生（俳優）
　「君は一人ぼっちじゃない
　－You'll never walk alone－」
2017年8月26日（土）
　新井平伊先生（順天堂大学大学院医学研究科
　精神・行動科学　教授）
　「認知症と診断されても人生終わりじゃない！」
2018年10月13日（土）
　荒井由美子先生（国立長寿医療研究センター
　長寿政策研究部　部長）
　「認知症高齢者の自動車運転を考える
　～認知症高齢者の安全と安心のために～」
2019年10月5日（土）
　綾戸智恵先生（ジャズシンガー）
　「家族との関わり　～母として・娘として～」
2020年12月
　古郡規雄先生（獨協医科大学精神神経医学講座　准教授
　獨協医科大学認知症疾患医療センター
　副センター長）
　「認知症を知る」（on demand配信）
2021年9月
　ダイアモンド☆ユカイ先生（歌手）
　高齢者運転に関するテーマで下田センター長と対談
　（on demand配信）
2022年12月
　橋本衛先生（近畿大学医学部精神神経科学教室）
　「認知症医療の過去・現在・未来」（on demand配信）

総合周産期母子医療センター

□ 特徴・特色

当センターは厚労省の定めた施設基準に適合し、栃木県知事が認定した総合周産期母子医療センターとして1997年1月に発足しました。全国の総合周産期母子医療センターの草分けとして、栃木県内はもとより茨城県、群馬県、埼玉県、福島県の周産期施設からも母体・新生児の搬送依頼を受けております。

センターは隣接した産科部門と新生児部門から構成されており、産科部門は母体･胎児集中治療管理室（MFICU）6床、後方病室28床、計34床、新生児部門は新生児集中治療管理室（NICU）12床、後方病室27床、計39床を擁しております。医師は計9名の専任スタッフ（産科部門4名、新生児部門5名）に加えて、産科部門は産婦人科医局から、新生児部門は小児科医局からそれぞれローテイトが組まれ産科部門8名、新生児部門8名の常勤医師が勤務しております。

□ 診療内容

総合周産期母子医療センターの定義に基づき、常時母体、新生児を受け入れる体制を有し、合併症妊娠、重症妊娠高血圧症候群、切迫早産、多胎妊娠、胎児異常など母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、及び高度な新生児医療等の周産期医療を行っています。

産科部門では、妊娠22週以降から妊娠26週までの早産を極力防止することを目標にしておりますが、やむをえず出産に到る場合には、国内外の最新のデータに基づき、最善な時期・方法で児を娩出する努力を行っております。さらに母児に緊急事態が発生した場合には、手術部・麻酔部の協力により、帝王切開を決定後30分以内に児を娩出できる体制を整えております。胎児以上についてはエコーやMRなどを駆使して診断を行い、新生児部門や関係各科との連携のうえ、治療方針を検討しています。

また、新生児部門では保育器および人工呼吸器を豊富に揃え、どのような疾患に対しても集中治療が可能な体制を整えております。早産低出生体重児はもとより、呼吸障害やチアノーゼを呈する正期産児、外科疾患、脳外科疾患、様々な先天異常児も含めて、新生児に出現するあらゆる疾患を対象にしています。外科系の疾患児に対しては、新生児専門の小児科医師と外科医がチームを組んで診療に当たっています。また、重症呼吸障害に対する高度医療である一酸化窒素吸入療法、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法を導入し、成果を上げております。

さらに両部門とも死産・新生児死亡となった両親に対するグリーフケアに力を入れております。また染色体異常や遺伝性疾患などに対する遺伝相談外来を設けて、積極的に対応しております。

また、当センターでは臨床心理士が常駐しております。早産・低出生体重で出生した児や、様々な先天異常を有した児のご両親（特に母親）に対する心理カウンセリングは、現在の周産期医療に欠かせないものになっております。臨床心理士が早期から関わることにより母親への心理的援助を行い、よりよい母児関係を築くことを目標としております。

さらに当院ではNICUのみでなく、産科病棟での出生前からのカウンセリングも始めております。

□ 治療および成績

2023年に当センターに入院した母子のうち、救急母体搬送は102件、ハイリスク妊婦の紹介は約430名、新生児搬送は85名でした。

産科部門からの新生児部への入院患者は218名、うち205名が母体搬送ないし外来紹介妊婦からの出生児でした。1000g未満の生存率は、88％（18名中16名）でした。1000～1499gの生存率は前年と同じく100％（16名中16名）でした。

母体・新生児とも、経過良好でNICU管理を必要としなくなった場合には、センター機能を有効に活用するためにも、紹介元の施設に妊婦や新生児の逆搬送（back transfer）を行っております。ただし、状態の安定しない妊婦や新生児を、ベッドの都合で他施設に転院させることは決してありません。

両部門ともベッドを調整して、できる限り搬送のご依頼をお受けするようにしておりますが、どうしても空床がなくお受けできないことがあります。万が一当院でお受けできない場合には他施設と連絡をとり、入院先を確保致します。2008年4月に発足した栃木県周産期連携医療センターの集計によりますと、県内施設から搬送依頼のあった妊婦さんの99％以上が、栃木県内の周産期施設に入院できておりました。

なお、緊急の搬送依頼はできる限りお受けしますが、母体の場合、緊急母体搬送以外にも、急を要しない場合ハイリスク妊婦の外来紹介を考慮していただけると幸いです。個々の妊婦・新生児の症状により、先生方が当センターでの治療が望ましいと判断された場合には、下記までご連絡下さい。また、「入院するほどではないが、わからないことや迷うことがある」という場合も、ご相談に応じます。

24時間、365日、いつでも対応が可能です。

センター長　柴田（しばた）　英治（えいじ）

産科部門長　成瀬（なるせ）　勝彦（かつひこ）

実務責任者（産科部門）　多田（ただ）　和美（かずみ）

新生児部門長　渡部（わたべ）　功之（よしゆき）

電話番号　母体搬送　0282-87-2218
新生児搬送　0282-87-2217

□ ご紹介頂く医療機関のみなさまへ

入院の御連絡は

母体搬送：０２８２－８７－２２１８
新生児搬送：０２８２－８７－２２１７
にお願い致します。

また救急車搬送の場合、救急隊から受け入れ確認の電話が集中治療部（ICU）に繋がり、混乱することが時々あります。当センターからも各消防署にお願いしておりますが、救急車出動依頼時に上記の電話番号をお伝えいただければ幸甚に存じます。

FAXは

産科部門：０２８２－８７－２０６８
新生児部門：０２８２－８６－７４９９
です。

産科外来へのハイリスク妊婦の御紹介は、常時可能です。詳細は産婦人科の案内をご参照下さい。

毎年２回春と秋に栃木県周産期医療研修会を開催しています。

県からの委託事業でもありますので、諸先生方のご参加をお待ちしております。

□ 当院を受診希望の妊婦の皆様へ

当科を受診される方は、**紹介状のご持参をお願いしておりますので**、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、当院は総合周産期母子医療センターのため、ハイリスク妊娠を優先的に診療しております。

そのため**紹介状をご持参された方でも、ローリスク妊娠と判断された場合は、適切な産科施設へご紹介させて頂く場合があります**ので予めご了承下さい。

詳細は産婦人科外来へお問い合わせ下さい。ご協力の程を宜しくお願い致します。

産婦人科外来受付

電話受付時間：平日14:00～16:00
電　話：（０２８２）－８７－２２１１（直通）

とちぎ子ども医療センター

□ とちぎ子ども医療センターについて

当センターは、栃木県が策定した「栃木県小児医療整備構想（2002年3月）」に基づき、小児医療の専門施設として2004年4月に当院に設置されました。

新館の南側に小児医療の機能を集約した新棟（1階：小児外来、3階：小児病棟）を設置し、子どもの様々な疾患に対応するため、各診療分野にエキスパートを揃えております。

子どもに多い一般疾患の他にアレルギー・呼吸器疾患、血液腫瘍疾患、神経・精神疾患、内分泌代謝疾患、腎・泌尿器疾患、未熟児・新生児疾患などに対して専門医師の配置や高度な医療機器の設置等を行うことにより、高度な専門治療を行っております。

□ 高度専門医療機能の整備

1. 造血幹細胞移植（Hematopoietic Stem Cell Transplantation）ユニットや無菌室の整備、専門医の配置等により、血液・腫瘍疾患等への高度な治療環境を整備しています。
2. 親子一体となった診療等患児・家族の個別診療のための個室整備や専門医の配置等により、アレルギー・呼吸器疾患等への高度な治療環境を整備しています。
3. 呼吸管理が必要な患児等のため病床や高度な医療機器の整備など各種の高度専門医療機能の充実強化を図っております。

□ 周産期医療・成人医療と連携した成育医療機能の充実

乳幼児期から思春期までの小児医療環境の充実強化を図り、大学病院における周産期医療や成人医療との連携を強化することにより、胎児から小児、思春期を経て成人、妊娠に至る子どもの成育サイクルにおいて、継続的かつ総合的な医療を提供する成育医療機能の充実を図っています。

□ 小児の三次救急医療機能への迅速な対応

救命救急センターと一体的な整備を図ることにより、初期・二次救急医療機関において対応が困難な重篤な患児に迅速に対応しています。

□ 子どもや家族の視点に立ったQOLの向上と患児の育成に対する支援機能

1. 患児の育成に対する支援機能
   療養中も子どもが成長していく過程の一つと考え、子どもにとって不可欠な教育や遊びができる院内教室やプレイルームの整備、家族も含めた心のケアを行う臨床心理士の配置等により、患児に対する総合的な育成支援機能を整備しています。
2. 家族に対する支援機能
   家族と協力した医療の提供や家族からの相談等に対応する面談室・指導室の整備による家族に対する支援機能を整備しています。
   また、センター施設外における、長期入院患児等の付添家族の負担を軽減するための宿泊施設として、敷地内にある「ホスピタルイン獨協医科大学」が利用可能です。
3. 快適な療養環境の整備
   センターは、治療の場であるとともに生活の場でもあることから、子どもが快適に過ごすことができるよう、子どもに親しみやすい色彩やサイン、空間の整備など患児と家族の満足度の高い療養環境を整備しています。

□ 各診療科における子ども医療センターでの特徴・特色など

小児科

小児科の診療体制は専門性が分かれておりますが、小児科は子どもの全体像を見なくてはならない診療科であるとの認識を持ち、さらに子どもの健全な成長発達を視点におき、患者さんやご家族の立場に立った全人医療を目指しています。

小児外科

小児外科では、新生児外科疾患、小児消化器疾患、一般小児外科疾患、小児悪性腫瘍、小児救急に対応しています。また侵襲の低減を目的に細径腹腔鏡を用いた鏡視下手術を行っています。

脳神経外科

脳神経外科では、脳や脊髄に起こる様々な疾患や外傷の治療を行っています。脳腫瘍、水頭症、もやもや病、てんかん、二分脊椎、頭部外傷など多様な病態に各分野の専門家が対応しています。

整形外科

特発性側弯症→全国的にも多い
外傷（骨折など）

耳鼻咽喉・頭頸部外科

耳鼻咽喉・頭頸部外科では、全般にわたり広く診察を行っております。特に小児においては、アレルギー性鼻炎を含む鼻副鼻腔疾患、中耳疾患、小児難聴、睡眠時無呼吸症候群など各分野専門外科を設けて対応しております。

口腔外科

口腔外科は小児の外傷や先天性疾患の治療をおこなっています。また口腔は呼吸器、消化器の一部であるため、呼吸状態の管理、経口摂取不足による脱水などに注意しながら、周術期管理を行っています。

形成外科・美容外科

形成外科・美容外科では身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な問題に対してあらゆる手法や特殊な技術を駆使して治療を行っております。機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによってQOLの向上に貢献していく診療科です。

放射線科

安全で質の高い画像検査を行い、画像診断を小児疾患の早期診断、治療に役立てる。

リハビリテーション科

リハビリテーション科では小児のリハビリテーション治療、装具、バギーの作製、脳性麻痺に対するボツリヌス毒素による治療を行っています。

救急・集中治療科

救急・集中治療科は、救急搬送となった内因性急性期疾患や外傷、入院中の重症化した患者様方の診療を担っています。小児領域の専門スタッフとともに、より良い診療環境を患児に提供します。

泌尿器科

精索捻転、尿路感染症、精索静脈瘤、停留精巣などの診療を行っております。

精神神経科

精神神経科では、全般にわたり広く診察を行っております。特に摂食障害に力をいれております。

センター長　白石　秀明
外来医長　今高　城治
病棟医長　佐藤　雄也

外来受付電話番号　0282-87-2201

□ スタッフ

担当科	氏名	職名	専門分野
小児科	白石　秀明	教　授	小児科一般、小児神経学、てんかん、脳波、脳磁図
	今高　城治	准教授	小児科一般、てんかん、小児神経、障害児医療、臨床遺伝、感染症
	佐藤　雄也	准教授	小児科一般、血液、腫瘍
	※小児科のスタッフについては、P31「小児科」のページをご参照下さい。		
小児外科	鈴木　完	准教授	一般小児外科、新生児外科、小児悪性腫瘍、小児泌尿器疾患
	畑中　政博	助　教	一般小児外科、小児消化器疾患
	荻野　恵	助　教	一般小児外科、小児消化器疾患
脳神経外科	阿久津博義	教　授	脳腫瘍、下垂体・頭蓋底腫瘍
	黒川　龍	准教授	脊髄腫瘍、脊髄奇形、水頭症
	池田　剛	講　師	脳血管障害、血管内治療
整形外科	種市　洋	教　授	先天性側弯
	瓜田　淳	講　師	小児スポーツ障害
	中山健太朗	講　師	小児上肢外傷、先天性奇形
耳鼻咽喉・頭頸部外科	中山　次久	教　授	鼻副鼻腔疾患、上気道疾患
	平林　秀樹	特任教授	気管食道疾患、頭頸部腫瘍疾患、喉頭疾患、甲状腺疾患
	深美　悟	教　授	中耳疾患、小児難聴
口腔外科	川又　均	教　授	唇顎口蓋裂、小児口腔外科
	和久井崇大	准教授	唇顎口蓋裂、小児口腔外科
	小宮山雄介	講　師	唇顎口蓋裂、小児口腔外科
形成外科・美容外科	飯田　拓也	教　授	瘢痕拘縮、良性腫瘍、熱傷
	梅川　浩平	講　師	瘢痕拘縮、良性腫瘍、熱傷、眼瞼疾患、血管腫、リンパ管腫
	倉林　孝之	講　師	小児先天奇形
	中村　佑紀	助　教	小児形成外科全般
放射線科	桑島　成子	准教授	全般
リハビリテーション科	美津島　隆	教　授	リハビリテーション科一般、脳性麻痺、発達遅滞
	入澤　寛	准教授	リハビリテーション科一般、脳性麻痺、発達遅滞
	中村　智之	講　師	リハビリテーション科一般、脳性麻痺、発達遅滞
救急・集中治療科	佐久間大智	助　教	救急・集中治療全般
泌尿器科	釜井　隆男	教　授	全般
	木島　敏樹	講　師	全般
	武井　航平	助　教	全般
精神神経科	古郡　規雄	教　授	精神科全般
	折目　直樹	非常勤助教	児童精神医学

消化器内視鏡センター

センター長　郷田（ごうだ）　憲一（けんいち）

外来受付電話番号　0282-87-2192（消化器内科）
内視鏡室連絡番号　0282-87-2183

□ 特徴・特色

当センターは消化器内視鏡に関連する各診療科（消化器内科、健診センター、血液･腫瘍内科、上部消化管外科、肝･胆･膵外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科）の医師と看護師、看護助手が協力し、日々の検査および治療にあたっています。日本消化器内視鏡学会、日本レーザー医学会、日本カプセル内視鏡学会の指導施設として認可を受けており、先端機器を駆使して指導医、専門医を中心に高度な内視鏡診療を行っております。また、各種マニュアルを作成し、患者さんにとって安全で苦痛のない検査ができるように、日々努力をしております。

□ 診療概要

当センターでは、上部・下部消化管内視鏡検査（年間約1万2千件）をはじめとして、膵・胆道内視鏡検査、小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査などを積極的に行っております。最先端の機器と技術を用いて、診断から治療まで幅広く対応しております。

具体的な内視鏡検査、治療の内容

1）消化管疾患に対する検査、治療（年間約9,000件）

・画像強調・拡大内視鏡検査
NBI、BLI/LCIといった画像強調内視鏡と、拡大内視鏡を組み合わせて、早期癌の発見から質的診断、範囲診断および深達度診断などを行っております。

・内視鏡的粘膜切除術（EMR）（年間約530件）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）（年間約250件）、内視鏡的咽喉頭手術（ELPS）（年間約30件）
食道、胃、十二指腸、大腸の早期癌などを中心にEMRやESDといった内視鏡的切除を行っています。最近では病変を確実に一括切除できるESDの件数が飛躍的に増加しています。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と合同で、咽喉頭表在癌に対するELPSを行っており、失声（声を失うこと）させることなく、表在癌を切除することに取り組んでいます。

・光線力学療法（PDT）
腫瘍親和性光感受性物質を静脈内投与後、レーザーを腫瘍に照射し、腫瘍を選択的に破壊する内視鏡治療です。食道癌では化学・放射線治療後の遺残、再発病変に対しても適応があります。

・食道静脈瘤に対する内視鏡治療（年間約200件）
内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）や内視鏡的静脈瘤効果療法（EIS）などを多数施行し、治療効果を上げています。

・バルーン小腸内視鏡検査（年間約250件）、カプセル内視鏡検査（年間約150件）
かつて検査が困難であった小腸疾患に対して、バルーン小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査を行っています。これらによって小腸内出血や腫瘍を診断し、さらに止血や生検といった処置を行うことが可能です。クローン病の小腸病変に対する診断、治療も可能となっています。

・消化管ステント挿入術
根治の可能性がない高度進行癌による狭窄や穿孔症例を中心としてステント挿入を行っており、経口摂取が可能になることでQOLの向上に努めています。

・超音波内視鏡検査および治療（年間約550件）
食道、胃、大腸の消化管腫瘍だけでなく、膵・胆道系腫瘍に対しても積極的に超音波内視鏡検査を施行しています。これによって腫瘍を詳細に観察し、局在や深達度の診断を行うのみならず、近年では超音波内視鏡下穿刺吸引法による生検で確実な組織診断が行えるようになり、施行件数が急激に増えています。また超音波内視鏡下の膵仮性嚢胞ドレナージなども行っています。

2）膵・胆道内視鏡検査および治療（年間約1000件）
側視鏡を用いて膵・胆道疾患に対する診断および治療を行っております。ERCPの技術を用いて膵癌や胆道癌の診断を行い、閉塞性黄疸や急性胆管炎に対してはドレナージを施行しています。胆管結石の除去や、胆道狭窄に対する胆管ステント留置なども多数行っております。

3）耳鼻咽喉・頭頸部外科の内視鏡検査・治療（ELPS）
様々な耳鼻科的疾患と関連する胃食道逆流症や頭頸部癌に合併しやすい食道癌などのスクリーニング検査を行っており、疾患が確認された場合には専門医と連携して治療にあたっています。また、消化器内科との合同手術（ELPS）を行い、患者さんに負担の少ない治療を行っております。

□ 外来のご案内

消化器内視鏡センターの直接予約は承っておりません。各診療科で外来受診をして頂いた後に、当センターでの検査および治療が予定されることとなります。

呼吸器内視鏡センター

センター長　清水（しみず）　泰生（やすお）
副センター長　専任　武政（たけまさ）　聡浩（あきひろ）

外来受付電話番号　0282-87-2197（呼吸器・アレルギー内科外来）
内視鏡室連絡番号　0282-87-2120

□ 特徴・特色

呼吸器内視鏡として気管支鏡と胸腔鏡の両者を扱う全国で初めて設立された歴史をもつ専門センターであり、高度かつ先端的な診断、治療を行っています。呼吸器・アレルギー内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、上部消化管外科の医師が検査を担当します。日本呼吸器内視鏡学会認定施設であり、気管支鏡専門医も多数、指導医も6名が所属しています。県内のみならず県外からのご紹介の患者さんも多くいらっしゃいます。安心で患者さんにやさしい診断精度の高い検査と治療を目指しています。

□ 診療内容

気管支鏡検査：肺癌など悪性腫瘍のほか、間質性肺炎、過敏性肺炎、サルコイドーシスなどびまん性肺疾患や呼吸器感染症の診断を行います。治療では、肺癌に対する内視鏡下腫瘍切除術、凍結プローブを用いた腫瘍減量術、光線力学療法（PDT）、気管支狭窄に対するバルーン拡張、気管支ステント留置、気管支喘息に対する気管支熱形成術なども行っています。超音波内視鏡や自家蛍光内視鏡、極細径気管支鏡など最先端の内視鏡機器を揃えています。年間検査件数は約600件です。

胸腔鏡検査：悪性中皮腫、癌性胸膜炎、結核性胸膜炎など診断のほか、急性膿胸の治療やタルク散布による胸膜癒着術などを行います。当科で開発した胸腔鏡専用スコープや特殊光診断装置が揃っています。年間検査件数は約40件です。

□ スタッフ

呼吸器・アレルギー内科	清水　泰生	教授
	武政　聡浩　専任	准教授
	池田　直哉　専任	助教
呼吸器外科	中島　崇裕	准教授
	井上　　尚	准教授
耳鼻咽喉・頭頸部外科	阿久津　誠	助教
上部消化管外科	中川　正敏	講師

◎最先端治療

気管支バルブシステムによる肺気腫治療。薬物治療によっても呼吸困難が改善しない肺気腫の方が対象になります（当院ご紹介後に治療適応有無の判断のために検査が必要となります）。2024年5月現在、日本でこの治療を行うことができる14施設のなかの1施設となっております。獨協医科大学　呼吸器内科または呼吸器外科にご紹介ください。

□ 診療概要（得意とする検査・治療）

1）無苦痛鎮静下気管支鏡検査
　静脈麻酔を施行して検査を行うため、ほとんど苦痛がなく、安心して安全な検査が受けられます。

2）ガイドシースとラジアル型気管支内超音波法を用いた肺末梢小病変の診断
　X線透視下でも確認できないような小病変は、従来の気管支鏡で診断することは、極めて困難でしたが、新規に開発されたガイドシースを用いて、気管支内腔超音波を行うことで病変部への到達を確認して生検できるため診断率が大きく向上しました。肺野末梢小型肺癌の診断に威力を発揮します。

3）コンベックス型気管支超音波を用いた中枢気管支周辺病変の診断
　コンベックス型気管支超音波法を用いると縦隔や肺門リンパ節など気管支壁外の病変を確認しながら穿刺生検できるため、従来、手術や縦隔鏡などを用いないと診断不能であった病変が診断できます。肺癌や悪性リンパ腫のみでなく、サルコイドーシスなど良性疾患の診断にも威力を発揮します。

4）クライオプローブを用いた肺生検
　気管支鏡を通して挿入したプローブの先端を二酸化炭素を用いて−45℃に冷却し、気管支や肺組織、腫瘍などを冷凍して採取するため通常の鉗子生検と比較して大きなサンプルを得られます。肺癌や間質性肺疾患の原因診断率が向上します。

5）特殊光診断による早期肺癌の検出
　自家蛍光気管支鏡や狭帯域光気管支鏡といった最新の内視鏡機器を用いて、レントゲンでは写らないような気管支内早期肺癌を見つけ出すことが可能です。これらの病変は後述の内視鏡下治療法で治療可能です。

6）気管支インターベンション
　高周波凝固法やアルゴンプラズマ凝固法、YAGレーザー法などを用いて気管支内腫瘍の治療を行います。また、気管支ステントを挿入し気道の狭窄を治療します。

7）重症気管支喘息に対する気管支熱形成術
　気管支鏡によって気管支に65℃の温熱を与えることで気管支平滑筋を減少させ治療します。

8）光線力学療法（PDT）
　光感受性物質を注射したのちダイオードレーザー光を病変部に照射することで腫瘍病変を選択的に焼灼し、気管支鏡的早期肺癌を手術せずに治療できます。

9）局所麻酔下胸腔鏡検査
　胸水貯留疾患の診断を安全、簡便、迅速かつ低侵襲に行うことができます。最近、話題のアスベスト曝露による胸膜悪性中皮腫の診断にも威力を発揮します。わが国でも最も検査件数が多い施設であり、国内外から多くの研修者を受け入れています。急性膿胸のドレナージやタルク散布による胸膜癒着術など治療法としても有用です。

□ 外来のご案内

呼吸器内視鏡センターでは直接外来診療受付は行っておりません。まず最初に、呼吸器・アレルギー内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、上部消化管外科など各診療科外来に受診あるいはご紹介ください。

□ 外来担当表

外来曜日別診療医一覧は、毎月当院ホームページにて更新されております。ホームページをご参照ください。
https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/outpatient/

PETセンター

□ はじめに

当施設は、栃木県で初めてPET/CT装置を２台導入し、現在は保険適用である[^{18}F]FDG薬剤を用いた検査（主にがん検査）を中心に、地域の共同利用型施設として運用しており、院内・他の医療機関からの依頼検査を通じ地域のがん医療の発展に貢献しております。

また、施設内には４核種製造可能なサイクロトロン（加速器）を設置しており、[^{18}F]FDG薬剤以外の最新の薬剤を使用した検査も行っております。

□ 医療設備・スタッフ

設備は、サイクロトロン１台、[^{18}F]FDG合成装置２台、[^{15}O]ガス合成装置１式、品質管理装置１台、連続自動投与装置１台を設置。PET/CT装置を２台導入し、将来は３台目を設置できるように予備室を用意しております。

スタッフは常勤医師１名（放射線診断専門医・核医学専門医・PET核医学認定医）とローテーション医師数名、診療放射線技師３名、看護師２名、薬剤師１名（ローテーション）、サイクロトロン運転員１名、事務員６名で運営しております。

※2016年11月に[^{18}F]FDG合成装置２台、連続自動投与装置１台、PET/CT装置１台を更新

※2017年11月にPET/CT装置１台を更新

□ 特徴・特色

PET/CT検査はPETの「代謝画像」とCTの「形態画像」の２つの機能を併せ持ち、短時間でほぼ全身の検査を実施でき、正診率が向上します。また身体への負担が少ないのも特徴です。

さらに造影CTの併用により、３次元画像を作成し、手術支援のための画像応用も研究しています。

□ 診療概要

(1) PET/CT検査により、がんのスクリーニング、良性、悪性の識別、病期診断、転移・再発診断、治療効果の判定を行っております。

● 保険適用の概要

① 悪性腫瘍（早期胃癌を除き、悪性リンパ腫を含む）
他の検査、画像診断により病期診断、転移、再発の診断が確定できない患者に使用する

② てんかん
難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる患者に使用する

③ 心疾患
虚血性心疾患による心不全患者における心筋組織のバイアビリティ診断（他の検査で判断のつかない場合に限る。）、心サルコイドーシスの診断（心臓以外で類上皮細胞肉芽腫が陽性でサルコイドーシスと診断され、かつ心臓病変を疑う心電図又は心エコー所見を認める場合に限る。）又はサルコイドーシスにおける炎症部位の診断が必要とされる患者に使用する

④ 血管炎
高安動脈炎等の大型血管炎において、他の検査で病変の局在又は活動性の判断のつかない患者に使用する

● PET/CT装置であることから、目的によって応じ、以下の検査を実施しております

① PET（CTフュージョン）検査＋単純CT検査

② PET（CTフュージョン）検査＋造影CT検査

PET/CT検査の有用性、あるいは保険適用の有無など、何かご不明な点がありましたら、お気軽にPETセンターまでお問い合わせください。

(2) 健診センターとのドックと組み合わせ、健康診断としてのPET検査も行っており、以下の３つのコースがあります。

① PET＋CT（胸部）検診　－　PETセンター

② 短期ドック＋PET検診　－　健診センター

③ 長期ドック＋PET検診　－　健診センター

検診の詳しい内容・費用などについてはPETセンターまたは健診センターへお問い合わせください。

PETセンター直通電話　0282－85－1166

健診センター直通電話　0282－87－2216

センター長　中神（なかがみ）　佳宏（よしひろ）

外来受付電話番号　0282-85-1166

□ 外来のご案内

健康診断としてのPET検査について詳しい説明を聞きたい方、または、その検査結果について専門医による説明を受けたい方が対象です。

- 完全予約制
- 担当医：中神医師ほか
- 外来対象者：原則としてPET/CT検診を受診され、結果説明をご希望の方

□ PETセンターで検査を受けるには

検査をご希望の場合には、主治医の先生にご相談ください。また検診目的の場合は、まずは当センターへ電話にてお問い合わせください。

- 検査予約・お問い合わせ ／
  【月～土】 9:00 ～ 16:30
  （第３土曜を除く）

直通電話：0282－85－1166
FAX：0282－85－1170

【PETセンターホームページ】
http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/

□ 建物概要

建物概要		鉄筋コンクリート造り、地下１階、地上２階建 延べ面積　1,848.57㎡
各階構成	２階	899.33㎡　受付、読影室、事務室他
	１階	808.90㎡　検査室、待機室、サイクロトロン他
	地下	140.34㎡　排水処理機械室

総合がん診療センター

□ 特徴・特色

がんの診療は近年、様々な分野で急速に進歩し、変化しています。2019年には「がんゲノム診療」が保険収載されることになり、獨協医科大学病院においても「がんゲノム診療」が実施できるようになりました。この他にも多くの特徴がある優れた獨協医科大学病院のがん診療を、よりスムーズに皆様に提供できるという目標を達成するために、各科の垣根を超えたがん診療全体の総合的支援を行う部門として、これまでの「腫瘍センター」という名称から、よりわかりやすい「総合がん診療センター」という部門として、新たに再出発いたしました。

総合がん診療センターの活動内容

がんゲノム診療部門

がんゲノム医療とは、“がん”の遺伝子変化に着目した医療です。がんゲノム医療の中心となる『がんゲノムプロファイリング検査（がん遺伝子パネル検査）』は、2019年に保険収載された比較的新しい検査であり、当院は東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として当初より携わっております。この検査では、“がん”の発生や進行に関与した遺伝子変化を解析し、その人に合う新たな治療戦略を模索します。保険診療で使用できる薬剤以外にも、随時行われている「治験」や「臨床試験」などをご紹介できる場合があります。解析に使用するのは、手術や生検で採取した組織を基本としますが、採取できる組織がない場合や、保存している組織が解析に適さない場合は、ctDNA（血液中に循環しているがん細胞）で解析することも可能です。標準治療を終了された方、または終了見込みの方、あるいは標準治療のない“希少がん”の方が対象となります。がんゲノム診療部門では、各部署や担当の先生方と連携し、常に最新の情報を入手し、よりよい医療をご提供できるよう取り組んでおります。

化学療法部門

がんの化学療法はがん治療の中でも急速に進歩している分野です。様々な分子標的治療薬や、免疫チェックポイント阻害剤など、新たな薬剤も次々に導入されています。又、投与の際の管理方法の工夫により、自宅で家族と過ごしながら、あるいは仕事を続けながら、治療を継続することが可能になってきました。当院の外来化学療法室では年間約10,000件の薬物療法を施行しています。入院が必要となる治療も含め、全ての薬剤を安全に、正確に投与すること、そして患者さんに分かりやすい説明や指導を行うことを目標としたシステムを構築し、ガイドラインに沿った標準治療を行っています。

緩和ケア部門

がんそのものの症状や、がん治療に伴う様々な副作用（痛み、吐き気、体重減少、など、様々）は、時に患者さんに大きな負担を強いることになります。獨協医科大学病院では治療を受けられる患者さんのそのような負担を軽減し、より安心して治療が受けられるよう、多職種で構成された緩和ケアチームが活動しています。入院患者さんに対するケアや、外来でのケアを、患者さんや担当医師の要望によって積極的に行っていきます。

キャンサーボードの開催

現在のがんの診療は、高度な機器を駆使した診断、内視鏡やITを用いた先進的な外科手術、様々な薬剤を用いた化学療法、より精度の高い機器を駆使した放射線療法、さらには薬剤やカウンセリングを通して疾患や治療に伴う様々な苦痛を和らげる緩和ケアなど、実に多岐にわたる面から行われています。このような包括的ながん診療は、単一の科のみで行うことは難しい場合があります。治療方針の決定に複数の部門の参加が必要な患者さんについては、関与する複数の診療部門を交えたカンファレンス、いわゆるキャンサーボードが行われて、方針の決定を行なっています。総合がん診療センターではその推進を行なっています。

相談支援部門

がん相談支援センター

がんに限ることではありませんが、病気は家族の問題でもあります。高額な医療費や、介護の問題、在宅治療を望まれる場合の様々な手配など、困ったときにご相談にのるために、専門の相談支援部門も設置しています。

セカンドオピニオン外来

セカンドオピニオン外来は、現在他の医療機関でがんの診療を受けられている患者さんやそのご家族が、診断や、今後の治療方針、治療方法などについて、獨協医科大学病院のエキスパートにも意見をお聞きになりたいと希望される場合にきていただく外来です。それぞれのがんのエキスパートが、時間の限られた普段の外来での診察ではなく、十分な時間を取ってこれまでの経過やデータをお聞きして、治療方針についての判断をお伝えします。このため、予約制で行っています。あらかじめ相談されたい医師を指名されることもできますし、病状に応じてこちらの方から適任と思われる医師を紹介することもできます。

各種セミナーや講演会などの開催

医療従事者や患者さん、家族を対象とした研修会、講演会の企画運営その他患者会等の支援を行っております。皆様のご参加をお待ちしております。情報は随時ホームページに掲載いたします。

HP: https://dokkyomed-ccc.jp/news/

総合がん診療センターへの受診や相談窓口

がんに関する相談：[がん相談支援センター]

電話：0282-87-2053（直通）平日　9：00～16：00

(来訪相談を希望される際にも事前に電話にて予約をお願い致します。)

がんセカンドオピニオン予約受付：

電話：0282-87-2053（直通）平日 9：00～16：00

ファックス：0282-87-2053（24時間対応）

□ がんに関するセカンドオピニオン外来について

1．お電話にて、がんに関するセカンドオピニオン外来予約受付にご連絡ください。
2．事務担当が受け付けをして、必要な書類をお送りいたします。（ホームページからダウンロード可）
3．「申込書」を郵送またはファックスにてお送りください。（送信先のご確認は慎重にお願いします）
4．「申込書」に基づき、がんに関するセカンドオピニオン外来担当医に予め受診内容を打診し、受診日をご連絡します。
5．それまでに主治医の先生に「主治医の先生へのお願い」をお渡しのうえ、「がんに関するセカンドオピニオン外来専用診療情報提供書」を作成していただき、資料を借りてください。
6．受診当日は、「正面受付（初再診受付）」にて本日の予約でがんに関するセカンドオピニオン外来受診することをお申し出いただければ担当者がご案内いたします。
7．受診後、主治医の先生へのご報告をお受け取りののち、会計をお願いいたします。

【受診に際して必要なもの】

1．相談者さまがご本人以外では「相談同意書」、ただし、患者さんが未成年の場合は、ご相談者さまとの続柄を示す書類（健康保険証等）。
2．主治医の先生に書いていただいた、「がんに関するセカンドオピニオン外来専用診療情報提供書」
3．できる限りの検査資料をお借りしてお持ちください。
　(1) 血液検査の結果（2）超音波検査の結果と画像
　(3) レントゲン検査、MRI検査、CT検査の実物フィルム
　(4) 病理検査の報告書等

詳細につきましては、当院ホームページでもご案内させていただいております。当院ホームページをご参照ください。

HP: https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/revisit/consu/tation/second opinion.html

センター長	仁保 誠治
化学療法部門長	別納 弘法
緩和ケア部門長	白川 賢宗
院内がん登録部門長	井上 尚
がんゲノム診療部門長	田中 優子
相談支援部門長	別納 弘法

外来受付電話番号　0282-87-2053

□ がんに関するセカンドオピニオン外来・疾患別担当医一覧

対象疾患	担当科	氏名	職名
食道癌	消化器内科	郷田 憲一	教　授
	上部消化管外科	中島 政信	准教授
胆・肝・膵臓癌、転移性肝癌	肝・胆・膵外科	青木 琢	教　授
肝臓癌(IVR)	放射線科	石原 克俊	講　師
胃・十二指腸癌	上部消化管外科	小嶋 一幸	教　授
	上部消化管外科	森田 信司	准教授
	消化器内科	郷田 憲一	教　授
肝臓癌	消化器内科	飯島 誠	准教授
	消化器内科	大西 俊彦	助　教
大腸癌	消化器内科	冨永 圭一	准教授
	消化器内科	菅谷 武史	准教授
	消化器内科	金森 瑛	助　教
胆道癌・膵臓癌	消化器内科	入澤 篤志	教　授
大腸・直腸癌	下部消化管外科	水島 恒和	教　授
	下部消化管外科	中村 隆俊	教　授
	下部消化管外科	石塚 満	准教授
乳癌	乳腺センター	中川 剛士	教　授
脳腫瘍、脳・脊髄転移	脳神経外科	宇塚 岳夫	准教授
脳腫瘍、転移性脳腫瘍	脳神経外科	叶 秀幸	教　授
頭頸部癌	耳鼻咽喉・頭頸部外科	今野 渉	講　師
頭頸部癌・皮膚軟部腫瘍・乳癌	形成外科	飯田 拓也	教　授
皮膚癌	皮膚科	鈴木 利宏	准教授
眼内腫瘍	眼科	妹尾 正	教　授
	眼科	松島 博之	准教授
	眼科	永田万由美	准教授
	眼科	鈴木 重成	講　師
口腔癌	口腔外科	川又 均	教　授
	口腔外科	和久井崇大	准教授
	口腔外科	福本 正知	講　師
	口腔外科	小宮山雄介	講　師

対象疾患	担当科	氏名	職名
肺癌	呼吸器・アレルギー内科	仁保 誠治	教　授
	呼吸器・アレルギー内科	清水 泰生	教　授
	呼吸器・アレルギー内科	武政 聡浩	准教授
	呼吸器・アレルギー内科	新井 良	講　師
	呼吸器外科	千田 雅之	教　授
	呼吸器外科	前田寿美子	教　授
	呼吸器外科	中島 崇裕	准教授
肺癌(診断)	放射線科	荒川 浩明	准教授
急性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群	血液・腫瘍内科	今井 陽一	教　授
多発性骨髄腫、悪性リンパ腫	血液・腫瘍内科	今井 陽一	教　授
造血器疾患	血液・腫瘍内科	佐々木 光	准教授
子宮頸癌、卵巣癌、子宮体癌	産科婦人科	三橋 暁	教　授
腎癌、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍	泌尿器科	釜井 隆男	教　授
前立腺癌	泌尿器科	安士 正裕	教　授
腎盂尿管癌・膀胱癌、精巣腫瘍	泌尿器科	木島 敏樹	講　師
IVR(画像ガイド下治療)	放射線科	曽我 茂義	教　授
放射線治療全般	放射線治療センター	江島 泰生	教　授
骨肉腫、脳腫瘍、術前術後リハビリテーション	リハビリテーション科	中村 智之	講　師
脊椎転移癌	整形外科	種市 洋	教　授
	整形外科	稲見 聡	教　授
	整形外科	森平 泰	准教授
	整形外科	髙畑 雅彦	准教授
四肢骨転移癌	整形外科	冨沢 一生	講　師
	整形外科	瓜田 淳	講　師
小児癌	小児科	福島啓太郎	講　師
	小児科	佐藤 雄也	准教授
	小児科	奥谷真由子	講　師
神経芽腫、肺芽腫 腎芽腫 他 小児固形腫瘍	小児外科	鈴木 完	准教授
緩和ケア(疼痛)	麻酔科	山口 重樹	教　授
	麻酔科	白川 賢宗	講　師

※担当医の詳しい情報は病院ホームページをご確認ください

超音波センター

センター長　竹川（たけかわ）　英宏（ひでひろ）
特任教授　髙田（たかだ）　悦雄（えつお）
技師長　今野佐智代（こんのさちよ）

外来受付電話番号　0282-87-2290

□ 特徴・特色

超音波センターには心臓・腹部・体表超音波室があり、心臓・血管内科/循環器内科、消化器内科、腎臓・高血圧内科、脳神経内科、内分泌代謝内科、放射線科、小児科、健康管理科が検査を担当し、また超音波センターとしての検査日を設けています。対象となる臓器はほぼ全臓器といってよく、頚動脈エコーや下肢静脈瘤の術前マーキングなど末梢血管の検査も行われています。血流情報に関しては、カラードプラ、パワーモードに加え、超音波造影剤を用いた検査も積極的に行っています。エラストグラフィやリアルタイムバーチャルソノグラフィ（RVS）も実施しています。この他、インターベンショナルな検査・治療として超音波ガイド下穿刺細胞診・生検・吸引式組織生検、経皮的エタノール注療法（PEIT）、ラジオ波焼灼療法（RFA）にも対応しています。年間18,300件（腹部4,000件、心臓6,200件、体表6,100件、乳腺2,000件）以上行っています。

□ 医療設備・スタッフ

フルデジタル超音波診断装置9台（心臓4台、腹部5台、体表1台）を備え、Live3Dに対応した心臓用超音波診断装置4台、腹部用診断装置3台が導入されています。検査画像はDICOM画像ファイリングシステムにデジタル保存され、レポートと共にオンラインで閲覧可能です。各科の医師がそれぞれ専門分野の検査を担当し、専任の超音波検査士6名も検査に携わっています。2024年4月現在、日本超音波医学会認定の指導医が2名、同認定専門医が4名および同認定超音波検査士6名であり、専任の看護師3名で看護・受付業務を担当しています。

□ トピックス

オーダリングシステムからワークリスト、DICOM画像記録、レポーティングシステムへと一連の機能的な流れを持つシステムが稼動し、超音波センターの画像およびレポートは電子カルテ化されています。オーダ情報からモダリティワークリスト、レポートワークリストが作成され、対応装置ではそのリストから患者情報がインプットされます。DICOM SRに対応した装置からは計測情報がオンラインレポートに自動的に記入されレポート作成が簡略化されます。レポートへの画像の貼り付けもレポートサーバ、DICOMサーバとで連携し容易に行なうことができます。

超音波医学は超音波断層法を中心とする検査だけでなく、PEITやRFAの治療の補助にも使われますが、超音波のエネルギーによる腫瘍の治療や、抗がん剤のDDS（Drug Delivery System）への応用も行われつつあります。こういった治療の面にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

MVFI（Microvascular flow imaging）と呼ばれる微細血流イメージングで低流速の血流などの計測を行うことも可能です。

このほか超音波による乳がん検診の戦略的研究に参加したほか、乳がん集団検診専用超音波診断装置の開発を行ないました。現在、乳腺腫瘍のカラードプラ研究にも参画しています。

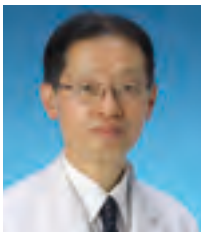
研究・教育分野では、医師のみならず、超音波検査士による学会・論文発表を行なっているほか、超音波関連学会でのハンズオン講師に加え、当院での研修指導も受け付けています。

また甲状腺健康調査のほか、社会貢献として栃木県および（公社）日本脳卒中協会栃木県支部と協力し、イベントで頚動脈超音波検査を行なっています。

【超音波センターホームページ】
https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/department/consultation_organization/132
電話：０２８２－８７－２２９０
FAX：０２８２－８７－２４８７

睡眠医療センター

センター長　宮本（みやもと）　雅之（まさゆき）
中島（なかじま）　逸男（いつお）
有川（ありかわ）　拓男（たくお）
鈴木（すずき）　圭輔（けいすけ）
今井（いまい）　貫太（かんた）



外来受付電話番号　0282-87-2510

□ 特徴・特色

近年、睡眠障害における社会的意義や生活習慣病との関連について広く認識されるようになりました。当センターは睡眠障害に悩まされている方々のための「睡眠医療の窓口」かつ「総合診療部門」です。外来部門（睡眠医療外来・睡眠時無呼吸外来）と入院部門（睡眠ポリグラフ検査）からなります。当センターは日本睡眠学会（http://www.jssr.jp/）における北関東地域で数少ない学会認定医療機関施設で、同学会総合専門医・指導医が中心になり関連する各診療科・部門と連携をとりながら診療を担当しております。そして2005年12月には、栃木県から医療広告の特例許可を頂きました。また、地域医療連携を当センターの理念のひとつとして掲げ、睡眠医療の拠点病院として地域の医療機関との連携を積極的に推進しております。

□ 診療内容

睡眠関連呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群・いびき）、レム睡眠行動異常（寝言や夢の中での異常行動）などの睡眠時随伴症、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群）、周期性四肢運動異常を中心に睡眠関連疾患全般を幅広く診療しております。

□ 診療実績（2023年度）

1年間のべ患者総数	6,877名
1年間新患総数	342名
1年間終夜ポリグラフ検査（PSG）件数	268件
1年間反復睡眠潜時検査（MSLT）件数	31件
1年間CPAP新規導入台数	156台
CPAP管理台数（2024年3月31日現在）	611台

□ 診療体制

外来診察室は、一般診察室3室、CPAP管理室1室、耳鼻科診察室1室を保有し、診療は、日本睡眠学会総合専門医・指導医が中心に、宮本雅之（脳神経内科）、鈴木圭輔（脳神経内科）、中島逸男（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、有川拓男（心臓・血管内科/循環器内科）、今井貫太（耳鼻咽喉・頭頸部外科）が担当しております。

診療日は、脳神経内科が毎週月・木・金曜日（月・金曜日は午前中のみ）、耳鼻咽喉・頭頸部外科が毎週月・火曜日の午後、心臓・血管内科/循環器内科が毎週水曜日の午前中と毎週金曜日の午後です。とくに睡眠時無呼吸症候群の診療では先の3科と臨床工学部の臨床工学技士のサポートによるCPAP療法、鼻科を含めた外科的手術治療に加えて、口腔外科（口腔内装置による治療）、内分泌代謝内科、精神神経科（不眠症を中心に精神疾患に伴う睡眠障害）、リハビリテーション科（運動療法の指導）、健診センター（睡眠時無呼吸症候群の検診）が診療協力科として参加しております。また、耳鼻咽喉・頭頸部外科にて、睡眠時無呼吸症候群の最新の治療である舌下神経電気刺激療法を行っています。とくに、新患の方は、完全予約制となっており、受診の際にはかかりつけ医の紹介状を必ず持参してください。詳細は受診前に睡眠医療センターの外来窓口にお問い合わせください。

□ 主な医療設備（PSG室、専用個室）

終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）室3床とモニター室1室を保有し、1泊2日の素泊まり入院で、週5日（月～金曜日）、1日2例のPSGを、また週1日（金曜日）1例、ナルコレプシーなどの過眠症の診断のための反復睡眠潜時検査（MSLT）を日本睡眠学会専門検査技師を中心に臨床検査センターの検査技師が担当しています。このほか、睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングのための携帯型呼吸循環モニター（簡易型モニター）、終夜経皮的動脈血酸素飽和度測定（パルスオキシメーター）、睡眠覚醒リズム評価のためのアクチグラフおよび睡眠時の血圧管理のための24時間血圧測定（ABPM）の施行が可能です。また、睡眠時無呼吸を無拘束に測定する医療機器も取り入れています。

ハートセンター

センター長　福田（ふくだ）　宏嗣（ひろつぐ）
副センター長　豊田（とよだ）　茂（しげる）

外来受付電話番号　0282-87-2191（心臓・血管内科 / 循環器内科）
0282-87-2206（心臓・血管外科）

□ はじめに

ハートセンターは、2011年4月に開設され、心臓・血管疾患診療に携わる当院2つの診療科（心臓・血管内科/循環器内科、心臓・血管外科）の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行うことで、これまで以上に質の高い医療を多くの患者さまに提供することを目標としています。

□ 診療内容

病院全体の病棟再編成の一環として2011年7月に、本館5階東西南北をハートセンター専用病棟として開設し、内科・外科が同じフロアで患者さまのケアに当たっております。

診療内容としては、これまで力を入れてきた超急性期医療に加え、内科的治療抵抗性の急性左心不全を主体とする心原性ショック症例に、新しい治療方法であるIMPELLAという左心室から直接脱血し、大動脈に順行性に送血する心内式軸流ポンプカテーテルが2018年より施行できるようになり、より重症例に対応できるシステムが構築されました。また2013年植え込み型補助人工心臓施設認定をうけ、心臓移植の橋渡しとして植え込み型人工心臓装着患者さんも増えています。さらに高齢化による重症心不全患者さんの増加にも対応すべく、本学特任教授鄭忠和先生の開発した非侵襲的な治療法である和温療法を2台導入し心不全治療にあたっています。この和温療法は2020年4月に保険償還されました。

心臓リハビリテーション部門では、心筋梗塞・狭心症・心不全や心臓術後の患者さんを対象に、入院中だけでなく外来での心臓リハビリテーションも行っています。入院中は急性期のベッドサイドでのリハビリから、歩行が可能になってからのエルゴメーターによる有酸素運動を行い、低下した筋力の回復のためセラバンドを使用した運動も併せて行っています。退院後も継続することが大切であり、医師・理学療法士・看護師が一体となってサポートしています。病気に対する理解や再発予防への知識が得られ、在宅での自己管理ができるよう、疾病教育や栄養指導、面談なども行っています。2018年度診療報酬改定では、悪性腫瘍だけでなく心不全末期の緩和ケアについて緩和ケア診療加算が認められ、心不全末期の診療体制確立が重要視されています。当センターでも多職種よりなる心不全サポートチームを立ち上げ、定期的にカンファレンスを重ね、今後末期心不全患者さんの在宅医療に対応すべく、地域で在宅医療を担っている先生方と連携し、システムを確立したいと考えます。さらに、2020年4月からは、寄付講座（加圧トレーニング®医学講座）が開設され、新たなリハビリ法の臨床研究を実施していく予定です。

2015年より開胸手術が困難な高齢者重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）を当院でも開始いたしましたが、2021年4月現在226例の患者さんに行うことができました。今後も本症は増加することが予想されます。高齢患者さんには低侵襲であるTAVIが治療の選択肢としてより重要性が増すと思われます。さらに重症僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（マイトラクリップ）も始まり、症例を重ねつつあります。

当センターでは重症虚血肢に対する治療も積極的に行っております。和温療法は難治性閉塞性動脈硬化症に有効で、各種治療法と組み合わせて行っております。

以上のようにこれまで以上に心臓・血管疾患患者さんに質の高い医療を提供させていただく所存です。

【主な対象疾患】

○虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
○心不全（重症心不全）
○心筋症（拡張型心筋症、肥大型心筋症、虚血性心筋症）
○心筋炎
○心臓弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患、三尖弁疾患）
○不整脈（頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）
○先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症ほか、成人先天性心疾患）
○心臓腫瘍
○大動脈疾患（急性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤）
○末梢血管疾患（急性動脈閉塞症、慢性動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、深部静脈血栓症）
○肺血栓塞栓症

□ 外来のご案内

現時点ではハートセンターに患者さまをご紹介していただく際には、まず、心臓・血管内科/循環器内科、心臓・血管外科の各診療科外来に受診あるいは紹介ください。今後体制が整い次第、窓口を一本化することで患者さまやご紹介いただく先生方へのより高い利便性を図る予定です。

臨床検査センター

センター長　小飼（こがい）　貴彦（たかひこ）

技師長　新保（しんぼ）　敬（けい）

外来受付電話番号　0282-87-2175

□ 特徴・特色

臨床検査センターは、獨協医科大学病院の理念である「高度で良質な医療の提供」に基づき、医療チームの一員として日々変化する病院組織のニーズに合わせた品質目標を定め、「高品質な臨床検査を保証する」、「臨床検査従事者の技術向上」、「病院利用者へのサービスの向上」、「医療安全管理の継続」、「臨床検査の情報提供」の５つの品質目標を柱として掲げ、臨床検査を通じて患者さんの健康をサポートするべく業務にあたっています。

また、臨床検査センターは臨床検査室の国際基準であるISO 15189を取得し、その要求事項に基づいたQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、高度で良質な医療を患者さんや各診療科へ提供または維持するために日々努力しています。

□ スタッフ

医師３名　小飼（こがい） 貴彦（たかひこ）、福島（ふくしま） 篤仁（あつひと）、伊藤（いとう） 裕佳（ゆか）（臨床検査専門医１名、臨床検査管理医１名、産業医２名、臨床微生物認定医１名、臨床遺伝専門医１名、研修指導医２名、難病指定医１名、認定内科医１名、感染症専門医１名、ICD2名）

臨床検査技師56名（パートタイム３名、感染制御センター出向１名）

医学博士１名、日本臨床検査同学院認定１級臨床検査士２名、２級臨床検査士・緊急臨床検査士40名（多くの技師が複数分野保有）、超音波検査士４名、認定微生物検査士３名、感染制御認定臨床微生物検査技師３名、認定心電図専門士２名、心電図検定１級１名、心電図検定２級４名、認定心理士１名、診療情報管理士１名、認定血液検査技師４名、認定骨髄検査技師１名、認定サイトメトリー技術者１名、JAB認定 ISO 15189 臨床検査室 技術審査員１名、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師３名、認定一般検査技師２名、認定穿刺液細胞検査技師１名、認知症介助士１名、日本睡眠学会認定検査技師４名、専門技術師　脳波分野２名、専門技術師　筋電図・神経伝導分野２名、栄養サポートチーム専門療法士３名、認定臨床染色体遺伝子検査師遺伝子分野２名、認定HLA検査技術者２名、遺伝子分析科学認定士（初級）４名、細胞検査士１名、POCT測定認定士１名、日本糖尿病療養指導士１名、上級健康食品管理士２名

事務員４名（パートタイム）、技術員10名（パートタイムを含む）、採血短時間勤務看護師・臨床検査技師９名（パートタイム）

□ 主な業務

1．検体検査

①採血業務、②検体搬送・分離業務（外来は自動搬送ロボットを導入）、③検査項目の追加・削除業務、④生化学検査、⑤免疫血清検査、⑥血液学検査、⑦遺伝子・HLA検査、⑧血液凝固・線溶検査、⑨一般（尿・糞便）検査、⑩微生物（細菌・真菌）検査、⑪感染制御センターへの出向、⑫栄養サポートチーム、⑬がんゲノム診療部門のサポート、⑭糖尿病センターのサポート、⑮手術室等の血液ガス分析装置の精度管理、⑯血液腫瘍内科と小児科の骨髄採取のサポート、⑰血液腫瘍内科と小児科の末梢血・骨髄像カンファレンス、⑱データ抽出サービスなどを行っています。

2．生体検査

①心電図検査（病棟出張を含む）、②トレッドミルによる負荷心電図検査のサポート、③ホルター心電図解析および患者さんへの説明、④体成分分析検査（InBody）、⑤心音図検査、⑥脈波検査、⑦脳波検査（病棟出張を含む）、⑧神経伝導速度検査、⑨呼吸機能検査、⑩皮膚灌流圧検査、⑪終夜睡眠ポリグラフ検査（宿直業務を含む）、⑫整形外科領域の術中神経モニタリング監視者、⑬健診センター（超音波検査）のサポートなどを行っています。

3．時間外緊急検査（24時間対応）

二次・三次救急病院のため、生命危機が切迫している重症な患者さんに対応する主要な項目は24時間緊急検査を行っています。

リウマチセンター

□ 診療内容

関節リウマチの患者さんの数は日本全体で約70万人と言われています。最近は検査法や薬が進歩し、とくに生物学的製剤と呼ばれる新しい薬の効果はめざましく、多くの患者さんの関節の障害を防ぐことができるようになりました。一方で、不幸にして関節の痛みや変形がひどくなった場合には、適切なタイミングで手術を行う必要があります。また、合併症や副作用などで標準治療が難しい患者さんにも対応する必要があります。

当センターでは、内科と整形外科のリウマチ専門医（日本リウマチ学会指導医・専門医）が緊密な意見交換をしながら、患者さんひとりひとりに最適な治療を提供いたします。また日本リウマチ財団認定リウマチケア看護師が皆様のお手伝いをいたします。

【対象疾患】

関節リウマチ、強直性脊椎炎
膠原病（全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎、ベーチェット病など）

□ 特徴・特色

1）内科と整形外科の両面からリウマチの診断・検査・治療を行います。
2）初診・再診ともに予約制とし、患者さんひとりひとりに十分な診察時間を取ります。
3）病気の早い時期から積極的に治療を行って、将来の身体の不自由を防ぎます。
4）副作用が起こった時には、24時間、素早く対応します。
5）薬、リハビリテーション、装具、医療費などのご相談に応じます。
6）手術はリウマチ外科の経験を積んだチームが担当します。
7）多数の医療機関と連携する栃木リウマチコミュニティを通じて、ご都合の良い地域で専門医の治療を受けられるように配慮します。

□ 診療体制

1）初診：月～金
原則として紹介・予約制となっております。当センター受診をご希望の場合には、かかりつけの医師にご相談の上、紹介状をもらってください。予約はお電話（0282－87－2506）でお願いします。『リウマチセンター（内科）』（リウマチ・膠原病内科）または『リウマチセンター（整形外科）』（整形外科）どちらかの予約となります。内科系か外科系で不明の場合はリウマチセンター宛にお送り下さい。

2）再診：月～土
予約制で診療いたします。病院正面の自動受付機に診察券を通した後、『リウマチセンター（内科）』（リウマチ・膠原病内科）または『リウマチセンター（整形外科）』（整形外科外来）の窓口にお越しください。
急に具合が悪くなった場合には、まずはかかりつけの科にお電話をお願いします。

3）入院：
治療内容によって、リウマチ・膠原病内科、整形外科など、最適の診療科に入院していただくようにいたします。

4）その他：
薬、リハビリテーション、装具、医療費などのご相談は、担当医にお申し出ください。

センター長　池田　啓

副センター長　富沢　一生

外来受付電話番号　0282-87-2506

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医
池田　啓	教　授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
有馬　雅史	教　授	アレルギー、呼吸器疾患	
前澤　玲華	准教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
富沢　一生	講　師	関節リウマチ、関節外科	＊2
新井　聡子	講　師	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
関本　厳雄	講　師	関節リウマチ、関節外科	＊2
田中　彩絵	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
宮尾　智之	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
長谷川杏奈	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1
檜山　知佳	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
相澤　有紀	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
吉田　雄飛	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
菊地　梓	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
佐藤　理華	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
諏訪　瑞貴	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
竹越麻祐子	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
長　櫻子	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	
倉沢　和宏	特任教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本リウマチ学会　リウマチ専門医
＊2：公益社団法人　日本整形外科学会　整形外科専門医

□ 外来担当表（2024年4月1日現在）

	月	火	水	木	金	土
リウマチセンター（内科）	有　馬 田　中 吉　田	池　田 前　澤 宮　尾	池　田 田　中 菊　地	前　澤 長谷川 相　澤	倉　沢 新　井 檜　山	交代制
リウマチセンター（整形外科）				富　沢 関　本	富　沢	

＊変更になる場合がありますので、予約の際にお確かめください。

前立腺センター

□ 診療内容

臓器限局性前立腺がん（早期）から転移性さらには去勢抵抗性前立腺がんまで幅広い病期に対応し、いずれの病期の前立腺がんに対してもエビデンスに基づいた治療を基本としています。定期的な多診療科合同カンファランスを行っており、さらに治療難渋が予想されるなど個別対応を必要とする事例に対しては、適宜迅速に多診療科およびコメディカルとのチームカンファランスを実践し、適切な治療が行われるようクオリティコントロールがされています。

早期前立腺がんに対しては、2012年秋から da Vinci S サージカルシステムを導入し、ロボット支援根治的前立腺全摘手術（Robot Assisted Radical Prostatectomy, RARP）を開始しております。2019年春からはda Vinci Xiサージカルシステムに移行して稼働しております。高解像度三次元視野のもとで関節を有する腹腔鏡鉗子を操作できることから、より詳細に前立腺の立体構造が把握でき、人間の手を凌駕するぶれのない確実な手術操作が実現されています。現在では年間160件以上の実績があります。（安全性を考慮した当院独自の症例適用基準および除外規準を設けています）。そのため、これまでの手術法に比べて出血量の減少、排尿機能および男性機能の温存、そして確実ながんのコントロール、入院日数の短縮が可能となってきています。手術が適応にならない症例や放射線治療を希望される場合には、IMRT（強度変調放射線治療）を行っております。

□ 特徴・特色

食生活様式の欧米化やPSA（前立腺特異抗原）測定の検診導入、および国民の疾患に対する認知度が高まっていることなどから、前立腺がんの患者数は本邦において増加し続けており、2015年には男性が罹患する悪性疾患の第一位になりました。前立腺がんは早期がんから転移性さらに去勢抵抗性がんにいたる幅広い病期がありますが、病期ごとに治療戦略は異なり、それを適切に適用していくことが求められます。近年の前立腺がんの臨床を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、診断検査方法、手術方法、放射線療法、そして薬物療法など進歩を遂げる一方で、より複雑多様化しています。このような背景から、泌尿器外科医のみならず放射線科医や病理診断医、さらにコメディカルを含めたチーム医療が必須な状況になってきており、それを実践する目的で前立腺センターが設立されています。

□ 外来診療日・スタッフ

月曜日～金曜日午前中、泌尿器科外来スタッフが対応しています。ロボット手術施行医は現在10名で対応しています。セカンドオピニオンは主に午後、および適宜午前中に受けることが可能です。

□ 最近のロボット支援下前立腺全摘除術（RARP）の治療成績

以下は2023年3月までのRARP手術統計データ（平均値）です。下線部分は従来の開腹手術法よりも改善している点です。近年、腫瘍学的成績改善を目的として積極的に拡大リンパ節郭清を行っていることや、併存疾患のある症例に対しても安全対策を施した上で手術を行っているため、手術時間が延長していますが、主術者による総手術時間は現在157分、コンソール時間125分、出血（尿込み）186mlであり、手術の低侵襲手術が維持されています。さらに機能温存（勃起機能、尿禁制）と腫瘍学的結果も良好な成績となっています。

① 総手術時間（皮膚切開から閉創まで）：183分

② コンソール時間（ロボット操作時間）：148分

③ 出血量：227ml

④ 尿道カテーテル抜去：術後5日目

⑤ 入院日数：10日間

⑥ 神経温存症例の割合：23.8%

⑦ 尿禁制獲得率（1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月）
：54.5%，85.9%，94.1%

⑧ 外科断端陽性率（T2以下、全Tステージ）
：12.2%，22.9%

センター長　釜井　隆男

副センター長　安士　正裕

外来受付電話番号　0282-87-2208

□ 外来担当医師および専門分野

氏名	職名	専門分野	専門医
釜井　隆男	教　授	泌尿器外科学	＊1
安士　正裕	教　授	泌尿器外科学	＊1
木島　敏樹	講　師	泌尿器外科学	＊1
福田　武彦	非常勤助教	泌尿器外科学	
武井　航平	助　教	泌尿器外科学	＊1
戸倉　祐未	助　教	泌尿器外科学	＊1
植松　稔貫	助　教	泌尿器外科学	＊1
国分　英利	助　教	泌尿器外科学	＊1

氏名	職名	専門分野	専門医
大久保尚弥	助　教	泌尿器外科学	＊1
倉科　凌	助　教	泌尿器外科学	＊1
岡﨑　明仁	助　教	泌尿器外科学	
古藤野茉莉子	レジデント	泌尿器外科学	
稲葉　咲葵	レジデント	泌尿器外科学	
窪田　晴香	レジデント	泌尿器外科学	
藤田　素輝	レジデント	泌尿器外科学	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

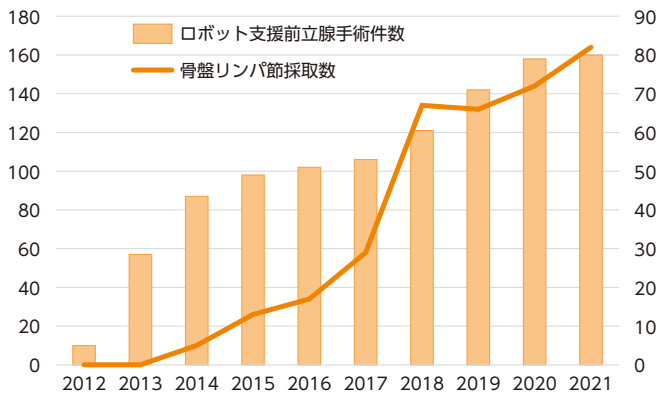
＊1：一般社団法人　日本泌尿器科学会　泌尿器科専門医

□ 地域連携

主要5大癌にならんで地域連携クリニカルパス導入も考慮しており、そのための県、郡市医師会での懇話会開催や積極的な広報啓蒙活動を行っていく予定です。

□ 前立腺癌手術件数の推移

最近10年間の前立腺全摘手術件数の年次推移を図に示します。ロボット支援下手術を基本術式としていますが、広範な開腹手術既往があり腹腔内癒着が想定される場合、未治療脳動脈瘤がある場合、未治療緑内障のある場合は従来の開放手術を選択しています。開放手術であっても、ロボット支援手術と同等の手技内容で行っているため、諸成績はほぼ同じです。



ロボット支援前立腺全摘手術の年次推移

再生医療センター

センター長　佐久間理吏（さくままさし）
副センター長　釜井　隆男（かまい　たかお）
副センター長　清水　泰生（しみず　やすお）

外来受付電話番号　0282-86-1111（代表）　E-mail　saisei@dokkyomed.ac.jp
ホームページ　https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/department/consultation_organization/181
随時更新

□ 再生医療センター変遷

吉田謙一郎学長の発案で再生医療プロジェクトが発足後、平成24年4月「再生医療センター」が設立し初代センター長に井上晃男先生が就任されました。平成26年11月25日より再生医療等の安全性の確保等に関する法律（再生医療等安全性確保法）が施行され、当院再生医療センターも、再生医療センター運営委員会を組織し、特定細胞加工物製造許可申請書の届出・許可申請が受理されました。その後当センターでは脂肪組織由来幹細胞（ADRC）をはじめ、様々な細胞源を用いた再生医療を実施しております。

ADRCは骨髄幹細胞に比べ簡便かつ潤沢に細胞を摂取でき、骨髄幹細胞同等の分化能、パラクライン効果を認める優れた再生細胞で、これを用いた再生医療に関して、当院では腹圧性尿失禁や重症虚血肢の治療に実績があります。保険診療ではありませんので、各専門分野で臨床治験や臨床研究として実施しております。泌尿器科では腹圧性尿失禁に対する治験を8例施行し、有効性、安全性を確認しております。また心臓・血管内科/循環器内科では重症虚血肢（閉塞性動脈硬化症、バージャー病、膠原病による末梢血管炎等）に対する血管新生療法として臨床試験に参加し、こちらも5例施行し有効性、安全性を確認しております。その結果、第2種再生医療として承認されました。また、第3種再生医療としてADRCを用いた乳房再建術の計画書も承認されております。

ADRC以外の細胞源を用いた再生医療として、口腔外科では多血小板血漿（PRP）を用いた顎骨・歯槽欠損に対する組織修復治療を自由診療として実施しております。また総合周産期母子医療センターでは新生児低酸素脳症に対する、自己臍帯血幹細胞（CD34陽性細胞）治療の臨床試験に参加しております。整形外科では変形性関節症や、スポーツ傷害（筋・腱・靭帯）を対象とした自家多血小板血漿（PRP）注入療法を自由診療として実施しております。

2019年からMuse細胞（Multilineage-differentiating stress enduring cell）を細胞源とした再生治療にも注目しております。Muse細胞は東北大学の出澤真理教授により発見されたストレス耐性の多能性幹細胞で、組織傷害に際し骨髄から末梢血を介し傷害部位に選択的に遊走し、自発的分化によって損傷細胞を置換・補充し修復する「生体内修復幹細胞」です。本学先端医科学研究センターでは出澤先生を本学特任教授としてお招きし、Muse細胞に関する基礎的研究をすすめていますが、当センターとして、Muse細胞を用いた再生治療の臨床治験に参加しております。急性心筋梗塞の治験9例と脊髄損傷の治験1例、COVID-19重症肺炎の治験4症例を実施しました。

随時当院再生医療センターで実施可能な臨床研究・治験・先進医療・自由診療・保険診療の情報提供をホームページ上に更新します。

□ 当再生医療センターで提供できる治療（2024.6.1現在）

- **顎骨再生**：口腔外科では多血小板血漿（PRP）を用いた顎骨・歯槽欠損に対する組織修復治療を自由診療として実施しています。
- **新生児低酸素脳症に対する、自己臍帯血幹細胞（CD34陽性細胞）治療**：総合周産期母子医療センターでは新生児低酸素脳症に対する、自己臍帯血幹細胞（CD34陽性細胞）治療の臨床試験を実施しています。
- **膝軟骨再生医療**：整形外科では膝関節における外傷性軟骨損傷または離断性骨軟骨炎に対する自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療の認定施設となっており、保険診療として実施しております。
- **変形性関節症・スポーツ障害**：整形外科では変形性関節症やスポーツ傷害（筋・腱・靭帯）を対象とした、自家多血小板血漿（PRP）注入療法を自由診療として実施しております。
- **重症下肢虚血による足趾潰瘍**：心臓・血管内科/循環器内科では重症下肢虚血による足趾潰瘍に対するHGF遺伝子治療の認定施設となっており、保険診療として実施しております。また、ADRCを用いた重症下肢虚血に対する血管新生療法も自由診療として実施しています。
- **軟部組織の再建**：形成外科・美容外科ではADRCを用いた乳房再建術を自由診療として実施しています。
- **クローン病による複雑痔瘻**：下部消化管外科（一般外科）では、非活動期または軽症の活動期クローン病による複雑痔瘻に対するヒト体性幹細胞加工製品の認定施設となっており、保険診療として実施しております。

□ ご紹介くださる先生方へ

当センターで提供可能な再生医療は前述のとおりです。対象となりうる患者さんがいらっしゃいましたら是非ともご紹介ください。いずれの場合も入院・精査の上、適応を確認してからの治療になることをご了解ください。また連絡窓口は当センター事務員が担当しております。詳細につきましては各治療実施責任者に確認後改めましてご連絡いたします。

□ 再生医療センターメンバー

顧　問	吉田謙一郎	学長
	井上　晃男	特任教授
施設管理者 病院長	麻生　好正	内科学（内分泌代謝）　教授
品質管理部門	佐久間理吏	内科学（心臓・血管）教授
製造管理部門	清水　泰生	内科学（呼吸器・アレルギー）　教授
衛生管理部門	水島　恒和	外科学（下部消化管）　教授
メンバー		
青木　　琢	外科学（肝・胆・膵）　教授	
飯田　拓也	形成外科学　教授	
井川　　健	皮膚科学　教授	
石塚　　満	外科学（下部消化管）　准教授	
井上　健一	先端医科学研究センター　准教授	
井上　陽晶	薬剤部	
岩畔　英樹	非常勤講師	
梅川　浩平	形成外科学　講師	
瓜田　　淳	整形外科学　講師	
小尾正太郎	先端医科学研究センター　准教授	
釜井　隆男	泌尿器科学　教授	
川又　　均	口腔外科学　教授	
鈴木　達也	リプロダクションセンター　センター長	
富沢　一生	整形外科学　講師	
豊田　　茂	内科学（心臓・血管）教授	
中村　祐介	内科学（呼吸器・アレルギー）　助教	
永瀬　　直	臨床研究管理センター	
成瀬　勝彦	産科婦人科学　教授	
橋本　涼太	内科学（心臓・血管）　助教	
濱口　眞輔	麻酔科学　教授	
福田　宏嗣	心臓・血管外科学　教授	
増渕　真澄	手術部（材料部）　師長	
八木沢就真	口腔外科学　助教	
山口　剛史	臨床工学部　技師長	
（50音順）		
事務担当	海老原充生	
	小比類巻歩	
CRC担当	大森　敦子	

放射線治療センター

センター長　江島（えじま）　泰生（やすお）

外来受付電話番号　0282-87-2178

□ 診療内容

放射線治療センターでは主に悪性腫瘍の治療を行っています。外来診療では、新規患者さん（他診療科または他院からの紹介）の診察、放射線治療中の診察、および治療後の経過観察を行います。治療方針決定に際しては、紹介元の主治医および関連診療科と相談・連携をして最善の治療法を提供出来るように努めています。なお、当センターは入院ベッドがないため、他院からの紹介患者さんで特に入院が必要な場合は、必ず先に関連診療科への紹介が必要となります。年間の新規患者数は約400-500名です。スタッフは専従医師３名、非常勤医師２名、医学物理士２名、診療放射線技師８名、専従医師３名、看護師３名、事務２名から成ります。リニアックによる外部照射の他、高精度放射線治療としては、孤立性肺癌を始め、脳転移、脊椎転移、オリゴ転移などに対する体幹部定位放射線治療（Stereotactic body radiotherapy: SBRT）、主に頭頸部癌と前立腺癌を始め、限局性の癌に対する強度変調放射線治療（Intensity-modulated radiation therapy: IMRT）を行っております。また、子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療（Image-guided brachytherapy: IGBT）や、前立腺癌に対する高線量率組織内照射を行っています。なお、連携病院の医師による粒子線治療に関する専門外来も開設しています（要予約。治療は連携病院で行います）。

□ 特徴・特色

放射線治療の対象疾患は幅広く、あらゆる種類および進行度の悪性腫瘍に対して、根治的または緩和的に治療を行うことが出来ます。根治的には、放射線単独あるいは薬物療法と組み合わせて治療を行います。特に頭頸部癌、食道癌、子宮頸癌、前立腺癌、膀胱癌、皮膚癌、悪性リンパ腫などでは、臓器を温存して根治を目指すことが可能です。手術の補助療法として術前または術後に放射線治療を行うこともあります。緩和的な例としては、骨転移の除痛・骨折予防・神経圧迫の除圧、脳転移の症状改善、気道狭窄の解除、腫瘍出血の止血など、最小限の副作用で症状を和らげることができます。

高精度放射線治療では、治癒率の向上と共に、有害事象の少ない治療を目指しています。高精度放射線治療には前述のSBRT、IMRT、IGBTなどがあります。早期肺癌のSBRTでは、病巣のみに集中して最短で４回/４日間（通常照射では30～35回/６～７週間）の照射を行い、高齢・合併症などで手術に向かない患者さんでも安全かつ手術に匹敵する高い治療効果が期待できます。前立腺癌のIMRTでは、直腸・膀胱にあたる線量を制御しつつ、病巣に対してはより高線量を投与することが可能で、通常照射よりも治療成績の向上が期待できます。子宮頸癌に対するIGRTは、従来の腔内照射という照射方法において、CTとMRIを用いて治療計画を行っています。従来法よりも正確に腫瘍・腸管・膀胱の照射線量が把握できるため、安全かつ効果的に治療を行うことが出来ます。

これらの高度な放射線治療を安全に提供できるよう、スタッフが総力を挙げて取り組んでいます。専門資格のある医学物理士・品質管理士・放射線治療専門技師が中心となって患者さん毎の治療計画の検証作業、治療機器の安全・精度管理を行い、また、放射線治療専従の看護師を中心に、患者さんの治療介助、説明、日々の問診、看護ケアを行っています。医師を含め、これらスタッフが常に協力・連携して対応できるよう心がけています。

□ 主な医療設備

リニアック（高エネルギーエックス線治療装置）：
　Elekta社 Versa HD　２台
密封小線源治療装置：
　Nucletron社 マイクロセレクトロンHDR-V3　１台
　脳定位放射線治療装置：Elekta社 ガンマナイフ
治療計画装置：
　日立Pinnacle　４台、RayStation　２台
　Elekta社 Monaco　１台、
　Nucletron社 Oncentra　１台
治療計画用CT：
　キヤノンメディカルシステムズ社Aquilion LB　１台
治療計画用MRI：
　キヤノンメディカルシステムズ社VantageOrian　１台

□ スタッフ

氏名	職名	専門医	主な専門領域
江島（えじま）　泰生（やすお）	教授・センター長	放射線治療専門医・がん治療認定医	放射線治療全般、造血器腫瘍
小西（こにし）　圭（けい）	助　教	放射線科専門医	放射線治療全般
佐々木（ささき）理栄（りえ）	助　教		放射線治療全般
村上（むらかみ）　昌雄（まさお）	特任教授（非常勤）	放射線治療専門医	粒子線治療
田口（たぐち）　千藏（せんぞう）	非常勤	放射線治療専門医	放射線治療全般

医学物理士2名、診療放射線技師8名、看護師3名、事務2名

□ 診療体制

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
江　島 小　西	江　島 村　上 （粒子線外来、第2,4週、要予約） 佐々木	小　西 江　島 （PMのみ） 佐々木	小　西 田　口（非常勤） 江　島 （PMのみ） 佐々木	江　島 小　西 佐々木	機器メンテナンスのため休診

血液浄化センター

センター長　藤乗（とうじょう）　嗣泰（あきひろ）

外来受付電話番号　0282-87-2182

□ 診療内容

●慢性腎不全・急性腎不全に対する血液透析および腹膜透析
●自己免疫疾患、神経筋疾患（重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、ギランバレー症候群）、劇症肝炎･肝不全、類天疱瘡、血管炎に対する血漿交換
●免疫吸着療法（SLE, 悪性関節リウマチなど）
●LDL吸着療法（家族性高コレステロール血症・巣状糸球体硬化症・閉塞性動脈硬化症）、直接血液吸着（DHP）
●顆粒球吸着療法（過敏性大腸炎,クローン病など）
●薬物中毒に対する血液浄化療法
●腹水濾過濃縮再静注療法（CART）
●シャントトラブルに対するカテーテルインターベンション

□ 特徴・特色

●慢性腎臓病患者の血液透析（HD）導入や慢性維持透析患者の合併症治療中の維持透析を行なっています。
●急性腎不全・急性腎障害の治療、高カリウム血症、溢水・尿毒症肺などの緊急血液透析あるいは持続的血液濾過透析（CHDF）、難治性うっ血性心不全に対する限外濾過法（ECUM）を緊急時に対応しています。
●2023年度の慢性維持透析導入患者数は90件で、急性血液浄化療法を含めると141名の導入があり、関連透析施設と連携しています。
●透析室25床で、2023年に9,398回の血液浄化療法を行っています。
●血漿交換療法、選択的血漿交換療法、免疫吸着療法、顆粒球吸着療法、直接血液吸着療法を積極的に行っています。
●腹水濾過濃縮再静注療法（CART）を肝硬変や癌性腹膜炎の難治性腹水から細菌や細胞を除去し、アルブミン消失を防ぐ治療を行なっています。
●腹膜透析の導入および腹膜透析外来を行っています。

腹膜透析（PD）導入と管理

連続携行式腹膜透析（CAPD）あるいは夜間に機械が透析液を自動的に交換する自動腹膜透析（APD）の導入を行なっています。

腹膜透析外来

月曜日：高橋知里、原田慎也、海賀安希子
木曜日：佐藤由佳、内田麻友

経皮的バスキュラーアクセス拡張術（VAIVT）
200～250例/年

□ スタッフ

血液浄化センターに関与している腎臓・高血圧内科のスタッフ

氏名	職名	専門分野
頼（らい）　建光（たてみつ）	教　授	腎臓全般、総回診
藤乗（とうじょう）　嗣泰（あきひろ）	教　授	腎臓全般、腎炎・ネフローゼ、高血圧
本多（ほんだ）　勇晴（たけあき）	准教授	心臓超音波検査
平尾（ひらお）　潤（じゅん）	講　師	血液透析管理、AKI、CKD管理
内田（うちだ）　麻友（まゆ）	助　教	血液透析管理、腹膜透析管理
海賀（かいが）安希子（あきこ）	助　教	血液透析管理、AKI、CKD管理

氏名	職名	専門分野
佐藤（さとう）　由佳（ゆか）	助　教	血液透析管理、CKD管理
荒川（あらかわ）　春奈（はるな）	助　教	血液透析管理
高橋（たかはし）　知里（ちさと）	医　員	血液透析管理、AKI、CKD管理
原田（はらだ）　慎也（しんや）	医　員	血液透析管理、AKI、CKD管理
大平（おおひら）　健弘（たけひろ）	非常勤	腹膜透析手術、ブラッドアクセス管理
永瀬（ながせ）　秋彦（あきひこ）	非常勤	腹膜透析手術、ブラッドアクセス管理

脳卒中センター

センター長　竹川（たけかわ）　英宏（ひでひろ）

外来受付電話番号　0282-87-2198（脳神経内科外来）

□ 診療内容

当センターでは急性期脳卒中（脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作、くも膜下出血）の疑いがある患者さんを少しでも早く診察、治療を開始するために、2018年4月に設置されました。

急性期脳卒中の初期対応や鑑別はもちろん行いますが、特に超急性期脳梗塞に対してrt-PAによる血栓溶解療法やカテーテルによる機械的血栓回収療法を行います。

□ 診療体制

当センターの専従医師は2名（脳神経内科兼務）ですが、数名の脳神経内科の医師が兼務として従事しています。超急性期脳卒中疑い患者さんが搬送された時は、脳卒中センター医師および脳神経内科の医師が救命救急センター・集中治療センター医師とともに初期対応にあたります。

脳梗塞の超急性期で治療が安全にできると判断した場合は、速やかにrt-PAによる血栓溶解療法を行います。またrt-PAの有効性が乏しい患者さん、rt-PAが出来ない患者さんで、適応があると判断した場合は、脳卒中センターまたは脳神経外科の医師によるカテーテルを用いた機械的血栓回収療法を施行しています。

脳出血の患者さんの場合は、脳神経外科とともに手術適応の判断を行います。また、くも膜下出血の患者さんは速やかに脳神経外科による治療を開始します。

脳卒中はいつ発症するかわかりません。このため、24時間、365日対応できるよう、脳卒中センター専用のPHSを用いて脳卒中センター医師、脳神経内科医師にいつでも連絡が取れる体制を整えています。

急性期脳卒中は入院治療が必要です。ご入院される病棟は脳卒中ケア・ユニット、救命救急センター・集中治療センター病棟、脳神経内科病棟、脳神経外科病棟などのうち、最も適切な病棟および診療科で入院治療を行います。

□ 治療および成績

2023年の急性期脳卒中（救命救急センター・集中治療センター単独治療例除）は553例で、内訳は虚血性脳卒中が400例、出血性脳卒中が150例、脳静脈閉塞症が3例でした。虚血性脳卒中は一過性脳虚血発作（画像陰性）が19例、ラクナ梗塞47例、branch atheromatous disease5例、アテローム血栓性脳梗塞/脳塞栓症70例、大動脈原性脳塞栓症9例、心房細動による心原性脳塞栓症120例、奇異性脳塞栓症15例、その他の心疾患による脳塞栓症23例、頚動脈・脳 動脈解離8例、大動脈解離5例、感染性心内膜炎7例、原因不明（複数の原因）・塞栓源不明21例、その他（がん、血液疾患など）51例と、様々な病型の虚血性脳卒中を診療しました。また、脳内出血は118例、くも膜下出血は32例でした。

2023年の脳梗塞に対する超急性期治療数（再灌流療法）は84例（rt-PA静注療法単独41例、機械的血栓回収療法単独24例、rt-PA静注療法と機械的血栓回収療法併用19例）でした。残念ながら当院搬送時にすでに大きな脳梗塞が見られ、治療による出血の危険が高く、通常の急性期治療となる患者さんもいらっしゃいましたが、7割以上の患者さんは再灌流療法で後遺症なし、またはごく軽度の後遺症のみ（日常生活制限なし）まで改善されました。症状などによっては発見から4.5時間以内にrt-PA静注療法が、発症から24時間以内に機械的血栓回収療法が施行できますが、一刻も早く治療を開始することが何より重要です。脳卒中が疑われたら1秒でも早くご連絡いただければと思います。

□ 特徴・特色

当センターには日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医、日本神経学会認定神経内科専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医が勤務しています。脳卒中は様々な神経の症状が出現しますが、脳卒中以外の脳神経内科疾患の鑑別にも速やかに対応が可能です。加えて、一部の脳卒中は頭痛を訴えることがありますが、脳卒中以外の頭痛の鑑別にも専門医が力を発揮します。

また脳卒中の診療にはCTやMRI、シンチグラムなどの画像検査に加え、様々な超音波検査が行われます。当センターには日本超音波医学会の超音波専門医・指導医、日本脳神経超音波学会認定検査士も勤務しており、高度な超音波診断による速やかな脳梗塞の原因検索が可能です。

□ その他

当センターは基本的に救急対応のため外来診療は行っていません。平日、急性期脳卒中の疑いのある患者さんのご連絡は、脳神経内科外来までお願いいたします。脳神経内科外来より当センター医師にすぐに連絡が入るよう体制を整えています。

当センターには（一社）日本脳卒中学会の栃木県担当委員責任者、（公社）日本脳卒中協会の専務理事・同栃木県支部長が勤務しています。日本脳卒中協会栃木県支部、日本脳卒中学会の一次脳卒中センター、一次脳卒中センター・コア施設に加え、当院は「脳卒中・心臓病等総合支援センター」であり、診療、患者さん・ご家族の支援、相談、啓発など、様々な活動をしています。

糖尿病センター

センター長　薄井（うすい）　勲（いさお）

副センター長　飯嶋（いいじま）　寿江（としえ）

外来受付電話番号　0282-87-2196

□ 診療内容

糖尿病診療では医師のみならず、看護師・栄養士などのコメディカルスタッフとのチーム医療が欠かせません。また、三大合併症と呼ばれる網膜症・腎症・末梢神経障害など糖尿病に特徴的な合併症や、虚血性心疾患・脳卒中・閉塞性動脈硬化症・足壊疽など多彩な合併症に対する診療を専門とする部門との密接な連携が必要です。当センターは、これら関連部門および専門スタッフとの密接な連携をとりながら、包括的な糖尿病のチーム医療を実践するため、2018年5月に設置されました。

当センターを兼ねる内分泌代謝内科の外来では毎日4～5名の医師が糖尿病の診療にあたっており、年間約3,000人の糖尿病患者さんに受診いただいております。糖尿病センター設立後はそれまでと比べて地域よりご紹介いただく患者さんの数が増える傾向にあります。特に1型糖尿病や糖尿病合併妊娠、重症慢性合併症をお持ちの方など、専門的な治療を必要とする患者さんを積極的にご紹介いただいています。

一方病棟では、教育・血糖コントロールや合併症の治療目的等の入院診療を行っています。これまで年間1,000名弱（主科　約400名、兼科　約600名）の入院患者さんの診療実績があります。なかでも、ケトアシドーシスなど急性合併症に対する緊急入院を、栃木県内外から数多く受け入れています。

当センターの治療方針として、食事療法・運動療法を重視した上で、最新かつ最適な薬物療法の選択に努めています。特に糖尿病センター設立後は、インスリンポンプや持続血糖モニタリング（CGM）を使用される患者さんの数が増加しています。また、2019年4月からは管理栄養士による栄養指導の予約枠がそれまでの3倍になり、より適切な患者指導の実践が可能になりました。それを受けて、透析予防の指導を受ける患者さんの数も著しく増加しました。さらに、2019年9月からは、糖尿病合併症をまとめて評価する特殊外来「合併症外来」を新設しました。

糖尿病合併症の診断や治療には、眼科、腎臓・高血圧内科、心臓・血管・循環器内科、脳神経内科など関連診療科と密接な連携を持ち、診療にあたっています。これら関連診療科およびコメディカルスタッフとは定期的にミーティングを持ち、診療における問題点などを話し合っています。また、年2回メディカルスタッフ向けの講演会を開催し、最新の情報を得る機会を設けています。

□ 特徴・特色

特徴的な診療として、インスリン持続皮下注入（CSII＋SAP）療法の診療経験を多く持ち、1型および妊娠中の糖尿病患者さまを中心に良好な診療成績を得ています。また、持続血糖モニタリング（CGM）は、県内有数の導入数を持ちます。さらには、外来や病棟に体組成計（InBody）、内臓脂肪計（Dual scan）、動脈硬化検査機器（CAVI・ABI測定）、血管内皮検査機器（FMD、EndoPAT）を常備し、診療に役立てています。

「合併症外来」は、外来通院中の糖尿病患者さんの合併症をまとめて検査・評価する目的で設置されました。毎週水曜の午後、完全予約制で診療を行っています。当院通院中の患者さんばかりでなく、近隣のご施設に通院中の糖尿病患者さんも対象としています。

また、当院通院中の糖尿病患者さんの会（きすげ会）の活動に加え、1型糖尿病患者さんの支援を積極的に進めています。

□ スタッフと専門領域

日本糖尿病学会専門医　12名：麻生好正、薄井 勲、城島輝雄、飯嶋寿江、登丸琢也、櫻井慎太郎、相良匡昭、二井谷隆文、若松 翔、井上有威子、平尾菜々子、田沼 大

日本糖尿病学会指導医　5名：麻生好正、薄井 勲、城島輝雄、飯嶋寿江、登丸琢也

糖尿病認定看護師　2名、日本糖尿病療養指導士（CDE-J）14名、および関連診療科医師の協力を得て、包括的な診療にあたっています。

□ その他

糖尿病センターは、糖尿病診療に関する院内の連携と地域の病診連携を推進することを目標にしています。さらに充実した糖尿病の診療を提供していけるよう努力してまいります。

ロボット手術支援センター

センター長　水島（みずしま）　恒和（つねかず）

□ 設立の経緯

外科手術は病気の治療に大きな成果を上げることができますが、患者さんの体にメスを入れるということは体への負担となります。そのため、手術の安全性を向上させたり、手術侵襲を低減する技術が進んできています。当院では、2012年10月より前立腺がん手術に対してロボット支援手術を導入し、現在ではロボット２台体制で肺・心臓・消化器・泌尿器・婦人科領域で合計450件/年間の実績があります。病院全体としてロボット支援手術を更におし進めていくために、2018年6月に当センターを設立いたしました。

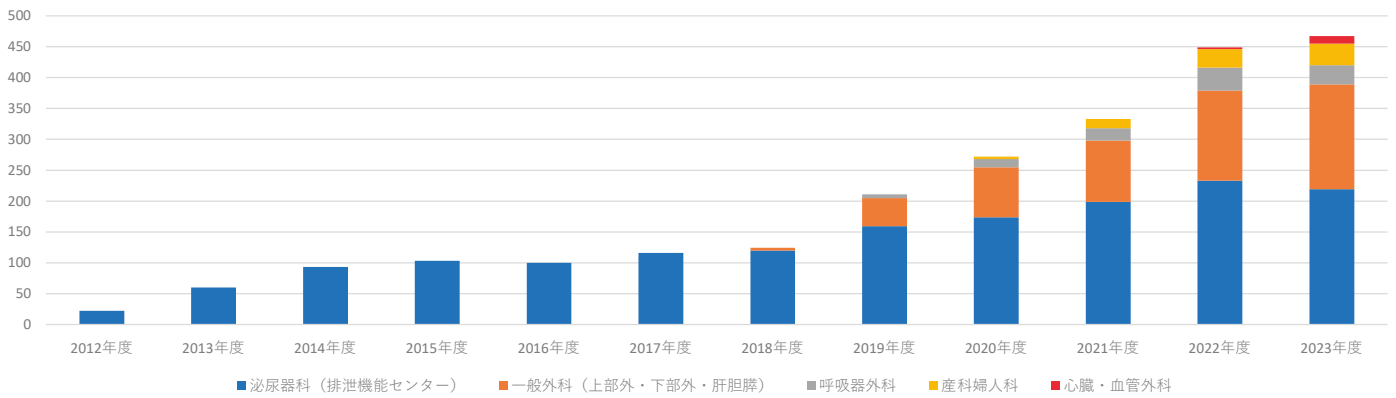
□ 診療内容

2024年４月時点で保険適応となる術式は、前立腺がん、腎臓がん部分切除、肺切除、縦隔腫瘍、食道がん、心臓弁形成、弁置換、胃切除、大腸切除、肝切除、膵切除、膀胱がん、子宮切除、膣断端挙上、咽喉頭悪性腫瘍などとなります。現在、泌尿器科、心臓・血管外科、上部消化管外科、下部消化管外科、肝・胆・膵外科、呼吸器外科、産科婦人科でロボット支援手術を開始しており、その他の各診療科においても準備が出来次第、順次開始する予定でいます。ロボット支援手術をご希望の方は、手術を受ける際に各診療科にお問合せください。

□ 今後の展望

現在のロボット支援手術はダビンチXiを用いていますが、各社の新しいロボット開発が進んでおり、今後さらに外科手術の概念が変わっていく可能性を秘めています。ロボット手術支援センターでは、最新式の機器導入を進め、最先端の医療を提供していきたいと考えています。

□ ダヴィンチ手術件数　年度別推移状況



スポーツ医学センター

センター長　種市（たねいち）　洋（ひろし）

外来受付電話番号　0282-87-2207

□ 特徴・特色

スポーツ医学センターは、トップアスリートからスポーツ愛好家までスポーツを行う全ての方を対象に医学的・科学的にサポートを行い、スポーツ医学領域の最先端の医療を提供するために2021年10月1日に開設されました。

スポーツ医学センターには、整形外科、外科、内科、リハビリテーション科など多くの診療科が参画しています。そのため、連携が取りやすく多角的にサポートすることが可能であり、スポーツ選手・愛好家に「迅速かつ最先端の医療」を提供できることが大きな特徴です。

□ 診療内容

当センターでは、スポーツに伴う全ての怪我および障害を診療いたします。また、メンタルに関する悩みについても対応いたします。

●対象疾患
膝靭帯・半月板損傷、外傷性軟骨損傷、足関節靭帯損傷、反復性肩関節脱臼、投球障害肩、野球肘、テニス肘、手関節捻挫、頭頸部顔面外傷、外傷性胸腹部損傷

□ 診療体制

診療時間　月-土曜 9:00～ 16:00（受付時間8:30～ 13:00）
プロ・アスリートは365日、24時間体制で対応しています。

診療方法
- ●当センターは紹介状の有無に関わらず診療いたしますが、持参いただかない場合は初診時選定療養費をご負担いただきますので、紹介状を持参いただくことをお勧めします。
- ●診療の問い合わせはスポーツ医学センター外来受付（整形外科）にお電話ください。
  受付電話　0282-87-2207（平日9:00-16:00）
- ●曜日によっては後日専門外来を受診していただく場合がありますので、事前にお問い合わせください。

□ 主な医療設備

- ●高気圧酸素療法：アスリートの障害を対象に行なっております。予約制ですので事前にお問い合わせください。
- ●多血小板血漿（PRP）治療：2023年10月から開始しました。アスリートの靭帯損傷や関節障害に対して行っています。

リプロダクションセンター

センター長　鈴木（すずき）　達也（たつや）

副センター長　木島（きじま）　敏樹（としき）

外来受付電話番号　0282-87-2242

□ 診療内容

リプロダクションセンターでは挙児を希望される患者さんに対する診療を担当します。具体的には以下の3つです。

・不妊症診療
・不育症診療
・がん・生殖医療

□ 特徴・特色

2015年に獨協医科大学埼玉医療センターにリプロダクションセンターが開設され、多くの患者さんが妊娠・出産されています。そして獨協医科大学病院にもリプロダクションセンターが開設され、2024年1月から診療を開始しました。

女性は年齢を重ねるごとに妊娠が難しくなっていきます。近年の晩婚化により不妊について心配されるご夫婦の割合は増加傾向です。また、不妊症の原因は男性側が約50%、女性側が約65%であり（重複あり）、女性側だけでなく男性側も診察し不妊症の原因を明らかにしたうえで治療を行うことが重要です。リプロダクションセンターは泌尿器科医と産婦人科医が協力し、短期間で妊娠していただけるよう診療いたします。

男性側の診療としては触診、超音波検査、精液やホルモン検査などを行います。精索静脈瘤手術や無精子症に対する顕微鏡下精巣精子採取法（MD-TESE）も行える体制を構築しています。

女性側の診療としては、タイミング療法や人工授精などの一般不妊治療と、採卵・胚移植といった生殖補助医療を行います。検査は超音波検査、ホルモンなどの血液検査、子宮卵管造影検査といったスクリーニング検査に加え、先進的な検査も行います。子宮筋腫や良性卵巣腫瘍がある場合、妊娠を考慮した治療方針を立て必要に応じ手術も行います。その他、他科疾患を合併している場合には各科と、また不妊治療後の妊娠に際しては産科と連携し診療いたします。

この他、妊娠はするが継続できない不育症の診療や、若年がん患者さんに対するがん治療前の妊孕性温存を目的とした精子や卵子、受精卵の凍結保存も行います。

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医
鈴木（すずき）　達也（たつや）	教　授	女性不妊症	日本産科婦人科学会　産婦人科専門医・指導医 日本生殖医学会　生殖医療専門医・指導医 日本がん・生殖医療学会　がん・生殖医療ナビゲーター 栃木県医師会　母体保護法指定医 栃木県難病指定医（産婦人科）
木島（きじま）　敏樹（としき）	講　師	男性不妊症	日本泌尿器科学会　泌尿器科専門医・指導医
室井（むろい）　美樹（みき）	胚培養士	生殖補助医療	日本卵子学会　生殖補助医療胚培養士
髙橋（たかはし）　美紀（みき）	胚培養士	生殖補助医療	日本卵子学会　生殖補助医療胚培養士

○患者さんをご紹介いただく際の時注意事項について
＊原則、夫婦二人で受診して下さい。初診・再診ともに完全予約制です。
事前に下記電話番号までお問い合わせ下さい。（予約電話対応時間：14時～16時）
＊健康保険証（原本）・戸籍謄本・住民票・紹介状を必ず持参して下さい。

アレルギーセンター

□ アレルギーセンターについて

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患は、国民の２人に１人が罹患しているといわれており、アナフィラキシーショックなどの重篤な症状を引き起こすこともあります。

そして、アレルギー疾患の患者さんの多くは同時に複数のアレルギー疾患を患うため、症状も限局的なものから全身に渡るものなど様々です。

近年、検査法の進歩や新しい治療法の開発により、アレルギー疾患の診療内容も大きく変わり総合的な治療が望まれております。

このような現状を踏まえ、アレルギー疾患に対する高度で専門的な治療を提供するため、各診療科の垣根を超えた「アレルギーセンター」を平成30（2018）年８月に開設いたしました。当センターでは、関連する診療科の医師とコメディカルスタッフが緊密な連携を図りながら、患者さんに最適な治療を協力して提供いたします。

更に、平成30（2018）年10月１日付で栃木県から「アレルギー疾患医療拠点病院」の指定を受け、アレルギー疾患に対する診療連携体制の構築や人材育成等、地域の医療機関や患者会等とも連携しながらより良いアレルギー治療の提供体制を確立するとともに、アレルギー疾患に関する情報の発信を行って参ります。

□ 受診方法

15歳以下の患者さんについては小児科外来が窓口となりますが、16歳以上の患者さんについては、症状に応じて各診療科外来が窓口となります。

（15歳以下の患者さん）

小児科	TEL:0282-87-2201

（16歳以上の患者さん）

呼吸器・アレルギー内科	TEL:0282-87-2197
皮膚科	TEL:0282-87-2200
リウマチ・膠原病内科	TEL:0282-87-2506
総合診療科	TEL:0282-87-2054
麻酔科	TEL:0282-87-2213
耳鼻咽喉・頭頸部外科	TEL:0282-87-2210
眼科	TEL:0282-87-2209
口腔外科	TEL:0282-87-2212

□ 各科における対象疾患一覧

診療科	対象疾患
小児科	小児アレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）、口腔アレルギー症候群、アレルギー性結膜炎、ハチアレルギー　他）
呼吸器・アレルギー内科	喘息、花粉症、食物アレルギー、ハチアレルギー、アナフィラキシーショック、薬剤アレルギー
皮膚科	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、膠原病、その他皮膚アレルギー疾患
リウマチ・膠原病内科	膠原病及び類似疾患、好酸球増多症
総合診療科	アナフィラキシー及び緊急を要するアレルギー性疾患及びアレルギー性疾患も疑われる症例
麻酔科	周術期のアナフィラキシー
耳鼻咽喉・頭頸部外科	好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、好酸球性中耳炎、喉頭アレルギー、花粉症
眼科	眼瞼炎、結膜炎、春期カタル、角膜潰瘍、白内障、網膜剥離など
口腔外科	口腔粘膜関連疾患（pollen-food allergy syndrome（PFAS）、口腔扁平苔癬関連疾患）、口腔金属アレルギー

センター長　吉原　重美

副センター長　井川　健

副センター長　中山　次久

外来受付電話番号　0282-86-1111（代表）

□ スタッフと対象疾患一覧

担当科	氏名	職名	対象疾患
小児科	吉原　重美	特任教授	小児アレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）、口腔アレルギー症候群、アレルギー性結膜炎、ハチアレルギー他）
	福島啓太郎	講　師	
	加藤　正也	講　師	
	宮本　学	講　師	
	藤田　雄治	講　師	
	中山　元子	助　教	
	梶谷さゆり	助　教	
	中山　幸量	助　教	
	吉原　伸弥	助　教	
	湯浅　尚紀	助　教	
	土屋　喬義	非常勤講師	
	菅野　訓子	非常勤講師	
	福田　啓伸	非常勤講師	
	安藤　裕輔	非常勤講師	
	阿部　利夫	非常勤助教	
	髙柳　文貴	非常勤助教	
	寺師　義英	非常勤助教	
呼吸器・アレルギー内科	仁保　誠治	教　授	成人アレルギー疾患（喘息、花粉症、食物アレルギー、ハチアレルギー、アナフィラキシーショック、薬剤アレルギー）
	清水　泰生	教　授	
	武政　聡浩	准教授	
	新井　良	講　師	
	池田　直哉	助　教	
	曽田　紗世	助　教	
	奥冨　泰明	助　教	
	奥冨　朋子	助　教	
	中村　祐介	助　教	
	丁　倫奈	助　教	
	内田　信彦	助　教	
	清水　悠佳	助　教	
	塚田　梓	助　教	
	塚田　伸彦	助　教	
	矢澤　那奈	助　教	
	吉田　亘輝	助　教	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

担当科	氏名	職名	対象疾患
皮膚科	井川　健	教　授	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、その他皮膚アレルギー疾患
	林　周次郎	准教授	皮膚アレルギー疾患一般
	野老　翔雲	講　師	アトピー性皮膚炎
	石川　里子	助　教	皮膚アレルギー疾患一般
	神永　朋子	助　教	皮膚アレルギー疾患一般、薬疹
	手束　友紀	助　教	皮膚アレルギー疾患一般
	池上　徹栄	助　教	アトピー性皮膚炎
	森　智史	助　教	皮膚アレルギー疾患一般
リウマチ・膠原病内科	池田　啓	教　授	膠原病及び類似疾患 好酸球増多症
	有馬　雅史	教　授	
	倉沢　和宏	特任教授	
	前澤　玲華	准教授	
	新井　聡子	講　師	
	田中　彩絵	助　教	
	宮尾　智之	助　教	
	菊地　梓	助　教	
	長谷川杏奈	助　教	
	檜山　知佳	助　教	
	吉田　雄飛	助　教	
	相澤　有紀	助　教	
総合診療科	志水　太郎	教　授	アナフィラキシー及び緊急を要するアレルギー性疾患及びアレルギー性疾患も疑われる症例
	廣澤　孝信	講　師	アナフィラキシー及び緊急を要するアレルギー性疾患及びアレルギー性疾患も疑われる症例
麻酔科	髙橋　良享	講　師	周術期のアナフィラキシー
耳鼻咽喉・頭頸部外科	中山　次久	教　授	好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎
	今野　渉	講　師	アレルギー性鼻炎
	柏木　隆志	講　師	好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎
	常見　泰弘	助　教	好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎
	阿久津　誠	助　教	好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎
眼科	外来担当医		眼瞼炎、結膜炎、春期カタル、角膜潰瘍、白内障、網膜剥離など
口腔外科	外来担当医		口腔粘膜関連疾患 ・pollen-food allergy syndrome（PFAS） ・口腔扁平苔癬関連疾患 ・口腔金属アレルギー

放射線部

部長　曽我（そが）　茂義（しげよし）
技師長　杉岡（すぎおか）　芳明（よしあき）
看護師長　生井（なまい）　郁子（いくこ）

外来受付電話番号　0282-87-2177

□ 主な業務

放射線部は病院の中央部門であり、各診療科からの依頼で業務を行います。放射線科医、診療放射線技師、看護師、事務員で構成されており、曽我茂義放射線科教授が部長を兼務しています。診療放射線技師の業務は、装置と技術を駆使して、正確な診断や治療のための画像検査を行ったり、医学的知識に基づいて診療に役立つ画像を作成すること。また放射線治療において病変部に正確な照射ができるようにすることです。看護師は、放射線部で行われる検査の介助や、患者さんの様子を観察し安全に検査が行えるよう配慮しています。

事務部門は、受付で患者さんの応対や検査の予約の受付などに当たっており、放射線科医による画像診断報告書作成の補助も行っています。

放射線部を診療内容から分けると、放射線診断部門、血管造影部門、核医学部門、放射線治療部門の四部門となります。

放射線診断部門は、本館２階中央放射線部、内視鏡部、泌尿器科分室、新棟１階救急部、教育医療棟１階MRI室に分かれており、手術室および各病棟における放射線検査についても放射線部の管理下にあります。放射線部所属の診療放射線技師が診療各科の医師の依頼に基づいて撮影業務を行います。出来上がった画像は放射線科医が読影して報告書を作成します。また画像診断やカテーテルの技術を用いたIVR（画像ガイド下治療）、心臓や脳など様々な疾患のカテーテル治療も多数行われています。

核医学部門はRI棟２階にあり、検査に用いる放射性医薬品を医師により注射された後、患者さんの体内から発生する放射線をガンマカメラという特殊な装置で計測し、コンピュータを用いて画像を作ります。その画像を放射線科医が読影して報告書を作成し、担当医へ報告しています。

放射線治療部門は、RI棟１階にあり、放射線治療専門医が外来診療に当たっています。他科や他院から依頼を受けた患者さんに、コンピュータを用いて治療計画を行い、高エネルギー放射線発生装置（リニアック）と密封小線源治療装置（RALS）を用いて、治療を行っています。他にガンマナイフと呼ばれる脳定位放射線治療装置が設置されており、脳神経外科医と連携し治療を行っています。

□ 主な医療施設

高度先進医療を行う大学病院の中央部門として、常に質の高い画像や検査・治療を提供することを目指しています。

放射線診断部門については、最新の磁気共鳴装置（MRI）5台（1.5装置２台、3T装置３台）、エックス線コンピュータ断層撮影装置（CT）4台（320列CT1台を含む）、血管造影装置５台（うち１台ハイブリッド手術室、うち１台IVR-CT室）、エックス線透視装置６台、骨塩定量装置１台の他、一般撮影装置や特殊撮影装置を配備しており、全ての画像がデジタル化されサーバーに保存されています。特殊撮影装置には、乳房撮影装置、歯科撮影装置、長尺撮影装置などがあります。乳房撮影装置は3D対応で回転して撮影可能なため微小石灰化の分布も捉えやすくなります。歯科撮影装置はコーンビームCT対応であり、歯の周囲を詳細に診断可能です。当院は、全国的にも充実した設備を有する大学病院の一つと数えられています。年間検査人数は、エックス線撮影が131,014人、造影検査が10,168人、エックス線CT検査が48,953人、MRI検査が18,871人でした。

核医学部門については、ガンマカメラが３台配備されており、年間検査人数は1,992人でした。

放射線治療部門については、高線量率小線源治療（RALS）、ガンマナイフ（2023年４月更新、新装置稼働）リニアック装置２台が配備されており、年間新規患者数683人、延べ患者数は13,811人でした。（2023年度集計）

病理部

部長　石田（いしだ）　和之（かずゆき）

技師長　石川美保子（いしかわみほこ）

外来受付電話番号　0282-87-2180

□ 診療内容

病理診断は診療のいわば羅針盤であり、良質な医療を提供するためには質の高い病理部門の存在が必要不可欠です。病理部では、病理診断を行うための組織標本と細胞標本を作製します。組織標本は病理診断科にて専任の病理専門医が検鏡し組織診断を行います。細胞標本は国家資格を有する細胞検査士がスクリーニングし、専任の細胞診専門医が細胞診断を行います。

炎症性疾患や変性疾患、代謝疾患、循環器疾患など様々な疾患が病理診断の対象となりますが、病理診断が最も威力を発揮するのは悪性腫瘍の確定診断です。主治医は病理診断に基づき、患者さんの治療方針を決定します。

また、治療の甲斐なく不幸にして亡くなられた患者さんの診断の適否、治療の有効性の評価、思わぬ合併症や見落としの有無を検証するための病理解剖も病理部で行われます。

□ 特徴・特色

○　適切で高品質な組織・細胞標本の迅速な作製、厳密な標本管理と情報管理（2021年7月、ISO15189取得）
○　熟練の細胞検査士と細胞診専門医による細胞診断（各々ダブルチェック体制）
○　各種の免疫組織化学的検索（酵素抗体法、蛍光抗体法）と先進の遺伝子学的解析を取り入れた高度な技術
○　バイオハザード（感染症）対策がなされた剖検室
○　充実した電子顕微鏡室と超微形態診断

□ スタッフ

常勤13名（臨床検査技師11名、技術員2名）、非常勤4名（臨床検査技師3名、事務員1名）が業務にあたっています。病理部内でのローテーションによる個々人の能力とスキルアップのための系統的職業訓練体制を構築し、効率のよい業務体制を目指しており、積極的に各種資格の取得に挑戦しています。

○　資格（2024年4月現在）
細胞検査士　8名
国際細胞検査士　4名
認定病理検査技師　7名
二級病理検査技師　9名
有機溶剤作業主任者　5名
電子顕微鏡2級技師　1名
遺伝子分析科学認定士　2名
特定化学物質及び四アルキル鉛作業主任者　6名

□ 業務内容

円滑な病理診断（組織診断、細胞診断、術中迅速診断）および病理解剖を行うために、以下の業務を行っています。
○　組織診断、細胞診断、術中迅速診断の標本作製
○　細胞診のスクリーニング（悪性細胞・異常細胞の検出、疾患の推定など）
○　出張細胞診
○　免疫組織化学
○　電子顕微鏡標本作製および診断補助
○　遺伝子解析
○　病理解剖の介助
○　検体、パラフィンブロック、標本の管理
○　病理に関わる薬品の管理（ホルマリンなど）
○　病院における病理業務全般の精度管理

手術部

部　長　千田（ちだ）　雅之（まさゆき）
副部長　福田（ふくだ）　宏嗣（ひろつぐ）

外来受付電話番号　0282-87-2181

□ 特徴・特色

高度先端手術・近代設備が整った中で、麻酔科を主体として24時間体制で、あらゆる手術に対応しています。

手術部スタッフは、特定機能病院としての使命を果たすべく努力をしています。

□ 手術内容

当院の手術室は、定時手術を1日35件前後、そのほか緊急手術を24時間体制で受け入れています。2023年度の手術件数は9211件でした。

手術室は18室（2階手術室14部屋、1階手術室4部屋）あり、ハイブリッド手術室、ロボット支援手術室2室（内視鏡支援手術ロボット2台）、クリーンルーム、陰圧室を完備しています。

手術を行っている科は、消化器外科、小児外科、脳神経外科、心臓・血管外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、産婦人科、口腔外科、皮膚科、形成外科･美容外科、乳腺センター、麻酔科（ペインクリニック）、心臓・血管内科/循環器内科、消化器内科、腎臓高血圧内科などです。

当院の手術室では、最新鋭の顕微鏡、内視鏡や手術支援用ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた低侵襲かつ難易度の高い手術、ハイブリッド手術室を利用した血管内手術（弁置換術、ステント留置術、コイル塞栓術等）、院内に併設された総合周産期母子医療センターと協力した産科及び新生児手術、各種移植手術（生体肝移植、肺移植、膵・腎移植、角膜移植、骨髄移植など）などが行われ、実績を重ねています。患者さんの入院期間を短縮し、早期復帰へとつなげられることを目指しています。

□ 麻酔医

麻酔医は27名、うち16名が麻酔専門医です。

合併症の多い患者さん、リスクの高い患者さんの麻酔にも十分対応できる体制です。また、最新の治療に対応した麻酔管理が提供できるように積極的な活動を行っています。更に、各種神経ブロック、経静脈的自己調節鎮痛法（iv-PCA）などを用いて、積極的に手術後の痛みの緩和の取り組みを行っています。

□ 薬剤師

現在、10名の薬剤師を配置しています。手術室では一般薬、毒薬、麻薬などの適正使用の確認と管理をしています。また、腰椎麻酔の準備や無菌的ivPCAの準備や調整を行い、手術部をサポートできるよう業務拡大を図っています。

□ 看護体制

看護スタッフは2024年4月、看護師は76名、そのうち特定行為看護師は7名、看護補助1名。患者さんが24時間安全に手術を受けられることを目標に、知識、技術を習得するために勉強会、講習会を企画し学会や研究会などに積極的に参加しています。現在、特定行為看護師も活動の場を広げており、更に質の高い看護が提供できるよう人材育成に取り組んでおります。

□ 臨床工学技士

心臓・血管外科手術などに必要な人工心肺装置の操作（体外循環技術認定士6名）をはじめ自己血回収装置等のＭＥ機器に対応するために28名の臨床工学技士を配置し、当直体制により24時間の対応を行っております。

□ 放射線技師

手術部当番の技師を配置し、手術中レントゲン撮影や造影、ハイブリッド手術室業務など24時間の対応を行っております。

□ 安全管理

1）患者誤認防止のために、患者さんが手術室に入室の際はフルネームで名乗って頂き、担当の看護師が確認しています。
2）執刀に当たっては、執刀医が患者さんの名前、病名、術式を麻酔医や看護師に伝達し取り違えがないことを確認した後に手術を開始しています。
3）体内異物残存が発生しないため、タイムアウトを実践しています。
4）リストバンドを活用し、輸血に関する事故防止に努めています。
5）点滴を接続する際は、患者さんの名前を声に出し誤投薬を防止しています。

□ 目標

1）医療事故防止に努め患者さんが安心して手術が受けられる。
2）標準予防策を遵守し感染防止に努める。
3）患者さんが安心して手術に臨めるよう、環境を整える。

以上の目標を達成すべくスタッフ一同で努力しています。

時間外救急部

部　長　豊田（とよだ）　茂（しげる）

外来受付電話番号　0282-87-2199

□ 特徴・特色

時間外救急部は当院に救命救急センターが開設されたのを受けて設置されました。大学病院全科の協力のもとに、正規の診療時間を過ぎ時間外に受診される救急患者さん（重症患者さんは救命救急センターに依頼）の診療を当直医師が中心に迅速に行っています。

□ 診療概要

1．診療時間

月曜日～土曜日　16：30～翌日　8：30
日曜日・祝日・第3土曜日・年末年始・
開学記念日4／23
9：00～翌日　9：00

2．診療体制

① 大学病院の当直担当医師（内科系合同当直3名、外科系1～2名、小児科平日1名、土・日2名）が中心となって行っております。
② 紹介状持参で診療科が指定されている場合は当該科の当直または、宅直医が対応いたします。宅直もあるため受診前には必ず電話連絡をください。
③ 当院において特殊疾患で継続治療中の患者さんについては、当該科当直医師が診療する場合もあります。
④ 15歳以下（中学生まで）の小児については小児科当直医師が診療に当たります。
⑤ 脳神経外科、乳腺科、小児外科、口腔外科、皮膚科、放射線科、眼科、形成外科・美容外科、心臓・血管外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、精神神経科の診療は曜日によって宅直制となっております。
⑥ 精神神経科領域の初診患者さんについては疾患の性格上、診療の対象から除外されております。また、精神科医師は宅直制となっておりますので、対応できない場合があります。
⑦ その他救命救急センターから依頼された二次救急対象患者さんの診療を行っています。
⑧ その他のスタッフは看護師2～3名、事務員3名、放射線技師3名で行っています。

3．主な診療設備

〔診療施設〕
一般診療室：2室
処置室：1室
産科婦人科診察室：1室
小児科・内科診察室：2室
耳鼻科・口腔外科診察室：1室
眼科診察室：1室
点滴及び観察室：1室（小児2床・成人5床）
陰圧診察室：2室

〔検査室・機器〕
全身CT室：1室
X線撮影室：1室
超音波診断装置
心電図等診断機器
各種呼吸器循環モニター
耳鼻科内視鏡
眼科用スリット
電気的除細動

輸血部

部　長　今井（いまい）　陽一（よういち）

外来受付電話番号　0282-87-2187

□ 特徴・特色

1．安全で適正な輸血を推進する。
2．高度先進医療である造血幹細胞移植を強力にサポートする。
3．輸血専任臨床検査技師が24時間体制で輸血検査に対応する。
4．認定施設
　1）日本適合性認定協会　ISO15189認定
　2）日本輸血･細胞治療学会　認定医制度指定施設
　3）日本輸血･細胞治療学会　臨床輸血看護師制度指定研修施設
　4）日本輸血･細胞治療学会　認定輸血検査技師制度指定施設
　5）日本輸血･細胞治療学会　輸血機能評価認定制度(I&A制度)

□ 主な業務

1．輸血関連検査：血液型（ABO・Rhなど)、不規則抗体、交差適合試験
2．日赤血受注及び供給と管理：赤血球製剤、血小板製剤、新鮮凍結血漿製剤
3．日赤血の調整：洗浄、置換、分割操作、クリオプレシピテート製剤作製
4．自己血輸血：貯血式自己血採血及び管理、希釈式自己血、回収式自己血管理
5．造血幹細胞移植関連検査：CD34、CD3
6．造血幹細胞移植関連業務：血液型不適合骨髄移植時の血漿除去、血球除去、自己・同種末梢血幹細胞採取及び管理、臍帯血幹細胞の管理、ドナーリンパ球の採取

□ 構成人員

医師２名（兼任２名、日本輸血･細胞治療学会認定医１名、細胞治療認定管理師１名、自己血輸血責任医師１名)、臨床検査技師10名（専任10名、日本輸血･細胞治療学会認定輸血検査技師６名、細胞治療認定管理師５名)、看護師２名（兼任２名、臨床輸血看護師２名、自己血輸血看護師２名、アフェレーシスナース１名)、事務員１名で構成される。

夜間休日は輸血専任臨床検査技師１名が宿日直により24時間体制で輸血検査に従事する。

□ 医療設備

血液型・不規則抗体・交差適合試験自動検査機器（オーソビジョン)、血液成分分離装置（スペクトラオプティア)、クームス検査用血球自動洗浄装置（Himac　MC405)、血液製剤保存庫、血液バッグ用大型遠心機、血小板保存用振盪機、コールドベンチ、超低温フリーザー（－150℃)、臍帯血保存用液体窒素槽、クリーンベンチ、BD FACSLyric™ フローサイトメーター、電子カルテシステム（富士通)、輸血部門システムBTDX2（オーソ)、血液製剤保存庫温度管理システム（CHINO)

□ 2022年度業務実績

日赤赤血球製剤	：	17,654単位
日赤血小板製剤	：	35,585単位
日赤凍結血漿製剤	：	11,716単位
自己保存血採血	：	231単位
末梢血幹細胞採取	：	28件
骨髄赤血球除去	：	2件
骨髄血漿洗浄	：	1件

□ 将来の展望

1．造血幹細胞の増殖（特に臍帯血造血幹細胞)
2．遺伝子治療、再生医療に向けた基礎的検討

遺伝・ゲノム診療部

部長　成瀬（なるせ）　勝彦（かつひこ）

外来受付電話番号　0282-86-1111（代表）

□ 遺伝カウンセリング外来について

最近の遺伝子解析技術の進歩と遺伝病に関する情報の蓄積には目覚ましいものがあり、以前はわからなかった遺伝病の原因が検査でわかる場合も増えてきました。遺伝病の中には、早くから対策することにより発病を遅らせたり、症状を軽くしたりできるものがあることがわかっており、患者さんご本人やご家族の病気が遺伝によるものなのか、というご質問も受けるようになりました。遺伝子検査の結果に関する問い合わせも増えています。当診療室は、ご本人やご家族の不安や悩みに寄り添いながら、遺伝に関する正確な情報提供を行い、ご本人やご家族が自らの力で問題解決の糸口を見つけだす手助けのために遺伝カウンセリング（完全予約制）を実施しております。

□ 受診時間

受診は完全予約制です。お申し込みいただいたのち、担当医師を決定のうえ、こちらから受診日をご連絡いたします。

(1) 成人疾患：ゲノム診断・臨床検査医学講座にご連絡ください（平日09:00 ～ 16:00）
(2) 小児疾患：小児科外来にご連絡ください。詳しくは獨協医科大学病院小児科臨床遺伝部門のHPをご覧ください。
https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/ped/specialty/inh.html
(3) 産婦人科疾患：産科婦人科外来にご連絡ください。受診日は火曜日または木曜日となります。
（新型出生前遺伝学的検査【NIPT】についても産婦人科外来にお問い合わせください）

※各分野ともメールでの事前相談も受け付けます。（診療は行いません）。アドレスはお問い合わせください。

□ 料金

遺伝カウンセリングは原則として自由診療で行います。（保険適用となる遺伝学的検査が実施される場合などによっては、保険診療となります。）
初診時10,000円（税抜き）
再診時30分　5,000 円（税抜き）
※以降は、30分毎に5,000円（税抜き）加算
カウンセリング終了後に会計でお支払いいただきます。
なお、お問い合わせ、ご予約には料金はかかりません。
当日までキャンセルも可能です。

□ 受診の対象となる方

主に以下のような疾患ですが、ご本人（妊娠中の出生前診断ではご夫婦・パートナー同伴）が受診されることを原則といたします。

なお、他医療機関から当院を受診の際には原則として紹介状が必要です。紹介状をお持ちでない方でも対応可能な場合もありますが、その場合、正確な情報提供や各診療科との連携が困難になる可能性があります。

1．成人疾患（小児・周産期を除く）

内分泌疾患：家族性甲状腺腫、先天性甲状腺機能低下症、甲状腺ホルモン不応症、家族性高カルシウム血症、ギッテルマン症候群、腎性尿崩症、家族性高HDL血症、カウデン症候群など
家族性腫瘍：遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）、リンチ症候群、多発性内分泌腫瘍症（MEN1、MEN2）など
結合組織性疾患：Marfan症候群、Ehlers-Danlos症候群など
神経・筋疾患：脊髄小脳変性症、Becker型筋ジストロフィーなど
循環器疾患：QT延長症候群、肥大型心筋症など
眼科疾患：網膜色素変性症など
ミトコンドリア病：MELASなど

2．小児疾患

数多くの染色体異常症や先天奇形症候群、皮膚疾患、骨系統疾患、神経筋疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、その他の先天性疾患について、専門的遺伝知識と経験をもとに検査および診断を行います。

また、個々の症例で遺伝カウンセリングを行うとともに、疾患の診断に基づく健康管理を定期的に行い、家族の相談に応じます。さらに、それぞれの疾患の合併症についての診療を、小児科の他部門および他科（外科・眼科・耳鼻科・皮膚科・整形外科・脳神経外科など）との連携の元で行います。

詳しくは獨協医科大学病院小児科臨床遺伝部門のHPをご覧ください。
https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/ped/specialty/inh.html

3．産科・婦人科（周産期、生殖、婦人科腫瘍）

21 ／ 18 ／ 13トリソミーなどの出生前診断、胎児疾患、習慣流産、原発性無月経、遺伝性腫瘍など。新型出生前遺伝学的検査【NIPT】の日本医学会認定施設です。

各種部門のご案内

医療安全推進センター

センター長　福田（ふくだ）　宏嗣（ひろつぐ）
医療安全管理部門 部門長　辰元（たつもと）　宗人（むねと）
新規医療技術等管理部門 部門長　千田（ちだ）　雅之（まさゆき）

□ 医療安全推進センターについて

獨協医科大学病院では、特定機能病院として高度かつ専門的な医療を提供しています。

2016年6月より、「特定機能病院の承認要件の見直し」（「医療施行規則の一部を改正する省令：2016年厚生労働省110号・6月10日付」厚生労働省）により、特定機能病院における医療安全対策が強化されました。当センターでは、院内の医療安全・推進を目的とした「医療安全管理部門」と、高度かつ専門的な医療を安全に提供することを目的とした「新規医療技術等管理部門」の２部門を設置しました。従来から取り組んできた医療安全対策をより具体的に、部署を超えて組織的な取り組みとして活動しています。

□ 医療安全管理部門　部門長　辰元　宗人

特徴・特色

組織横断的に院内の安全管理を担う部門であり、医療安全管理に関する教職員の意識向上や指導に日々取り組んでおります。また、事故発生時の対応状況の確認や原因究明を行うとともに、問題点を分析し再発防止を立案する等の活動を積極的に行っております。

主な業務内容

1. 医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、セイフティマネージャー委員会、RRS委員会、報告書確認対策チーム及びIC委員会の資料、議事録の作成と保管、その他委員会の庶務に関すること。
2. 医療安全対策の推進に関すること。
3. インシデント・アクシデント情報の収集に関すること。
4. 死亡事例の情報収集に関すること。
5. 医療安全管理研修会の開催に関すること。
6. 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に関すること。
7. 医療安全対策に係る連絡調整に関すること。
8. 医療安全対策院内広報誌の発行に関すること。
9. その他医療安全対策に関すること。

スタッフ

医療安全管理部門長（医師・学内教授）１名（専従）
専従
医療安全管理者３名（看護師２名、薬剤師１名）、看護師１名、事務４名、参事２名
兼務
医師（学内講師１名、学内助教１名）、薬剤師１名、臨床工学技士１名、放射線技師１名

□ 新規医療技術等管理部門　部門長　千田　雅之

特徴・特色

獨協医科大学病院では、特定機能病院の医療安全管理部門の体制強化として、2017年3月1日より新規医療技術等管理部門を開設しました。当部門では高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否を決定し、実施後の状況をモニターする部門として、医師・薬剤師・看護師・臨床工学技士等の院内スタッフが協力して、患者さんへ高度な医療を安全に提供できる様に取り組んで参ります。また高難度新規医療技術等の導入プロセスにかかる３つの評価委員会（未承認新規医薬品評価委員会、未承認新規医療機器評価委員会、高難度新規医療技術評価委員会）を設置しております。

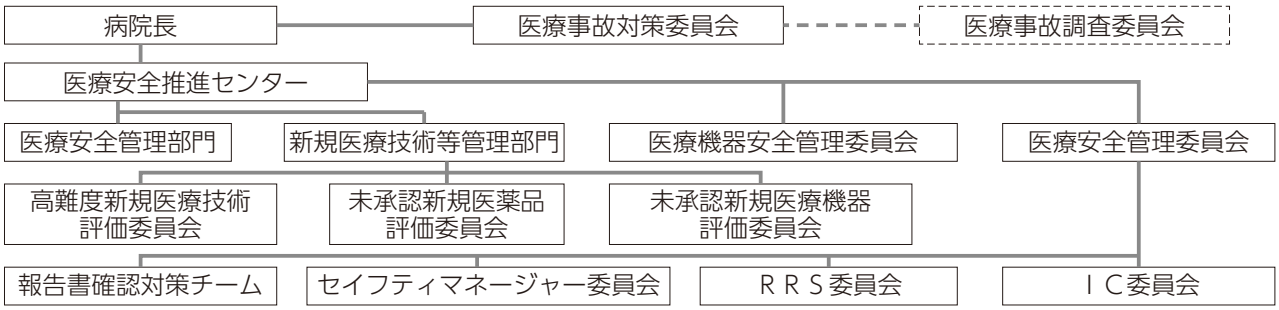
主な業務内容

1. 診療科等の長からの申請の内容を確認するとともに、各評価委員会に対して当該新規医療技術及び未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求めること。
2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該新規医療技術及び未承認新規医薬品等の提供の適否、使用条件等について決定し、その結果について申請を行った診療科等の長に審査結果報告書により報告すること。
3. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合に、診療録等の記録を確認すること。
4. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況の確認を行うこと。
5. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等の適否、使用条件等について決定した時及び診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容について医療安全推進センター長を介して病院長に報告すること。
6. 評価委員会における審査資料及び議事録並びに申請を行った診療科等の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも５年間保存すること。
7. 評価委員会に係る庶務に関すること。

スタッフ

新規医療技術管理部門長（医師・教授）　１名（兼務）
専従
医療安全管理者３名（看護師２名、薬剤師１名）、事務４名
兼務
薬剤師１名、医師（学内准教授１名）、
臨床工学技士１名、看護師（手術部）１名

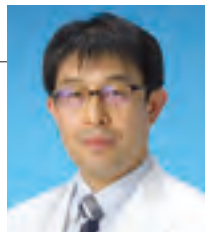
医療安全管理体制（組織図）



感染制御センター

センター長　仁保（にほ）　誠治（せいじ）

副センター長　福島（ふくしま）　篤仁（あつひと）



電話番号　0282-87-2418

□ 診療内容

病院全体の感染対策の中心となる部署として活動し、2018年度から医師、薬剤師を中心に抗菌薬適正使用支援チームを立ち上げ、感染症診療におけるコンサルテーション機能を充実させました。入院、外来を問わず、各職種の専門性を活かし、感染症全般的の相談に随時応じています。(電話：内線3019)

□ 特徴・特色

＜院内感染対策＞

感染制御センターは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種のメンバーで構成されており、各職種の専門性を活かし、医療関連感染の発生状況の把握や、問題点の分析、改善、防止に取り組んでいます。

＜抗菌薬適正使用支援チーム＞

適切な検査に基づいた、抗菌薬、抗真菌薬の使用方法などを提案しています。治療薬物モニタリング（TDM）については、薬剤部、臨床検査センターとも連携して充実した体制を整えています。

＜職員健康対策＞

健診センター、医療安全推進センター、労働安全衛生委員会などと協力し、健康管理、労働安全衛生対策にも取り組んでいます。

＜地域への貢献＞

病院内にとどまらず、所轄の県南健康福祉センター等行政機関および連携する病院と地域の感染症対策の推進にも取り組んでいます。

＜教育・研究活動＞

先端医療を担う大学病院の役割として、感染症に関わる様々な領域の研究に取り組んでいます。学内では熱帯病寄生虫病学講座、微生物学講座、ゲノム診断・臨床検査医学講座、看護学部、さいたま医療センター感染制御部とも共同研究を行っています。

患者さんに安心して高度な医療を受けて頂くため、当院では感染防止策に特に力を入れており、感染症に強い病院を目指して業務にあたっています。

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門領域および主な認定資格
福島（ふくしま）　篤仁（あつひと）	副センター長 講　師	感染症専門医・指導医、ICD、感染症診療一般、HIV診療、細菌学
前澤（まえざわ）　玲華（れいか）	准教授	ICD、総合内科専門医、リウマチ専門医
福島啓太郎（ふくしまけいたろう）	講　師	小児の感染症、免疫不全における感染対策（小児科と兼任）、感染症専門医・指導医、 抗菌薬適正使用認定医制度指導医、抗菌薬臨床試験指導医、ICD、日本小児感染症学会暫定指導医
仲村（なかむら）　祐子（ゆうこ）	講　師	血液疾患での感染症、感染対策（血液・腫瘍内科）、ICD
別納（べつのう）　弘法（ひろのり）	講　師	ICD、日本泌尿器科学会専門医・指導医、抗菌化学療法認定医、泌尿器科診療
内田（うちだ）　雅俊（まさとし）	准教授	日本内科学会認定内科医、日本救急医学会救急科専門医、救急集中治療
矢澤（やざわ）　那奈（なな）	助　教	呼吸器内科領域
大髙（おおたか）　由美（ゆみ）	助　教	日本内科学会認定医、ICD
加藤（かとう）　正也（まさや）	講　師	小児科専門医/指導医、アレルギー専門医、小児感染症認定医、NICUにおける感染対策

患者さんに安心して高度な医療を受けて頂くため、当院では感染防止策に特に力を入れており、感染症に強い病院を目指して業務にあたっています。

臨床研究管理センター

センター長　豊田（とよだ）　茂（しげる）
臨床研究管理部門 部門長　仁保（にほ）　誠治（せいじ）
治験管理部門 部門長　仁保（にほ）　誠治（せいじ）

電話番号　0282-87-2275

□ 臨床研究管理センターについて

獨協医科大学病院では、特定機能病院として高度先進医療を含む質の高い医療を提供しております。

当院では、2017年3月より臨床研究管理センターを開設しました。当センターでは、疾病の予防・診断・治療法の確立、より良い医療の提供などを目的とした臨床研究を管理する「臨床研究管理部門」と、新薬の開発や承認申請を目的とした治験を管理する「治験管理部門」の2部門で構成され、臨床研究や治験に参加する患者さんの安全性の確保及び人権の保護、適正な実施のための管理・監督を行っております。

医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師等の幅広い職種の院内スタッフが協力し、臨床研究や治験の管理に取り組んでいます。

□ 臨床研究管理部門

当院では、当局が規制する指針や法律等に従い臨床研究を行っております。一般の方や外部有識者を交えた臨床研究審査委員会では、倫理的及び科学的観点から審議が行われます。この委員会は毎月定期的に開催され、新たな臨床研究のみならず、実施中の臨床研究についても審査を行います。

臨床研究管理部門は、当院の各部門で行われている臨床研究を一元管理する部門です。新たに臨床研究を行う場合は、研究計画書や説明・同意文書等をもとに、委員会事務局として必要な手続きを行います。また、患者さんが安心して参加できるよう相談窓口として質の高い医療の提供に努め、当院における臨床研究が適正に行われるよう管理・監督を行っています。

□ 治験管理部門

当院では、医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP）に従い、倫理的及び科学的観点から、信頼性のある治験を行っております。一般の方や外部有識者を交えた治験審査委員会では、倫理的及び科学的観点から審議が行われます。この委員会は定期的に開催され、新たな治験のみならず、実施中の治験についても審査を行います。

治験管理部門は、当院の各診療部門で行われている治験を一元管理する部門です。新たに治験を行う場合は、治験実施計画書や説明・同意文書等をもとに、委員会事務局として必要な手続きを行います。また、新しい薬や医療機器を開発する臨床試験において、患者さんが安心して参加できるよう治験についての説明や来院時のフォローアップを行い、患者さんの安全と人権の保護を確保する相談窓口として質の高い医療の提供に努め、当院における治験が適正に行われるよう管理・監督を行っています。

□ 患者さんへ

薬や医療機器について

薬や医療機器ができるまでには、長い期間と莫大な費用が費やされます。効き目がありそうだからといってすぐに使えるものではありません。効き目や安全かどうかは、患者さんに使っていただいて最終的な評価が行われます。現在、私たちが使っている薬や医療機器は、患者さんをはじめとした多くの方のご協力によってできたものです。

良い医療を後世に残すためにも、皆さまのご協力をお待ちしております。

参加にあたって

臨床研究や治験に参加するためには、参加基準や募集人数が決まっているため、ご希望いただいても参加見合わせになる場合があります。参加を希望される方、または詳細についてお知りになりたい方は、臨床研究管理センターまでご連絡ください。

担当する医師やCRC（コーディネーター）が、参加を希望される患者さんやご家族に説明し、スケジュール調整も含めてご相談をお受けします。臨床研究や治験に関する質問や心配事は、どのようなことでもかまいませんのでご相談ください。

看護部

部　長	小松（こまつ）　富恵（とみえ）
副部長	佐藤（さとう）　君江（きみえ）
副部長	吉田（よしだ）　晃子（あきこ）
副部長	乾（いぬい）　寛美（ひろみ）
副部長	小森富美子（こもりふみこ）
副部長	寺﨑（てらさき）　順子（じゅんこ）

電話番号　0282-87-2395

□ 特徴・特色

病院の理念をもとに、
看護部の理念
○看護倫理の徹底
○高度で良質な看護の提供
○看護の専門性の追求
○地域の特性にあわせた継続看護の充実
○信頼される看護職員の育成
の５項目を掲げています。
さらに、看護部の求める看護師像として、
1．看護の専門性を追求できる看護師
2．高度先進医療に対応できる看護師
3．安全管理ができる看護師
4．組織人としての役割遂行ができる看護師
5．感性豊かな看護師
の５つを目標にしています。それをもとに年度初めに目標を設定し、各部署と個人で、アクションプランを立てて目標に向かって活動しています。

□ 教育体制

『共育』「共に育ち、共に育てる」 という教育理念のもと下記に示す教育目標を立案しました。新人看護職員指導者が中心となり、責任をもって新人看護師をサポートし、部署内スタッフ全員で成長を見守るチーム支援型教育です。３病院共通の看護職キャリア開発システムをもとに、レベル別、役割別に院内教育プログラムを立案し、キャリアアップできるよう支援しています。

□ 教育目標

1. 根拠に基づいた看護実践のための教育
2. 倫理性を踏まえた看護実践のための教育
3. 自己啓発とキャリアアップのための教育
4. 共に育つ教育

□ 看護職員

2024.4.1現在 1,387名
（有資格者　1,231名　看護補助者156名）派遣者含む
専門看護師５名　認定看護師29名　特定看護師39名

□ 看護単位

○一般病棟25病棟　救命救急センター　こども医療センター　精神科　ICU　NICU　MFICU 内視鏡センター　手術部　超音波センター　化学療法部　放射線部　血液浄化センター　入退院支援センター　外来など全44部署に看護師を配置しています。
○医療・看護支援室では、専門・認定・特定看護師を配置し、専門的・横断的活動を行い質の高いケアをタイムリーに提供しています。

□ 看護提供方式

固定チームナーシングを中心に、一部機能別看護も取り入れています。

□ 看護記録

目標達成型看護計画を使用しています。疾患別セット症状別セットを用いてアセスメントし記録の充実と効率化につなげています。

□ DX活用推進

患者さんの安全保持とスタッフの業務の効率化につながる機能としてスマートベッドシステムの導入やスマートフォンによる音声入力ができる機能を取り入れ、看護記録時間の削減につなげています。
さらに、標準的な看護手順を確認・習得するためのオンラインツールとしてナーシングスキルを導入しており、いつでもどこでも学べる環境を整えています。

□ 各種委員会活動

教育、記録クリニカルパス、看護基準、セイフティマネージャー、ICT、栄養サポート（NST）・スキンケア、医療技術取得支援、固定チームナーシング、看護補助者協働推進の9の委員会があり、看護の質の向上に向け、他部門との連携を図りチーム医療にとり組んでいます。

薬剤部

部　長　臼井（うすい）　悟（さとる）
副部長　篠﨑（しのざき）　桂子（けいこ）

電話番号　0282-87-2246

□ 構成人員

薬剤師94名（うちパート1名）、技術員22名（パート15名・出向者7名）、ファーマシーテクニシャン5名から構成されています。薬剤部以外にも薬剤師を配置しており、臨床研究管理センターに4名、感染制御センターに1名、医療安全推進センターに1名勤務しています。

□ 主な業務

薬剤部内では外来調剤、入院調剤（一回量調剤方式）、注射薬供給（個人別一回量払出方式）、薬剤管理指導、入院・外来患者さんの抗がん剤の調製、お薬相談、薬剤鑑別、医薬品情報管理（DIニュース等の発行）、医薬品管理、一般製剤、特殊製剤、無菌製剤、治験薬管理等の業務を行っています。

薬剤部外では手術部、臨床研究管理センター、医療安全推進センター、感染制御センター、入院サポート室、PETセンターに薬剤師を配置して業務を行っています。

□ 特徴・特色

1. 薬学部学生の教育
   薬学教育6年制に伴い、2010年度から11週間にわたる薬学生の長期実務実習を受け入れています。2023年度は13名の学生を受け入れました。
2. 病棟薬剤業務
   1993年4月から業務を開始し、現在専任の薬剤師28名が27病棟で実施しています。入院中の患者さんの持参薬、服薬歴、禁忌、副作用、アレルギー、相互作用等についてチェックを行っています。
   2023年度の実績は、薬剤管理指導件数 40,637件でした。
3. 外来化学療法
   2004年9月より業務を開始し、現在は外来化学療法室に専従の薬剤師10名（入院化学療法兼任）を配置し抗がん剤の無菌調製、レジメンのチェック、副作用のチェック、服薬指導等を行っています。2023年度は延べ10,862名の患者さんに対して無菌調製を行いました。
4. 入院化学療法
   2008年度より、2つの病棟の入院患者さんの化学療法についてレジメンのチェック及び抗がん剤の無菌調製を開始し、2018年7月からは全病棟（全診療科）において休日を含めた通年の抗がん剤調製を行っています。2023年度は延べ8,957名の患者さんに対して無菌調製を行いました。
5. 手術部での業務
   2009年度より手術部に薬剤師を派遣し、一般薬はもとより、麻薬・毒薬・向精神薬などの適正使用を求められる医薬品について厳重な管理を行っています。2021年度からは無菌的ivPCAの調製も行っています。薬剤師10名でチームを編成し、うち1名は専任薬剤師として周術期における薬学的管理を2022年7月から開始するなど、手術部をサポートできるよう業務拡大を図っています。
6. 臨床研究管理センター
   2000年4月に治験管理室が設置され、2017年には治験管理部門及び臨床研究管理部門からなる臨床研究管理センターへの組織化を経て現在に至ります。当センターは、薬剤師4名、臨床検査技師1名、看護師2名、事務担当者5名で構成され、CRC（Clinical Research Coordinator：臨床研究コーディネーター）による支援を図り、治験や臨床研究における倫理性、科学性及び信頼性の確保に努めています。2023年度の新規治験受託件数は20件でした。
7. 医療安全推進センター
   2018年4月より医療安全推進センターに薬剤師を専従として1名配属しています。医療安全推進センターでは院内で報告されたインシデントを薬剤師の知見からも分析することで、より質の高い安全な医療の提供に貢献しています。
8. 感染制御センター
   2018年4月より感染制御センターに薬剤師を配属し、現在はAST専従1名、ICT専任1名で業務を行っています。感染制御センターではASTやICTの一員として活躍しており、抗菌薬のTDMや使用状況、院内の検出菌、消毒薬の使用量を把握することで、抗菌薬の適正使用、院内の感染制御に貢献しています。
9. 入院サポート室
   2019年4月より入院する患者さんの術前中止薬を確認することによって、予定された手術の円滑な実施に貢献しています。
10. PETセンター
   2005年4月にPETセンターがオープンしました。薬剤師6名でチームを編成し、短寿命放射性薬剤〔^{18}F〕FDGの合成と品質管理を担当しています。その他、〔^{11}C〕等を使った研究用PETについても同様の業務を行っています。

今後はチーム医療への参加を強化し、今まで以上にチームで活躍できる薬剤師の育成を目指します。また、院外処方箋を発行することで地域の保険薬局との連携も必要となります。保険薬局と連携、交流を深めることで地域医療の発展にも貢献していきます。

地域連携・患者サポートセンターのご案内

地域連携・患者サポートセンター

□ 地域連携・患者サポートセンターについて

当センターでは、患者さんの入退院の支援や在宅におけるサービス調整、訪問看護の調整などを担当する「入退院・在宅サポート部門」、病気や障がいによって生じる生活上の相談窓口である「医療福祉相談部門」、地域医療機関からの各種照会窓口として「医療連携部門」を設置しており、看護師・医療ソーシャルワーカー・事務員が協働しています。

近年の医療の高度化・複雑化に加え、高齢化・核家族化による患者さんの生活環境の変化に対応すべく、2023年7月に「入退院・在宅サポート部門」（旧：入退院サポート部門）と名称を改め、部門内に「在宅サポート室」を新規設置し、外来通院患者さんの自宅移行支援や訪問看護指示書等の対応を行っています。また、新たに「難病サポート部門」を立ち上げ、栃木県難病医療ネットワーク推進事業の拠点病院として「難病相談」及び、指定難病疾患全般の支援体制を構築いたしました。各々の専門性を活かし、院内スタッフと協力し合い、地域の医療機関、福祉関連施設、訪問看護ステーション等の皆さまとのより円滑な地域連携のネットワーク推進に取り組んでいます。

また、当院での急性期治療を終えた患者さんの転院をスムーズに行うため、『Dokkyo Alliance Clinics & Hospitals (DACH：ダック)』と命名した医療ネットワークを構築し、医療機能の異なる医療機関と更なる連携強化を図っております。令和6年4月時点で42の医療機関様にご賛同いただいており、『顔の見える連携』を目指し、年に一度懇親会を開催しております。

相談業務としては、「患者相談窓口」を設置しており、ご意見・ご要望等をお受けしております。その他、脳卒中後遺症や循環器（心臓・血管）疾患の症状等に悩む患者さん・ご家族のために「脳卒中・心臓病等総合支援センター」での相談も受け付けております。

【組織図】

- 地域連携・患者サポートセンター
  - 医療連携部門　事務員
  - 医療福祉相談部門　医療ソーシャルワーカー　事務員
  - 入退院・在宅サポート部門
    - 入院サポート部門　看護師
    - 退院サポート部門　看護師
    - 在宅サポート部門　看護師
  - 難病サポート部門　難病診療連携コーディネーター（看護師）　難病診療カウンセラー（MSW）
  - 患者相談窓口部門

【DACH参加医療機関】

圏域	参加医療機関数
県北保健医療圏	5医療機関
県西保健医療圏	5医療機関
宇都宮保健医療圏	14医療機関
県東保健医療圏	2医療機関
県南保健医療圏	8医療機関
両毛保健医療圏	4医療機関
県外	4医療機関
合計	42医療機関

センター長　釜井　隆男
副センター長　豊田　茂
医療連携部門長　釜井　隆男　　医療福祉相談部門長　池田　啓
入退院・在宅サポート部門長　豊田　茂　　難病サポート部門　部門長　国分　則人
副部門長　今高　城治

電話番号　医療連携部門 0282-87-2383　医療福祉相談部門 0282-87-2185
入退院・在宅サポート部門　入院サポート室 0282-87-2059　退院サポート室 0282-87-2051
難病サポート部門　0282-87-2051

□ 各部門紹介

医療連携部門

業務内容

医療連携部門では、地域医療の中で大学病院、特定機能病院としての機能や役割を十分に果たすため、また地域社会における医療センターとしての立場を認識し、当院の理念である『連携医療の構築』を積極的に推進することを目指しております。

患者サービスの充実はもとより地域医療・保健・福祉・介護との連携強化のため、地域医療機関からの各種お問い合せに対する事務的サポート窓口として、医療機関等からの様々なお問い合わせに対応し、必要に応じて適切な部署に対応を引き継ぎます。

また、年１回、「ゆうがお地域医療連携フォーラム」を開催し、講演会及び情報交換会を通じて疾患に対する共通認識をもつと共に、地域医療機関とのネットワークや信頼を築くべく『顔の見える連携』の推進に鋭意努力しております。

下記のような時はお問い合わせ下さい

・患者さんの紹介に関するご質問
・当院所定の診療情報提供書のご請求
・ご紹介いただいた患者さんの受診報告（返書）が届かないとき
・患者さんの診療情報提供（病状照会・検査データ等）のご依頼
・地域医療連携パスやとちまるネットに関すること
※その他、当院との連携に関することでしたら何なりとお問い合わせ下さい

対応時間

月～土曜日　8：30 ～ 17：00（休診日を除く）

お問い合わせ
TEL 0282-87-2383（直通）FAX 0282-86-5446（直通）
E-mail　renkei@dokkyomed.ac.jp

【医療機関向け広報】
○DOKKYO MEDICAL SCOPE -獨協の今を識る-

当院でどのような治療を行っているのか、何に力を入れて、診療しているのかを分かりやすくまとめた広報誌を作成しております。詳細は、QRコードにて閲覧可能です。

またYou Tubeにて動画も作成しておりますので、ぜひご視聴下さい。

You Tube チャンネル

Vol.1
ハートセンターで心臓・血管治療に向き合う７人の医師たち

Vol.2
脳卒中センターにおける診断・治療案内

Vol.3
脳神経外科が行うトップレベルの脳腫瘍治療

Vol.4
眼科が提供する最新の手術技術

Vol.5
消化器内科、肝・胆・膵外科が取り組む最新治療

医療福祉相談部門

業務内容

医療福祉相談部門では、病気や怪我により経済的･社会的･心理的問題が生じた患者さんやご家族に、医療ソーシャルワーカー（MSW）が社会福祉の観点から問題を解決できるよう支援しています。

患者さんやご家族が安心して医療が受けられるよう、さまざまな問題に対して迅速かつ満足な解決が出来るよう努力しています。

受付時間

月～土曜日　9：00 ～ 16：30（休診日を除く）

こんな時に活用して下さい

・医療費や経済的問題で悩んでいる
・退院や社会復帰について心配がある
・患者会、家族会等の活動を知りたい
・受診や療養について相談したい
・医療福祉の情報を知りたい
・悩み事、心配事（社会、学校、家庭、人間関係等）を聞いて欲しい

お問い合わせ
TEL 0282-87-2185（直通）FAX 0282-87-2067（直通）

入退院・在宅サポート部門

入院サポート室

業務内容　入院予約のある方に対して

・患者さんが安心して入院していただけるように、入院に関する医療的、精神的、社会的問題を入院前より把握します。
・患者さんの情報を多職種と共有して、患者さんが早期に社会復帰できるよう入院決定後より支援させていただきます。

対応時間

月～土曜日　9：00 ～ 16：00（休診日を除く）

・入院サポート室での面談予定がある方には外来でご案内させていただきます。
・面談では、患者さんの情報を聞かせていただきながら、必要物品、入院病棟での生活などを30 ～ 40分お話しさせていただきます。

＊個人情報は厳守いたします。

お問い合わせ
TEL 0282-87-2059（直通）FAX 0282-87-2073（直通）

退院サポート室

業務内容

退院サポート室では、患者さんやご家族が治療を受けながら安心して生活が送れるよう入院から退院後を見据え、看護師が支援させていただきます。

・退院に関わる療養先の相談や自宅で生活するための在宅サービスの調整
・地域保健・医療・福祉の関係機関や職種と協働し在宅支援を行う継続看護
・難病を含む広範囲な医療・看護相談・専門相談など行っております。

＊業務上知り得た情報は厳守いたします。

ご利用方法

・入院中の方は、病棟専任の退院サポート室看護師や、病棟の医師、看護師にお声かけ下さい。

対応時間

月～土曜日　8：30 ～ 16：30（休診日を除く）

お問い合わせ
TEL 0282-87-2051（直通）FAX 0282-87-2514（直通）

在宅サポート室

業務内容

在宅サポート室では、医療的ケアを必要とする当院外来通院中の患者さんが、住み慣れた自宅で安全に安心して生活できるよう、担当看護師が患者さんやご家族の方と話し合いながら一人ひとりに合わせた必要なサービス調整と支援を行っております。

円滑な在宅医療への移行に向けて、地域の医療機関、訪問看護ステーション、福祉・介護サービス機関と連携しており、在宅療養中の患者さんに関する各種問い合わせや訪問看護ステーションからの訪問看護指示書等の対応も行っております。

対応時間

月～金曜日　9：00 ～ 16：00（土・日・祝祭日を除く）

お問い合わせ
TEL　0282-87-2051（退院サポート室内）
FAX　0282-87-2514

難病サポート部門

業務内容

難病サポート部門では、栃木県難病医療ネットワーク推進事業の一環として、難病診療連携コーディネーター（看護師）・難病診療カウンセラー（MSW）が、難病患者さんやご家族の難病に関する相談に対応しています。相談内容によって、当院及び他の医療機関の医師・ソーシャルワーカー、地域の保健師などと連携を図り支援しております。

難病相談

相談時間

月～金曜日　9：00 ～ 16：00（土・日・祝祭日を除く）

対象疾患

指定難病341疾患（詳細については、「難病情報センター」をご覧ください。

スタッフ

難病診療連携コーディネーター（看護師）、難病診療カウンセラー（MSW）

難病情報センター

主な相談内容

①病気療養について（受診および入院に関する相談、治療や看護、介護、仕事についての不安など）
②退院先や在宅サービスについて（入院・転院先の紹介をしてほしい、利用できる施設が知りたい、在宅療養について不安がある、在宅福祉サービスについて知りたいなど）
③経済的問題について（医療費などの各種制度を知りたい、年金・手当等について相談したいなど）
④就労相談について（就労継続・復職に関する相談）

お問い合わせ
TEL　0282-87-2051（退院サポート室内）
FAX　0282-87-2514

患者相談窓口部門

業務内容

当センターは「患者相談窓口」を設置しております。患者さん・ご家族等に安心して安全な医療を受けていただくために、医療ソーシャルワーカー・医療安全管理者（医師、看護師、薬剤師）・看護師（兼務）・薬剤師（兼務）・事務員（医療安全推進センター・庶務課）がご意見・ご要望等（苦情を含む）をお受けしております。

□ その他の相談等

相談方法

電話又は来訪相談
※来訪相談を希望される際にも事前には電話にて予約をお願い致します。

対応時間

月～金曜日　9：00 ～ 16：00
（祝日、開学記念日、年末年始は除く）

○脳卒中・心臓病等総合支援センター

脳卒中相談窓口
循環器（心臓・血管）相談窓口

手足の麻痺や失語症、高次機能障害等の脳卒中・循環器病の後遺症に悩む患者さん・ご家族が社会生活を円滑に営むため、社会参加・就労支援・経済的支援を含めた支援や福祉サービスについて、医療ソーシャルワーカー（MSW）が社会福祉の観点から対応いたします。

相談内容により、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション専門職など多職種が協力して幅広い支援が可能な体制を取っております。

また、相談支援以外にも脳卒中・心臓病疾患に関するイベント開催（市民公開講座、脳卒中サロン等）や情報提供、啓発活動にも取り組んでいます。

詳細はホームページをご覧ください。

お問い合わせ
TEL　0282-87-2185
FAX　0282-87-2067

診療科案内
2024年8月発行

編集・発行　獨協医科大学病院
地域連携・患者サポートセンター

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
Tel　0282-87-2383

創立50周年記念事業

信頼される医療人と
未来を拓く研究者の育成を目指して

～伝統と創造 新たな挑戦～

(1) 総合教育研究棟（仮称）の新築 ※寄付対象事業

(2) 看護系教室等の増築（2023年6月竣工）

(3) 埼玉医療センターの増築

(4) 日光医療センターの移転新築
（2023年1月移転新築完了）

※寄付対象事業については、学生への教育研究環境整備を
柱とした事業を計画しております。

獨協医科大学病院

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
0282-86-1111（代）

●所在地略図

診療科案内
2024年8月発行

交通アクセス

電車を利用する場合

○東武宇都宮線「おもちゃのまち駅」下車
駅西口よりバスにて3分 徒歩10分
○JR宇都宮線「宇都宮駅」下車 市内バスにて「東武宇都宮駅」まで10分
○「東武宇都宮駅」より「おもちゃのまち駅」下車 JR宇都宮線「石橋駅」からタクシーにて15分

高速道路を利用する場合

○東北自動車道から栃木都賀JCT経由
北関東自動車道「壬生IC」から３分
○東北自動車道「鹿沼IC」から20分

編集・発行　獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター
Tel 0282-87-2383（直通）